男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果のまとめ

平成 19 年 3 月

宇都宮市

もくじ

Ⅰ　調査概要 1

Ⅱ　回答者属性 7

Ⅲ　調査結果概要 11

Ⅳ　調査結果分析 19

1．男女平等意識 21
(1)　男女の地位の平等感 21
(2)　性別役割分担意識 35
2．家庭生活 43
(1)　夫婦役割分担の現状と理想 43
(2)　男性の家事・子育て・介護等への参加 56
(3)　男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと 60
3．社会参画 62
(1)　社会的活動の参加状況と参加意向 62
(2)　社会的活動に参加していない理由 66
4．少子高齢社会 68
(1)　少子化が進んだ理由 68
(2)　豊かな老後のために必要なこと 72
5．職業・就労 78
(1)　女性の働き方の理想と現実 78
(2)　職業と働き方 84
(3)　就業・起業意向 88
(4)　働けない理由 90
(5)　女性の再チャレンジに必要なこと 93
6．男女の人権 96
(1)　健康や身体に対するパートナーの理解 96
(2)　セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験・場所 97
(3)　夫婦・パートナー間での暴力 100
(4)　暴力を受けたときの相談 107
(5)　男女間の暴力を防止するためには何が必要か 111
7．男女共同参画に関する施策 113

Ⅴ　自由記述 115

資料編

Ⅰ　調査概要

1. 調査目的

本調査は，男女共同参画に関する市民の意識とニーズについて，平成 13 年度に実施した調査（「男女共同参画に関する市民意識調査」）からの意識の変化や，社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し，「宇都宮市男女共同参画行動計画（うつのみやパートナープラン）」の見直し及び市が取り組むべき施策の基礎資料とするために実施した。

2. 調査概要

(1) 調査対象

① 対象者およびサンプル数

宇都宮市在住の 20 歳以上の男女　3,000 人

② 抽出方法

平成 18 年 11 月 1 日現在の住民基本台帳より無作為抽出

③ 調査方法

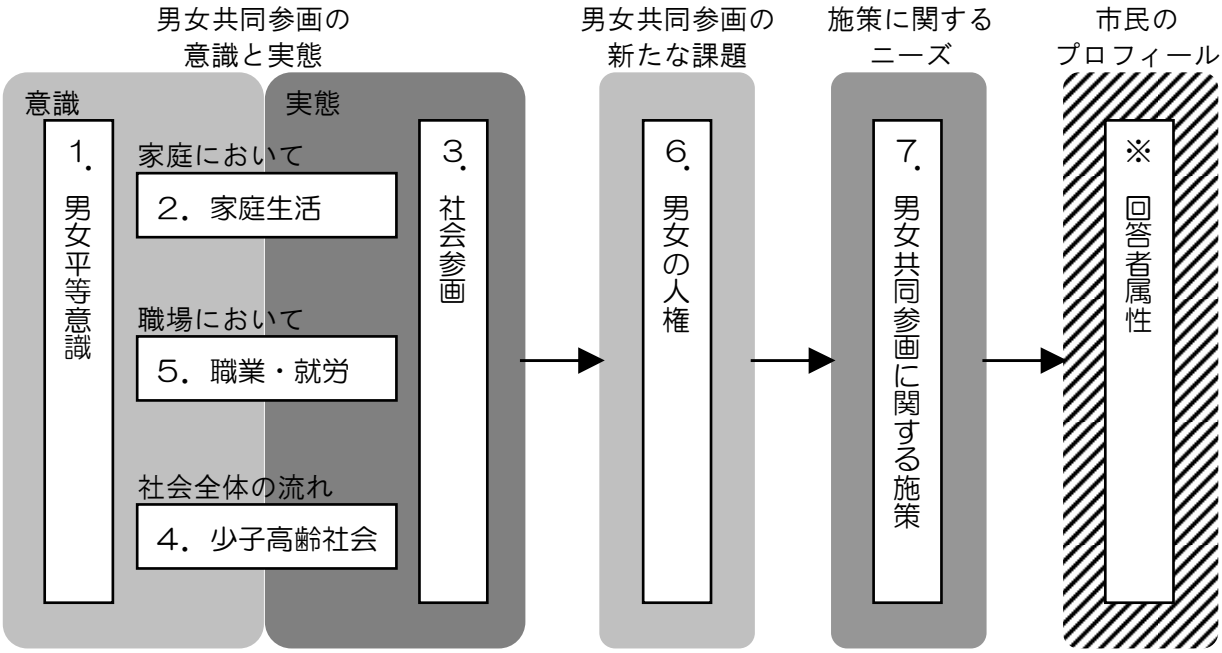
郵送法によるアンケート調査（礼状兼督促状 1 回送付）

④ 調査期間

平成 19 年 1 月 19 日（金）～2 月 9 日（金）

(2) 調査内容

① 調査の構成



② 調査項目および調査内容

調査項目	質問内容
1. 男女平等意識	問 1 男女の地位の平等感
	問 2 性別役割分担意識①“男は仕事，女は家庭”
	問 2 性別役割分担意識②“子どもは男女の区別なく育てる”
2. 家庭生活	問 3 夫婦役割分担の理想と現実
	問 4 男性の家事・子育て・介護等への参加
	問 4-1 男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと
3. 社会参画	問 5 社会的活動の参加状況と参加意向
	問 5-1 参加していない理由
4. 少子高齢社会	問 6 少子化が進んだ理由
	問 7 豊かな老後のために必要なこと
5. 職業・就労	問 8 女性の働き方についての理想と現実
	問 9 職業と働き方
	問 9-1 今後仕事を持ちたいか
	問 9-2 働けない理由
	問10 女性の再チャレンジに必要なこと
6. 男女の人権	問11 健康や身体に対するパートナーの理解
	問12 セクシュアル・ハラスメントだと感じた場所・経験
	問13 夫婦・パートナー間での暴力
	問 13-1 相談の有無
	問 13-2 相談先
	問 13-3 相談しなかった理由
	問14 男女間の暴力を防止するためには何が必要か
7. 男女共同参画に関する施策	問15 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策
	問16 自由回答
※ 回答者属性	Ｆ 1 性別
	Ｆ 2 年代
	Ｆ 3 子どもの有無
	Ｆ 3-1 末子の子どもの年齢

(3) 回収結果

		発　送	回　収		
		サンプル数	有効回収数	有効回収率	無効票（白票など）
全　体		3,000	1,460	48.7%	4
性　別	女　性	1,500	856	57.1%	－
	男　性	1,500	559	37.3%	－
	性別不明	－	45	－	4

《参考》比較・引用調査

本調査の分析にあたり，比較・引用した調査は次のとおりである。調査対象，調査方法等が異なることに留意されたい。なお，調査年はアンケートを実施した年，実施主体の部課名は調査実施当時のものである。

① 男女共同参画に関する市民意識調査

調査実施：宇都宮市市民生活部女性政策課
調査年：平成 13 年
調査対象：宇都宮市在住の 20 歳以上の男女
サンプル数：3,000 人（女性：1,526 人　男性：1,474 人）
調査方法：郵送法
有効回収数（率）：1,393 人（46.4%）
※なお，本報告書では，「前回調査」と表記

② 男女共同参画社会に関する意識調査

調査実施：栃木県生活環境部女性青年課
調査年：平成 16 年
調査対象：栃木県在住の満 20 歳以上の男女個人
サンプル数：1,200 人
調査方法：個別面談聴取法
有効回収数（率）：812（67.7%）
※なお，本報告書では，「栃木県調査（平成 16 年）」と表記

③ 男女共同参画社会に関する世論調査

調査実施：内閣府大臣官房政府広報室
調査年：平成 16 年
調査対象：全国 20 歳以上の者
サンプル数：5,000 人
調査方法：調査員による個別面接聴取
有効回収数（率）：3,502 人（70.0%）
※なお，本報告書では，「内閣府世論調査（平成 16 年）」と表記

Ⅱ　回答者属性

調査結果（図表）の見方

① 回答比率（%）は，小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって，回答比率を合計しても，100%にならない場合がある。

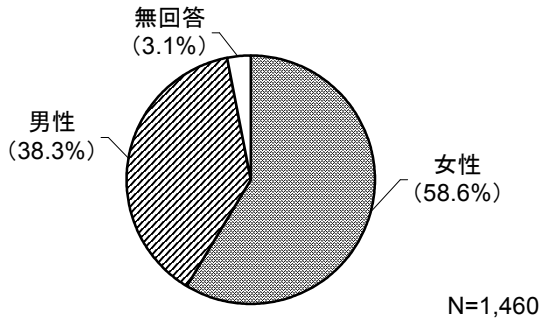
② 複数回答が可能な設問は，回答比率の合計が100%を超える場合がある。

③ グラフに表記される「N＝＊」（＊は数字）は，対象の母数を表す。

1. 男女比

女性 58.6%，男性 38.3%となっている。平成 18 年 12 月 31 日現在の宇都宮市人口における 20 歳以上の性別構成比は女性 50.1%，男性 49.9%となっており，今回調査では女性の割合が高くなっている。

性別【全体】



《参考》
住民基本台帳における
性別人口構成比
（平成18年12月31日現在）

20 歳 以 上 合 計	
367,522人 100.0%	
女　性	男　性
184,199人 50.1%	183,323人 49.9%

2. 年代

【全体】

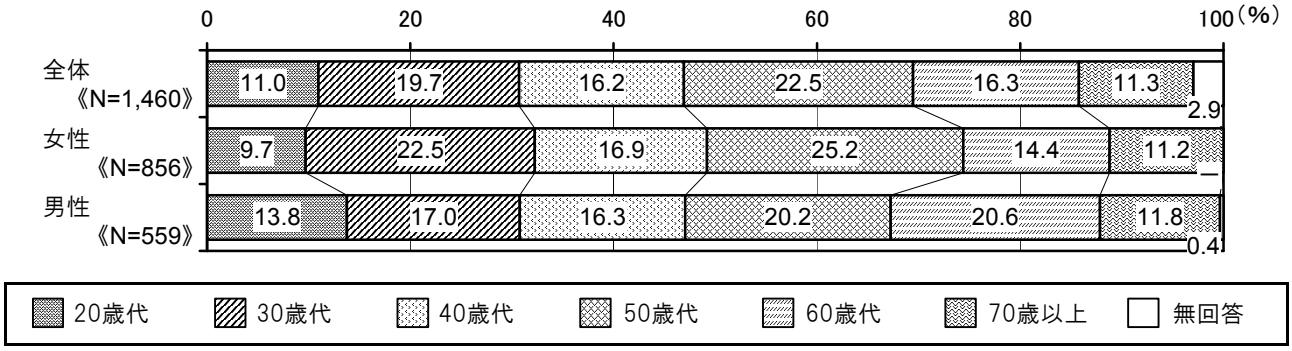
「50 歳代」が 22.5%と最も多く，次いで「30 歳代」19.7%，「60 歳代」16.3%と続いている。

【性別】

女性では，「50 歳代」が 25.2%と最も多く，次いで「30 歳代」22.5%，「40 歳代」16.9%と続いているが，男性では「60 歳代」が 20.6%と最も多く，次いで「50 歳代」20.2%，「30 歳代」17.0%と続いており，男女で順序が異なっている。

平成 18 年 12 月 31 日現在の宇都宮市の 20 歳以上人口構成比と比較すると，本調査の回答者は 30 歳代までの男性の割合が低く，50 歳代女性と 60 歳代男性の割合が高くなっている。

年代【全体・性別】



《参考》住民基本台帳における性･年代別人口構成比　（平成18年12月31日現在）

	20歳以上合計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
女 性	184,199人 100.0%	27,369人 14.9%	35,836人 19.5%	27,456人 14.9%	33,721人 18.3%	26,657人 14.5%	33,160人 18.0%
男 性	183,323人 100.0%	31,327人 17.1%	40,678人 22.2%	29,803人 16.3%	33,930人 18.5%	25,436人 13.9%	22,149人 12.1%

3. 子どもの有無

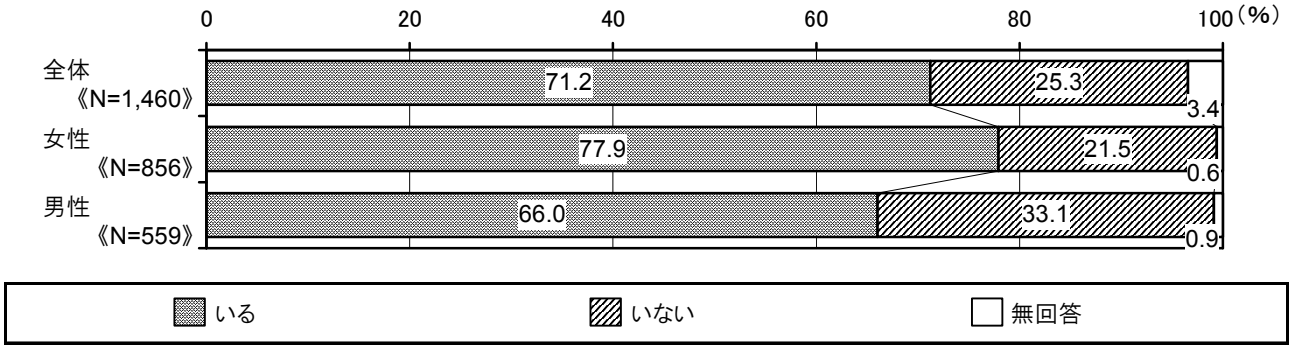
【全体】

「いる」71.2%，「いない」25.3%となっている。

【性別】

「いる」は女性の方が 11.9 ポイント高く，「いない」は男性の方が 11.6 ポイント高くなっている。

子どもの有無【全体・性別】



4. 末子の成長段階

《子どもの有無で，子どもが「いる」の回答者への限定設問》

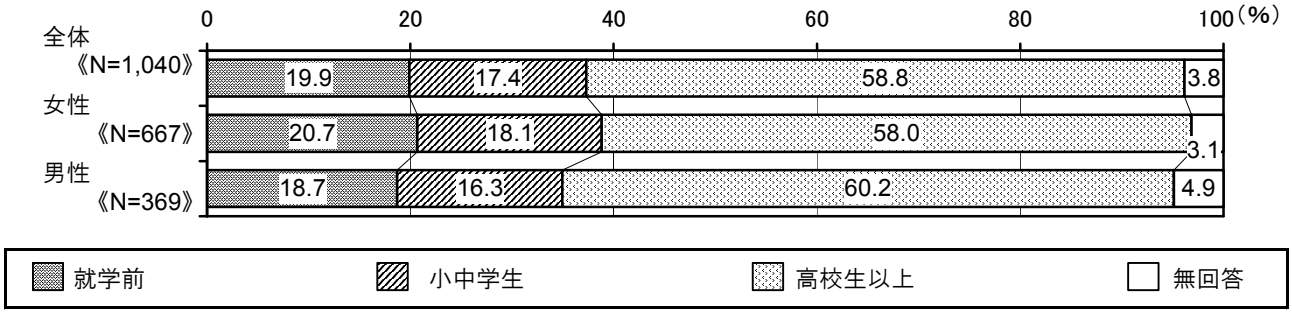
【全体】

「高校生以上」が 58.8%と最も多く，「就学前」と「小中学生」はそれぞれ約 2 割弱となっている。

【性別】

性別による差はほとんどみられない。

末子の成長段階【全体・性別】



Ⅲ　調査結果概要

1. 男女平等意識

性による不平等感の差は男女間で広がる傾向がみられる。また，性別役割分担を明確にすることへの疑問がうかがわれる。

(1) 男女の地位の平等感

7 つの分野の中では，［学校教育の場で］を除く 6 分野で，男女の不平等感が強くなっている。『男性優遇』は，［社会通念・慣習・しきたりなどで］が 8 割弱と最も高く，次いで［政治の場で］7 割弱，［職場で］6 割強と続いている。また，［社会全体で］の『男性優遇』は 7 割強となっており，不平等感が強くみられる。

前回調査との比較

［家庭生活で］と［地域社会で］では，男女とも『男性優遇』が低くなっている。また，『男性優遇』について，女性では，前回より高くなった項目が 6 項目，男性では，前回より低くなった項目が 6 項目となっており，男女の不平等感の差が広がっていることがうかがわれる。

(2) 性別役割分担意識

“男は仕事，女は家庭”という性別役割分担に『賛成』する人は全体の 1 割半ば，『反対』する人は 5 割強を占め，女性の方が反対する人が多い。

“子どもは男女の区別なく育てる”ことに『賛成』は女性の方が高く，『反対』は男性の方が高い。

前回調査との比較

“男は仕事，女は家庭”という性別役割分担に『賛成』『反対』とも，前回調査を下回っている。「どちらともいえない」は，今回の方が上回り，性別役割分担意識を明確にすることへの疑問が増している様子がうかがわれる。

2. 家庭生活

夫婦役割分担の現状と理想の差は依然として大きい。

(1) 夫婦役割分担の現状と理想

現状はほとんどの項目で「主に妻」が行っているが高いが，理想はすべての項目で「夫と妻で半々」が高く，現状と理想の間に差がみられる。現状と理想の差が最も大きいのは［子どもの身のまわりの世話］で，男女とも 50 ポイント以上の差がみられる。また，どの項目も男性より女性の方が現状と理想の差は大きくなっている。

(2) 男性の家事・子育て・介護等への参加

女性の 20 歳代から 50 歳代まででは「参加してほしい」が 9 割以上となっており，男性の参加を強く求めている様子がうかがわれる。

男性では，「参加したい」が最も高いのは 40 歳代の 7 割強，最も低いのは 70 歳以上の約 4 割と，年代による差が女性よりも大きくなっている。

(3) 男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと

「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が 5 割半ばと最も多く，次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」と「男女の役割についての社会通念，慣習，しきたりを改めること」が 3 割半ばと続いている。

3. 社会参画

現在行っている活動が特にない人が約半数となっており，その理由は「仕事が忙しく時間がないから」が最も多い。

(1) 社会的活動の参加状況と参加意向

活動の中では，現在行っている活動・今後行ってみたい活動ともに，「趣味やスポーツのグループ活動」が最も多い。また，現在行っている活動が特にない人が約半数を占めている。

前回調査との比較　今後行ってみたい活動が「特にない」は，男女とも前回調査より今回調査の方が低い。

(2) 社会的活動に参加していない理由

社会的活動に参加していない理由は「仕事が忙しく時間がないから」が最も多くなっている。

前回調査との比較　「仕事が忙しく時間がない」ことを理由に社会的活動に参加しない人は，前回調査よりも増えている。

4. 少子高齢社会

豊かな老後のために必要なことは「社会保障制度がしっかりしていること」が約 5 割で最も多い。

(1) 少子化が進んだ理由

「育児・教育のための経済的負担が大きいから」が 4 割半ばと最も多く，次いで「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」3 割半ば，「子ど

もをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから」2 割半ばと続いている。

(2) 豊かな老後のために必要なこと

「社会保障制度がしっかりしていること」が約 5 割と最も多く，次いで「財産や預金が足りていること」約 4 割，「楽しめる趣味があること」3 割半ばと続いている。

前回調査との比較

「病気になったとき看病してくれる人がいること」「安心して住める家があること」「日頃の身の回りの世話をしてくれる人がいること」などの項目で前回調査より低くなっている。

5. 職業・就労

男女とも半数が『再就職型』を女性の理想の働き方と考えているが，『就労継続型』も前回調査より増加傾向にある。

(1) 女性の働き方の理想と現実

男女とも半数が『再就職型（「出産育児期間は一時退職して，子どもが成長したら再び職業をもつ」）』を女性の理想の働き方と考えている。

理想と実際の差が最も大きいのは『再就職型』で，理想が実際を 13.9 ポイント上回っている。

前回調査との比較

男女とも，理想・実際とも，『就労継続型（結婚や出産・育児にかかわらず，ずっと職業をもちつづける）』が前回調査より増加傾向にある。また，女性では，理想・実際とも『再就職型』が減少傾向にある。

(2) 職業と働き方

『有職者』は，女性 5 割半ば，男性 7 割半ばとなっている。また，女性では約 3 割が「専業主婦」となっている。

前回調査との比較

『就労している』は，女性では若干上昇し，男性ではほぼ変わりない。

(3) 就業・起業意向

現在，無職の人の就業・起業意向は，男女とも「働きたいが働けない」が 3 割強と最も多くなっている。

(4) 働けない理由

男女とも，「年齢的に適当な募集がないから」が最も多く，男女とも約 5 割となっている。家事や育児を働けない理由にあげる女性は約 2 割だが，男性は全くいない。

(5) 女性の再チャレンジに必要なこと

最も高いのは女性では「夫の理解や家事・育児などへの参加」，男性では「企業が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」と，男女の意識の差がみられる。

6. 男女の人権

過去２年間にパートナーから何らかの暴力を受けた人は１割強である。

(1) 健康や身体に対するパートナーの理解

「理解してもらっていると思う」は男性が女性より高く，「理解してもらっていると思わない」は女性が男性より高い。

(2) セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験・場所

男女とも「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が最も多く，男性より女性の方が 12.6 ポイント上回っている。また，職場で最も強くセクシュアル・ハラスメントを感じている。

(3) 夫婦・パートナー間での暴力

過去２年間にパートナーから何らかの暴力を受けた人は 1 割強である。暴力を受けたことが『あった』は，種類別にみると，「精神的暴力」「身体的暴力」「性的暴力」の順で多くなっている。

女性に対する暴力を組み合わせのパターン別にみると（パターンについては 106 ページ参照），「精神のみ」が 3 割強と最も多く，次いで「身体＋精神＋性」2 割弱，「身体＋精神」1 割半ばと続いている。

また，性や健康・身体に対して理解が得られていないと感じる人のほうが，そうでない人に比べ，パートナーから暴力を受けた経験が高い。

(4) 暴力を受けたときの相談

男女とも「相談しようとは思わなかった」が最も多い。相談した人の相談先は，女性では「親族」「友人・知人」がともに多く，男性では「友人・知人」が多い。

また，相談した男性は相談した女性の 4 割程度となっている。

(5) 男女間の暴力を防止するためには何が必要か

「加害者への罰則を強化する」と「家庭や学校において，暴力防止のための教育を行う」が 4 割を超えるが，暴力を受けた経験が〔あった〕人よりも〔まったくない〕人の方が，必要な項目への割合は概ね高くなっている。

また，暴力を受けた経験の〔あった〕人は，〔まったくない〕人よりも「わからない」と答える割合が高くなっている。

7. 男女共同参画に関する施策

「仕事と家庭生活の両立支援」「高齢社会における生活の安定」が 3 割を超え，最も望まれている。

男女とも「仕事と家庭生活の両立支援」「高齢社会における生活の安定」が 3 割を超えており，2 項とも女性の方が男性を上回っている。

また，「女性が働きやすい環境の整備」は，20 歳代で女性が男性を 30 ポイント以上上回っている。

Ⅳ　調査結果分析

1. 男女平等意識

(1) 男女の地位の平等感

問１．あなたは現在，次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
①家庭生活で　②職場で　③学校教育の場で　④地域社会で　⑤政治の場で
⑥法律や制度の上で　⑦社会通念・慣習・しきたりなどで　⑧社会全体で

男女の地位の平等感は，［学校教育の場で］以外のすべての分野で『男性優遇』が強く，女性の方がより強い不平等感を持っている。

【全体】

①～⑦では，［③学校教育の場で］を除く 6 分野で，男女の不平等感が強くなっている。

『男性優遇（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)』では，［⑦社会通念・慣習・しきたりなどで］が 78.9％と最も高く，次いで［⑤政治の場で］68.5％，［②職場で］62.0％と続いている。また，［⑧社会全体で］の『男性優遇』は 72.3％となっており，不平等感が強くみられる。

『平等（「平等になっている」)』では，［③学校教育の場で］が 49.4％と最も多く，次いで［⑥法律や制度の上で］34.1％，［①家庭生活で］29.1％と続いている。

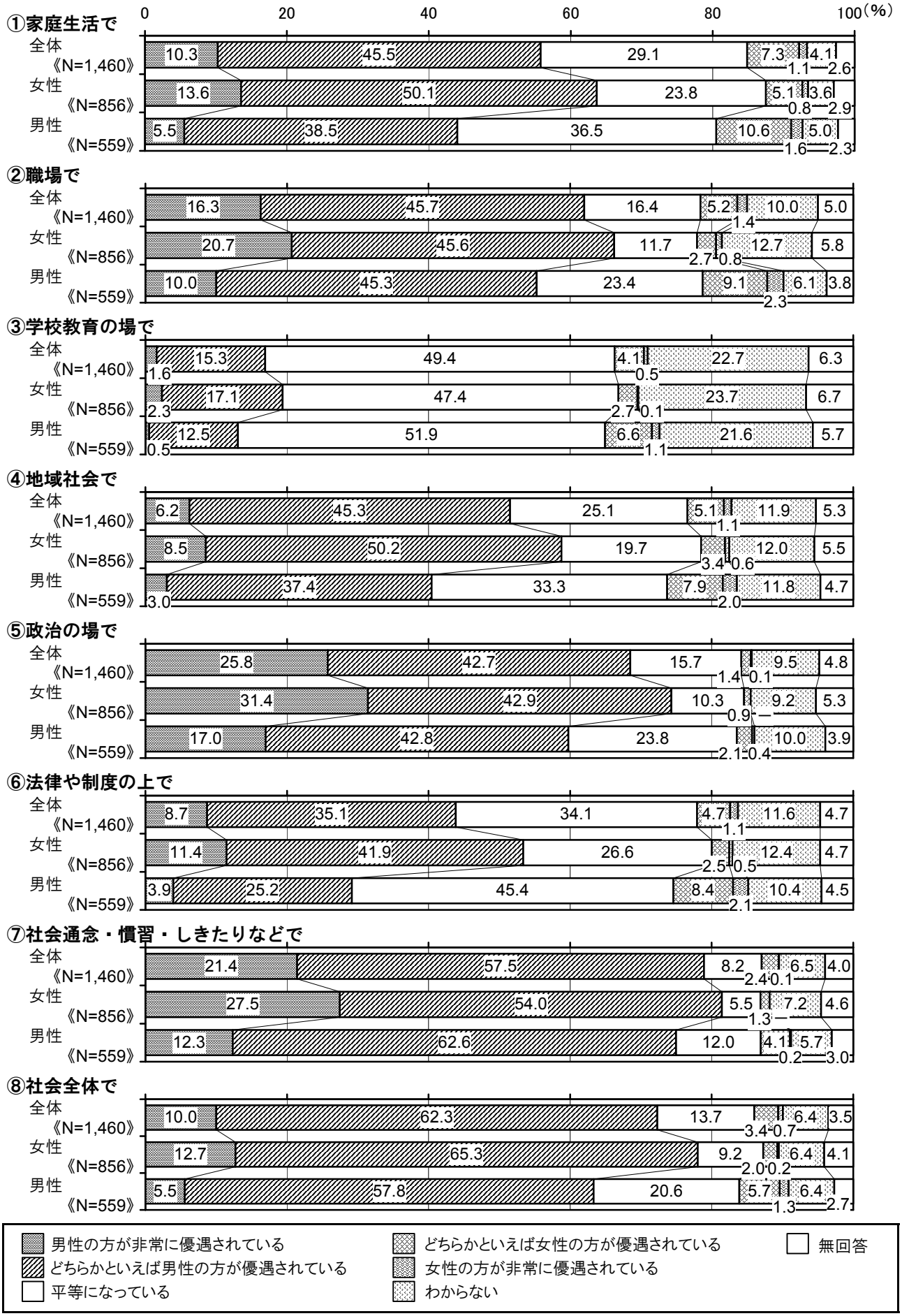
『女性優遇（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている」)』では，最も高い［①家庭生活で］で 8.4％と，1 割を超えていない。

【性別】

『男性優遇』は，①～⑦の各分野および［⑧社会全体で］で女性の方が高く，女性の方がより強い不平等感を持っていることがうかがわれる。男女差は，［⑥法律や制度の上で］が 24.2 ポイントと最も高く，次いで［①家庭生活で］19.7 ポイント，［④地域社会で］18.3 ポイントと続いている。また，①～⑦の各分野すべてと［⑧社会全体で］で，『平等』・『女性優遇』とも男性の方が高くなっており，男女の不平等感には大きなずれがあることが示されている。

【全体】で『男性優遇』が最も高い［⑦社会通念・慣習・しきたりなどで］の男女差をみると，『男性優遇』では女性が男性を 6.6 ポイント上回っているが，「男性の方が非常に優遇されている」では女性が 15.2 ポイント高く，『男性優遇』よりも差が大きくなっている。

男女の地位の平等感【全体，性別】



① 家庭生活で

どの年代も女性の方が『男性優遇』が高く，特に 30 歳代では 30.6 ポイントと差が大きくなっている。

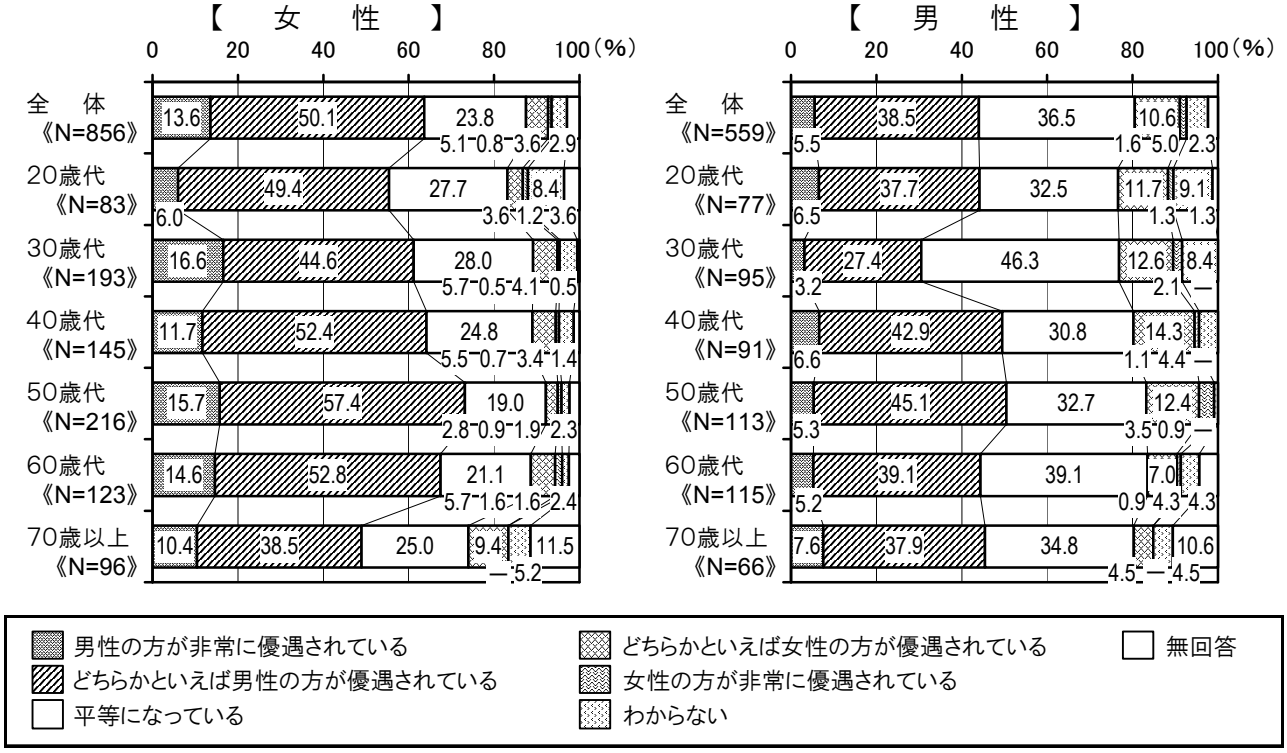
【性・年代別】

女性では，30 歳代から 60 歳代で『男性優遇』が 6 割以上と，不平等感が強く現れている。『男性優遇』が最も高いのは 50 歳代の 73.1%で，最も低い 70 歳以上の 48.9%と比べ 24.2 ポイントの差がついている。

男性では，『男性優遇』が最も高いのは 50 歳代の 50.4%で，最も低い 30 歳代の 30.6%と比べ 19.8 ポイントの差がついている

同年代の男女で比べると，どの年代も女性の方が『男性優遇』が高く，特に 30 歳代では 30.6 ポイントと差が大きくなっている。

男女の地位の平等感　①家庭生活で【性・年代別】



② 職場で

70 歳以上を除くすべての年代で『男性優遇』は男性より女性の方が高く，最も差が大きい 20 歳代では 21.9 ポイント差となっている。

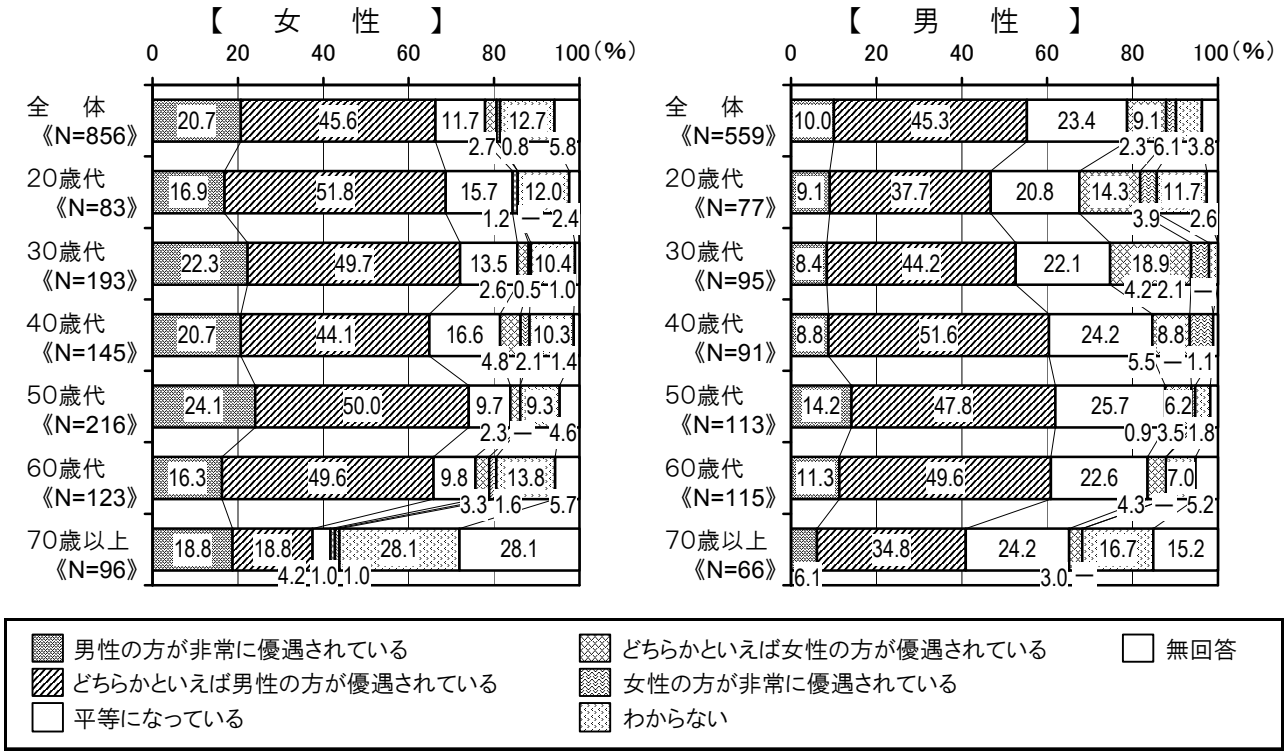
【性・年代別】

女性では，30 歳代，50 歳代で『男性優遇』が 7 割を超え，特に若年・中年層の不平等感が表われている。また，『男性優遇』は，女性では，70 歳代を除いて 6 割以上と総じて高くなっているが，男性では 4 割～6 割強と，女性よりも低くなっている。

同年代の男女で比べると，70 歳以上を除く年代で『男性優遇』は男性より女性の方が高く，最も差が大きい 20 歳代では 21.9 ポイント差となっている。

70 歳以上の『男性優遇』は，他の年代に比べてかなり低くなっている。また，70 歳以上では，「わからない」が男女とも他の年代に比べて高いが，就労している人が少ないことが影響していると考えられる。

男女の地位の平等感　②職場で【性・年代別】



③ 学校教育の場で

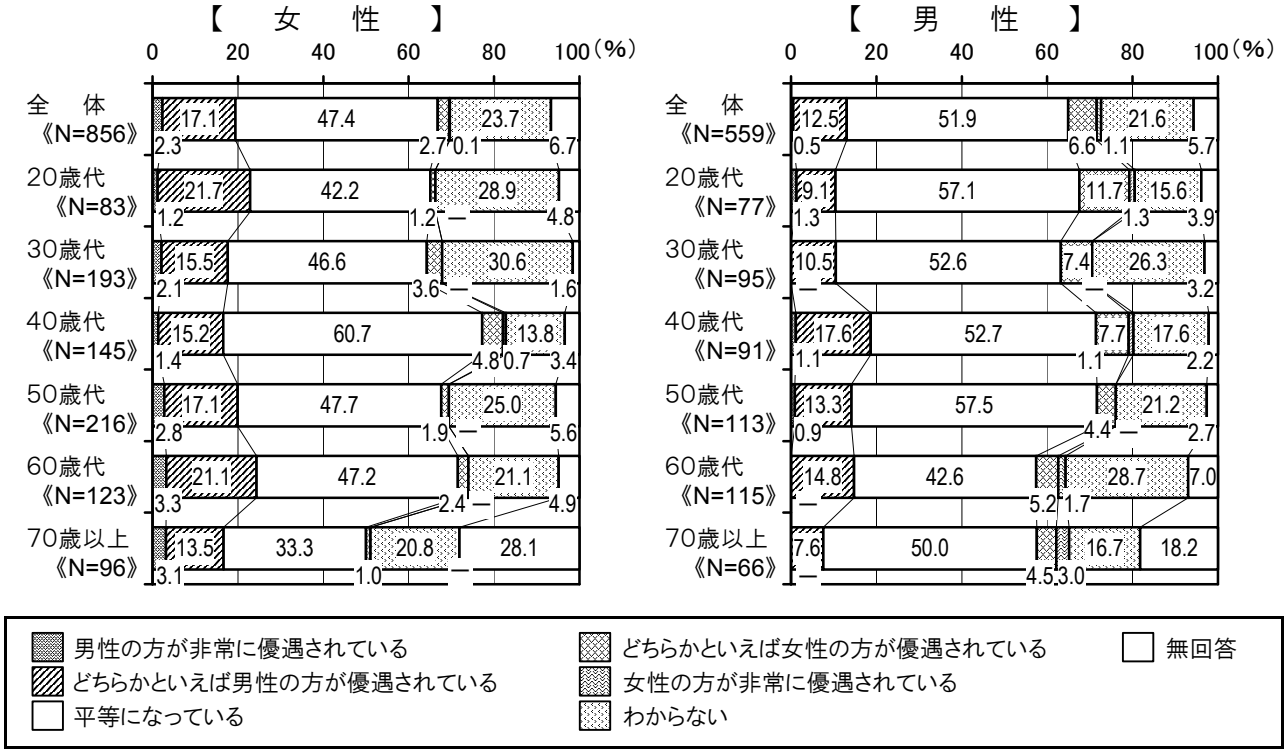
他の分野に比べて『平等』の占める割合が高くなっている。

【性・年代別】

他の分野に比べて『平等』の割合が高く，特に女性 40 歳代と，男性 20 歳代から 50 歳代，70 歳以上で 5 割を超えている。また，他の分野に比べて「わからない」も高く，女性 30 歳代では 3 割を超えている。

『男性優遇』は他の分野に比べては低いものの，同年代の男女で比べると，40 歳代以外は女性の方が高く，特に 20 歳代では女性が男性より 12.5 ポイント上回っている。

男女の地位の平等感　③学校教育の場で【性・年代別】



④ 地域社会で

女性では，『男性優遇』は 30 歳代から 60 歳代で 6 割を超えている。30 歳代では男女間の意識の差が特に大きい。

【性・年代別】

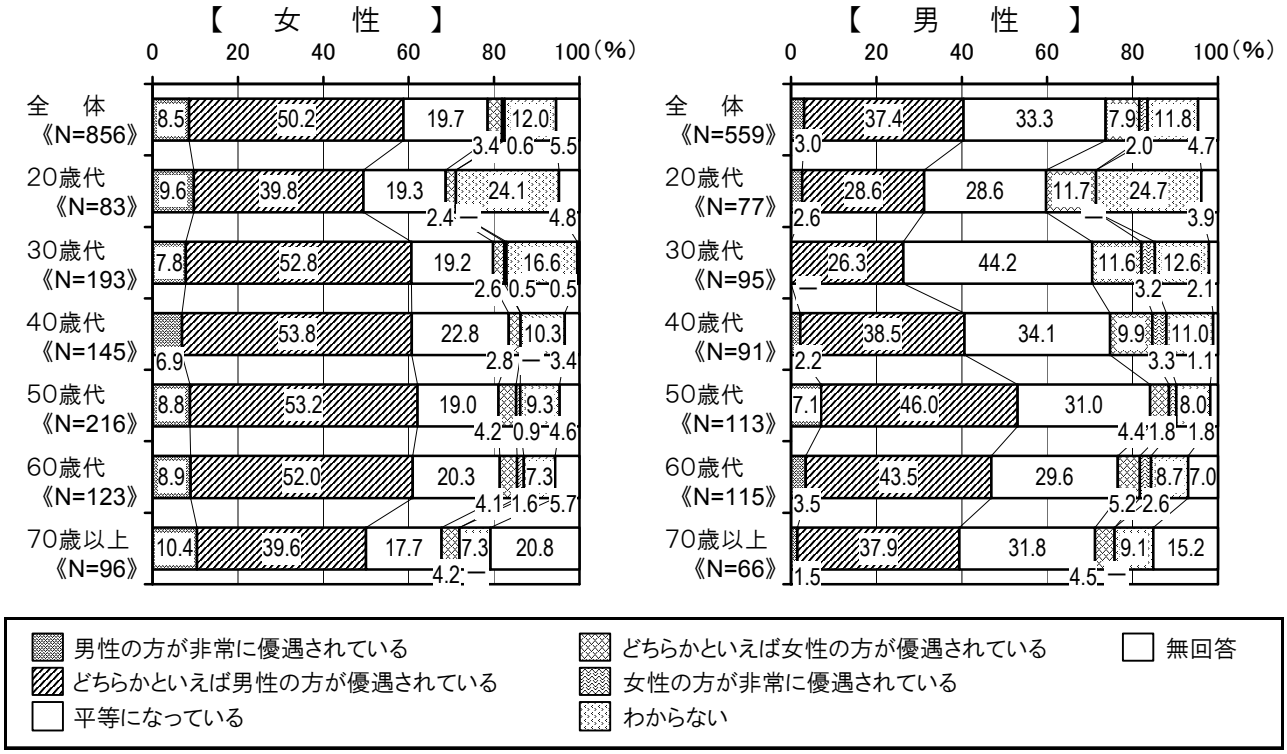
女性では，『男性優遇』は 30 歳代から 60 歳代で 6 割を超えている。

男性では，『男性優遇』は年代間の差が大きく，最も高い 50 歳代と，最も低い 30 歳代では 26.8 ポイントの差となっている。

また，男女ともに 20 歳代では，「わからない」が 2 割半ばと，他の年代よりも高くなっている。

同年代の男女で比べると，『男性優遇』はすべての年代で女性の方が高く，特に最も差が大きい 30 歳代では，女性 60.6%，男性 26.3%と，34.3 ポイントの差となっている。

男女の地位の平等感　④地域社会で【性・年代別】



⑤ 政治の場で

男女とも 30 歳代から 50 歳代の『男性優遇』が高いが，世代間に差がみられる。

【性・年代別】

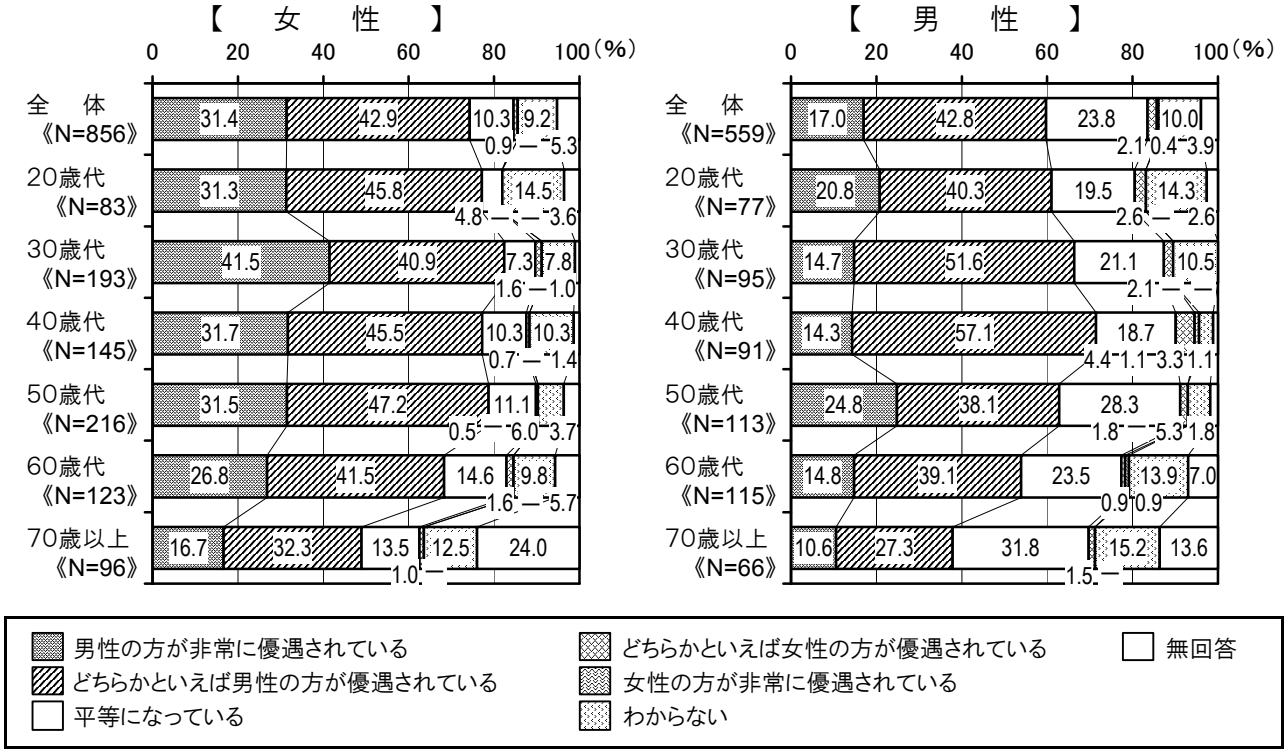
『男性優遇』はすべての年代で女性の方が高くなっている。また，女性では『男性優遇』が最も高い 30 代 82.4%と，最も低い 70 歳以上 49.0%との間には 33.4 ポイントの差がみられる。

男性では，『男性優遇』は，最も高いのは 40 歳代の 71.4%，最も低いのは 70 歳以上の 37.9%と，33.5 ポイントの差となっており，男女とも世代間の差がみられる。

同年代の男女で比べると，『男性優遇』は，20 歳代，30 歳代，50 歳代では 15 ポイント以上女性が男性を上回っている。

70 歳以上の『男性優遇』は，男女とも他の年代に比べ大幅に低くなっている。

男女の地位の平等感　⑤政治の場で【性・年代別】



⑥ 法律や制度の上で

『男性優遇』は，すべての年代で女性の方が高く，特に 30 歳代の男女の差が約 40 ポイントと大きい。

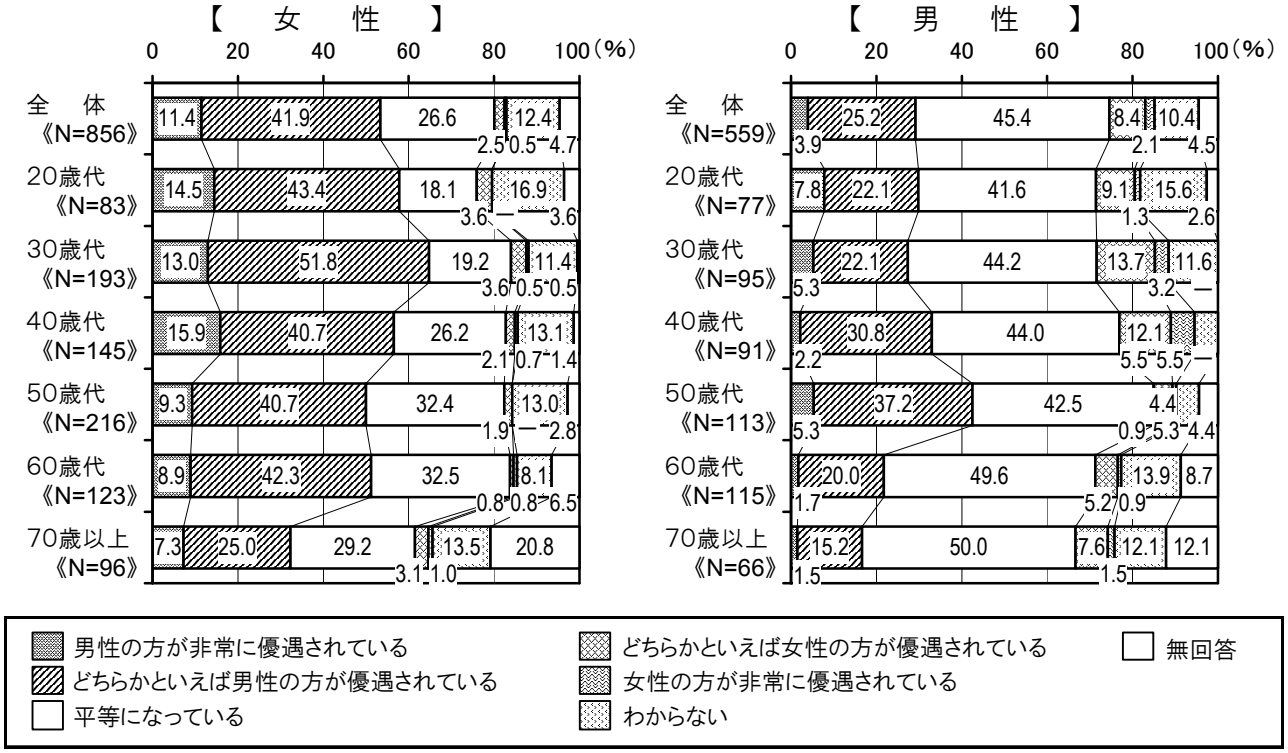
【性・年代別】

女性では，『男性優遇』は 20 歳代から 60 歳代では 5 割以上となっている。

男性では，『男性優遇』が 5 割を超えた年代はなく，最も高い 50 歳代と，最も低い 70 歳以上では，25.8 ポイントの差があり，年代による差がみられる。

同年代の男女で比べると，『男性優遇』は，すべての年代で女性の方が高く，特に 30 歳代では女性が男性を 37.4 ポイント上回り，男女の差が大きくなっている。

男女の地位の平等感　⑥法律や制度の上で【性・年代別】



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで

『男性優遇』は，女性の 30 歳代から 60 歳代と男性の 40 歳代・50 歳代で 8 割を超える。

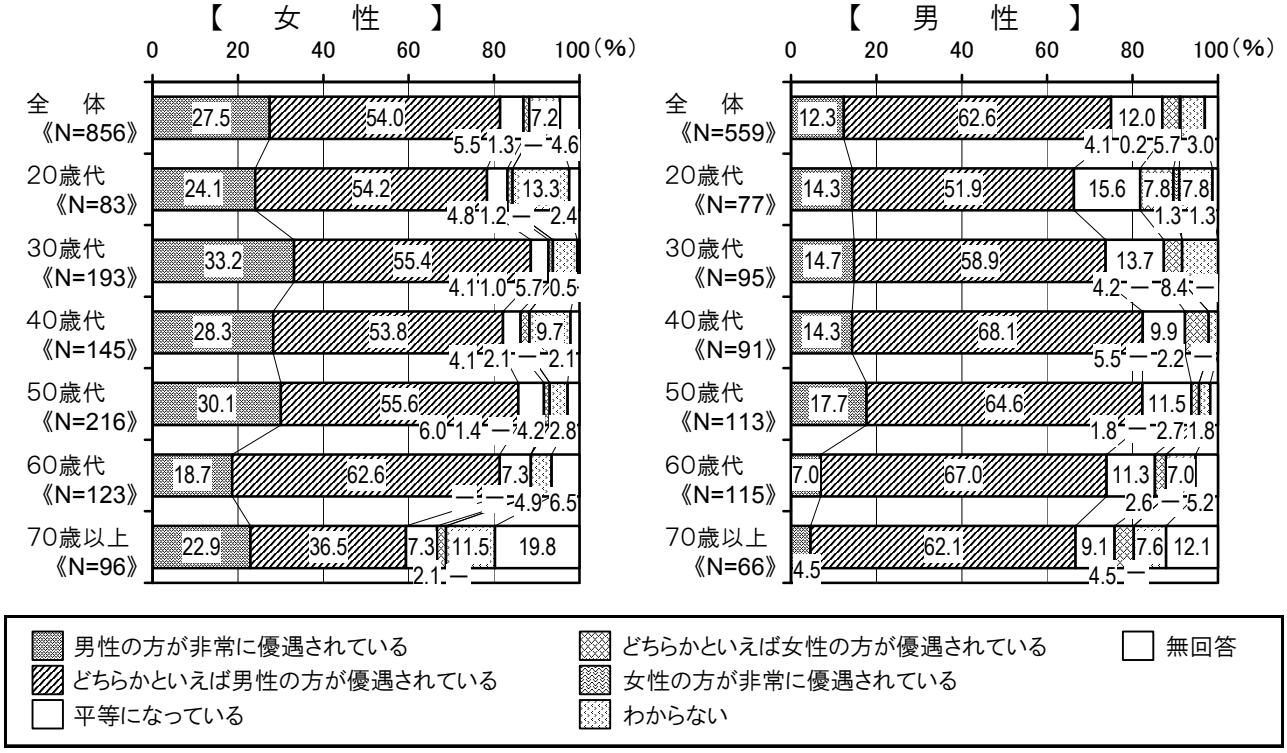
【性・年代別】

女性では，『男性優遇』は 30 歳代から 60 歳代で 8 割以上と高くなっている。また，女性の 30 歳代から 50 歳代では「男性が非常に優遇されている」が約 3 割，続く 20 歳代と 70 歳以上で 2 割以上と，強い不平等感が表われている。

男性では，『男性優遇』は 40 歳代と 50 歳代で 8 割以上，30 歳代と 60 歳代で 7 割以上となっている。

同年代の男女で比べると，最も差が大きいのは 30 歳代で，女性が男性を 15.0 ポイント上回っている。

男女の地位の平等感　⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【性・年代別】



⑧ 社会全体で

女性の 20 歳代・30 歳代・50 歳代では『男性優遇』が 8 割以上と高い。

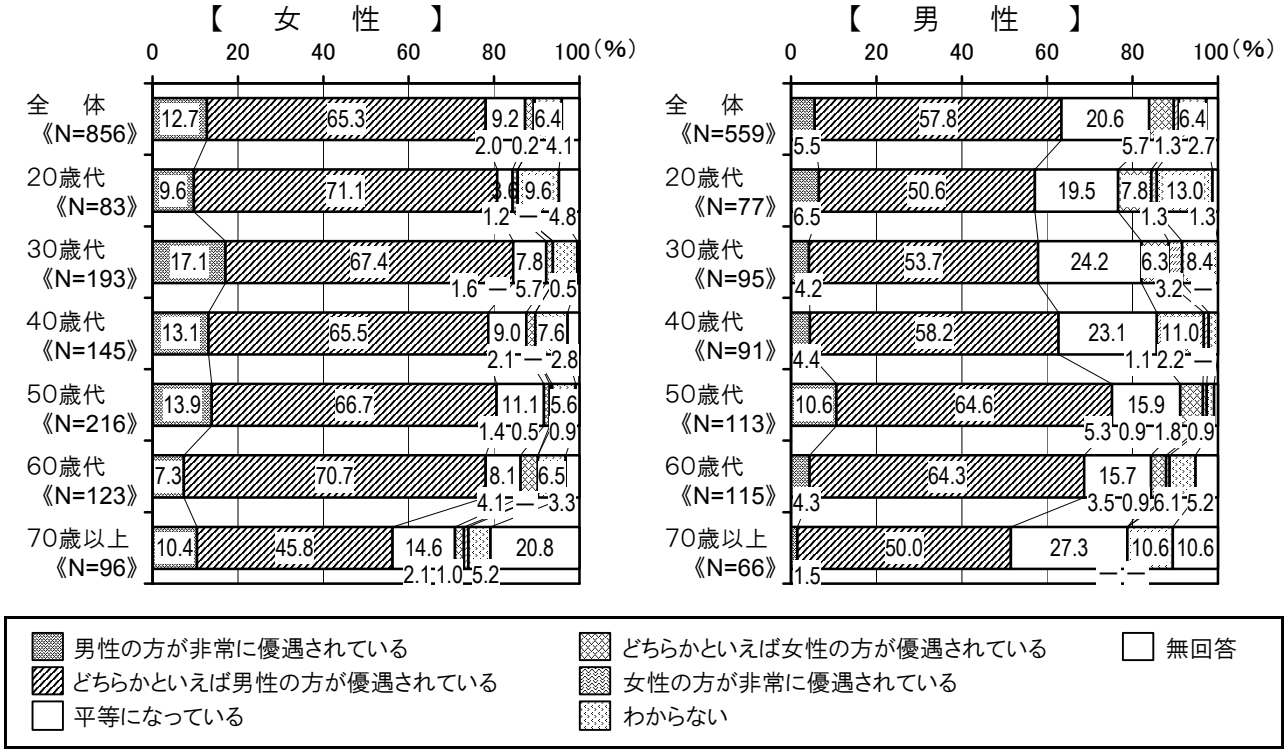
【性・年代別】

『男性優遇』は，すべての年代で女性の方が高く，20 歳代と 30 歳代，50 歳代が 8 割以上，続く 40 歳代と 60 歳代が約 8 割で，最も高い 30 歳代と最も低い 70 歳以上では 28.3 ポイントの差となっている。

男性では，『男性優遇』は，最も高いのは 50 歳代の 75.2%，最も低いのは 70 歳以上の 51.5%と，その差は 23.7 ポイントとなっており，世代間の差がみられる。

同年代の男女で比べると，最も差が大きいのは 30 歳代で，女性が男性を 26.6 ポイント上回っている。

男女の地位の平等感　⑧社会全体で【性・年代別】



○　前回調査との比較　　男女の地位の平等感　○

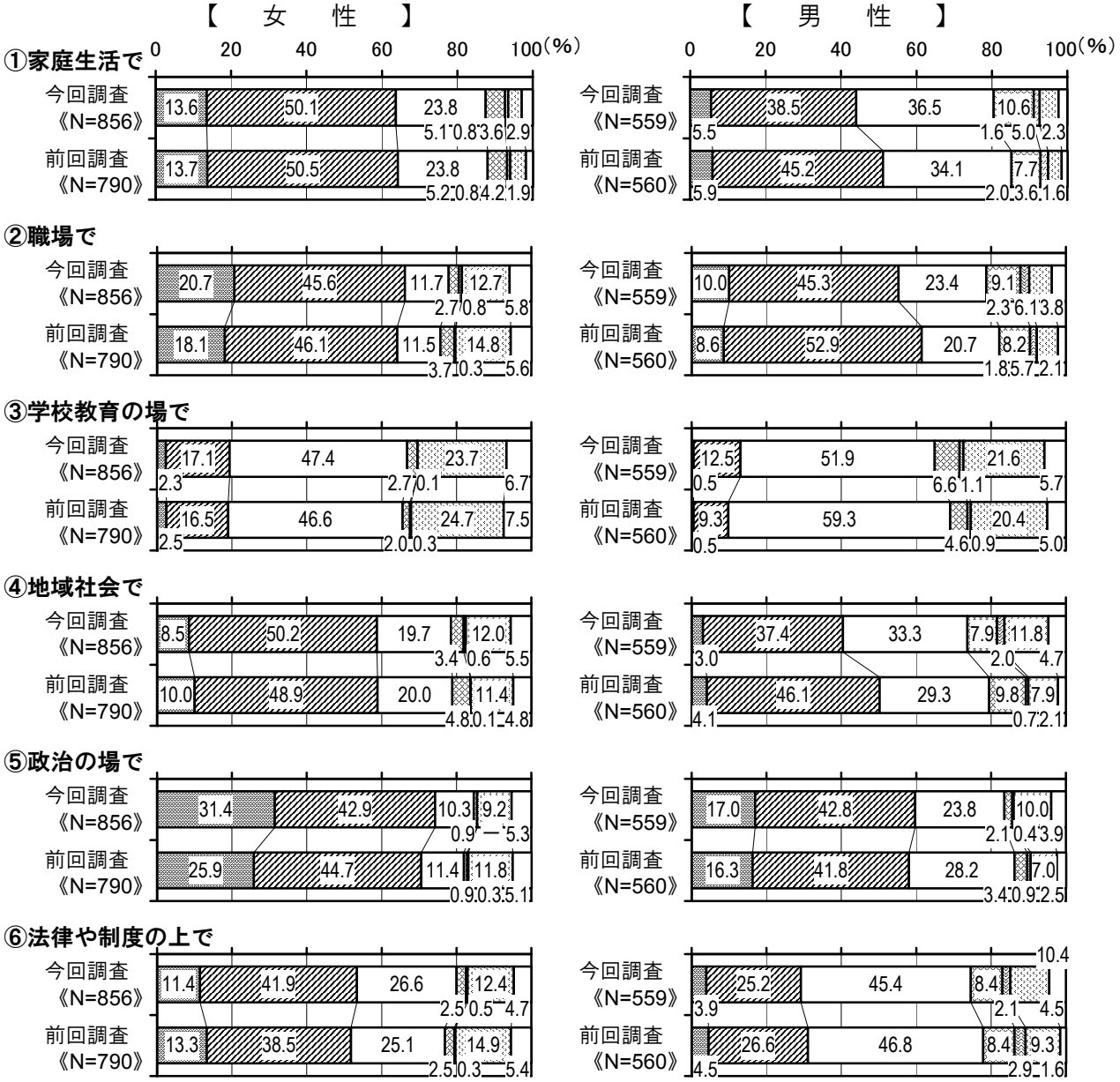
［家庭生活で］と［地域社会で］では，男女とも『男性優遇』が低くなっている。

【性別】

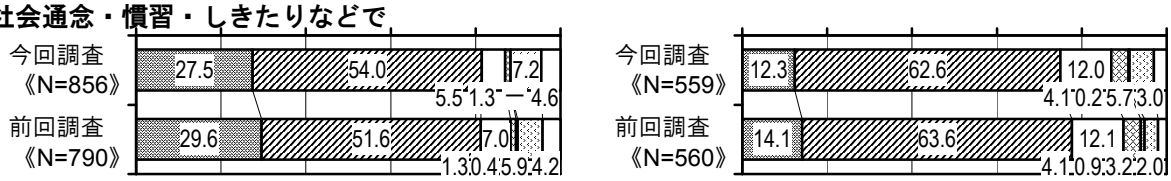
女性では，前回より『男性優遇』が高くなった項目が［①家庭生活で］と［④地域社会で］を除く 6 項目となっており，前回と最も差が大きいのは［⑤政治の場で］の 3.7 ポイントとなっている。

一方，男性では，『男性優遇』が低くなった項目が［③学校教育で］と［⑤政治の場で］を除く 6 項目となっており，特に［④地域社会で］は 9.8 ポイント，［①家庭生活で］は 7.1 ポイント，前回を下回っている。

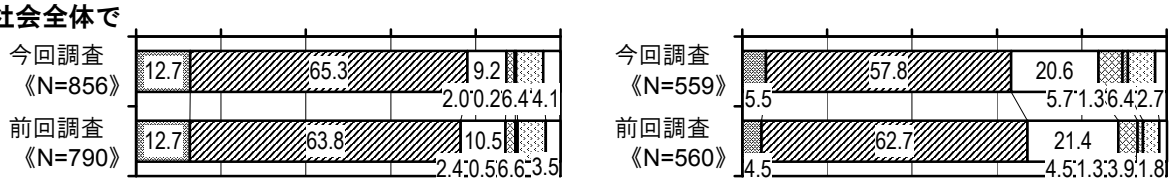
男女の地位の平等感｛今回調査・前回調査｝【性別】



⑦社会通念・慣習・しきたりなどで



⑧社会全体で



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

○　内閣府世論調査（平成16年）との比較　　男女の地位の平等感　○

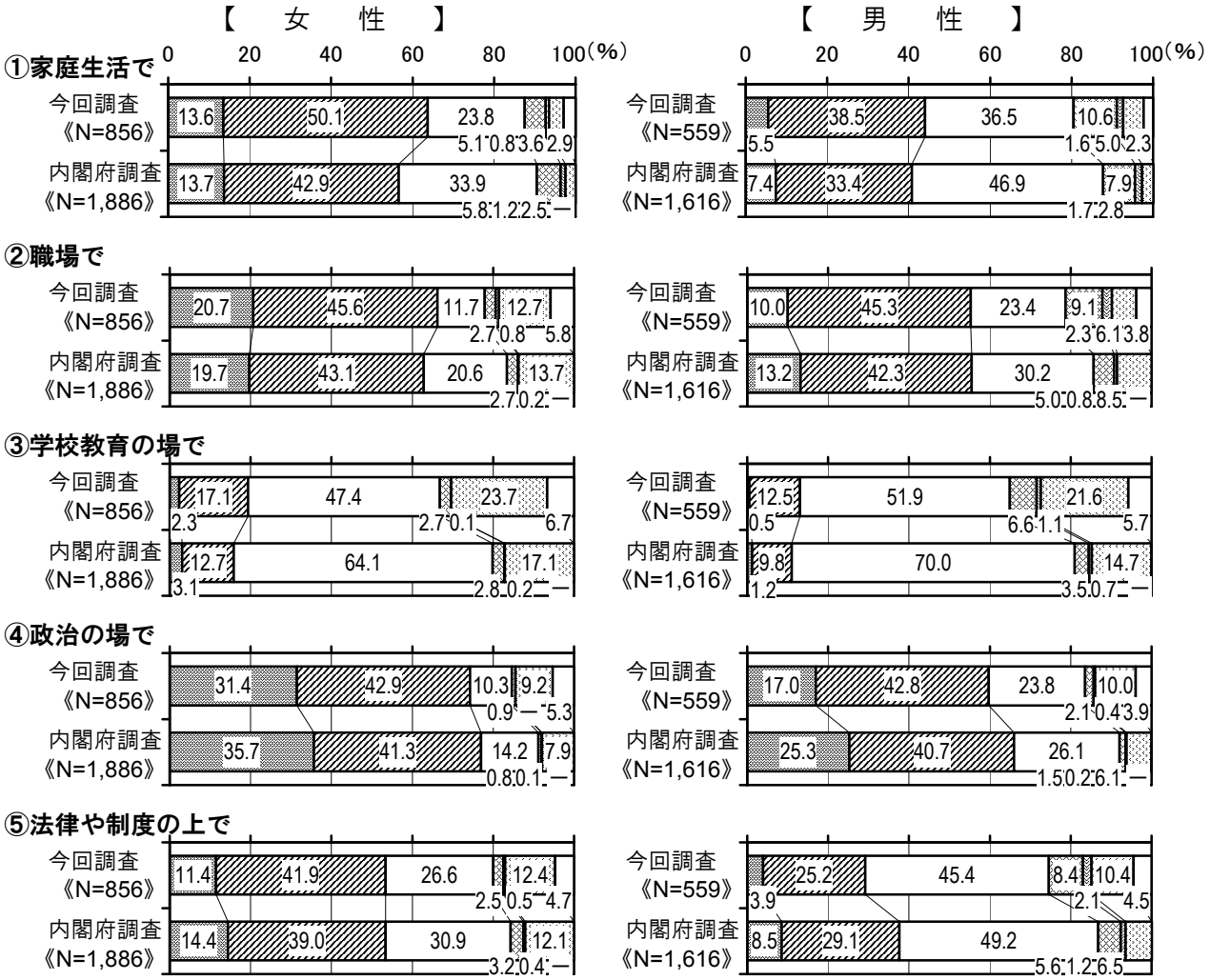
内閣府世論調査に比べると，男女とも［家庭生活で］，［学校教育の場で］，［社会通念・慣習・しきたりなどで］の３項目で『男性優遇』が高い。

【性別】

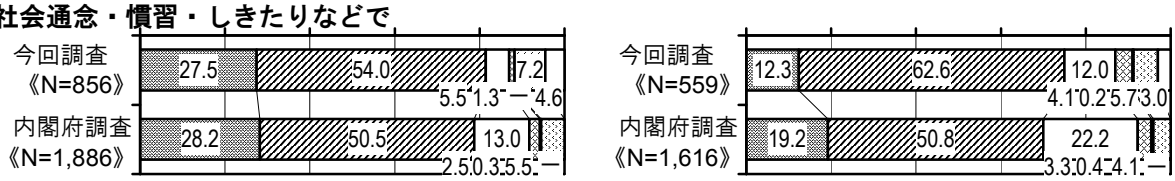
内閣府世論調査（平成 16 年）と比べ，今回調査で男女とも『男性優遇』が高いのは，［①家庭生活で］，［③学校教育の場で］，［⑥社会通念・慣習・しきたりなどで］で，これら 3 項目の不平等感が強いことがうかがわれる。

また，内閣府世論調査（平成 16 年）と今回調査で最も差が大きいのは，女性では，［①家庭生活で］で今回調査が 7.1 ポイント上回り，男性では［⑤法律や制度の上で］で今回調査が 8.4 ポイント下回っている。

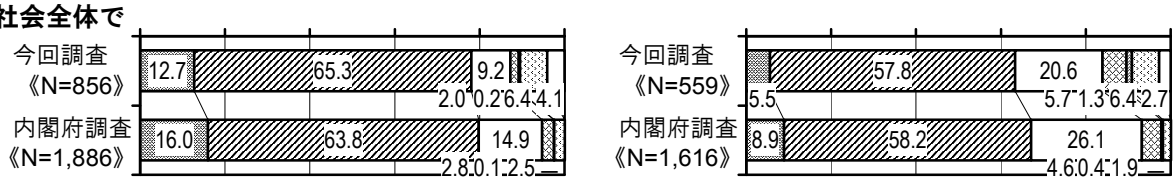
男女の地位の平等感｛今回調査・内閣府世論調査（平成 16 年）｝【性別】



⑥社会通念・慣習・しきたりなどで



⑦社会全体で



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

※［地域社会で］は、内閣府世論調査（平成16年）では尋ねていないため、グラフから除いている

(2) 性別役割分担意識

問２．次のような考え方について，あなたのご意見に最も近いものはどれですか。
①夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである
②子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない

① 夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである

“男は仕事，女は家庭”という性別役割分担に『賛成』する人は全体の 1 割半ば，『反対』する人は 5 割強を占め，女性の方が反対する人が多い。

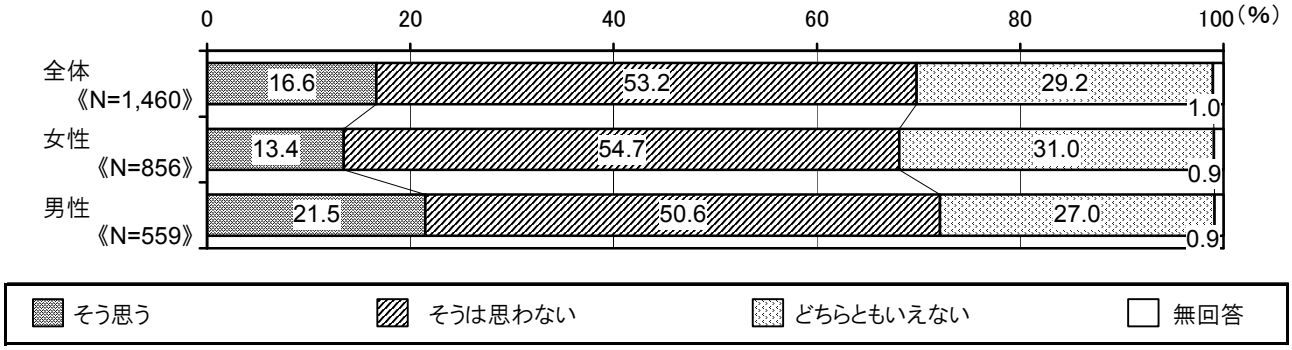
【全体】

『反対（「そうは思わない」）』が 53.2％と最も多く，次いで「どちらともいえない」29.2％，『賛成（「そう思う」）』16.6％となっている。

【性別】

「そう思う」は女性の方が男性より 8.1 ポイント低く，「そうは思わない」は男性の方が 4.1 ポイント低くなっており，女性の方が“男は仕事，女は家庭”という役割分担に反対する人が多くなっている。

性別役割分担意識　①夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである【全体，性別】



【性・年代別】

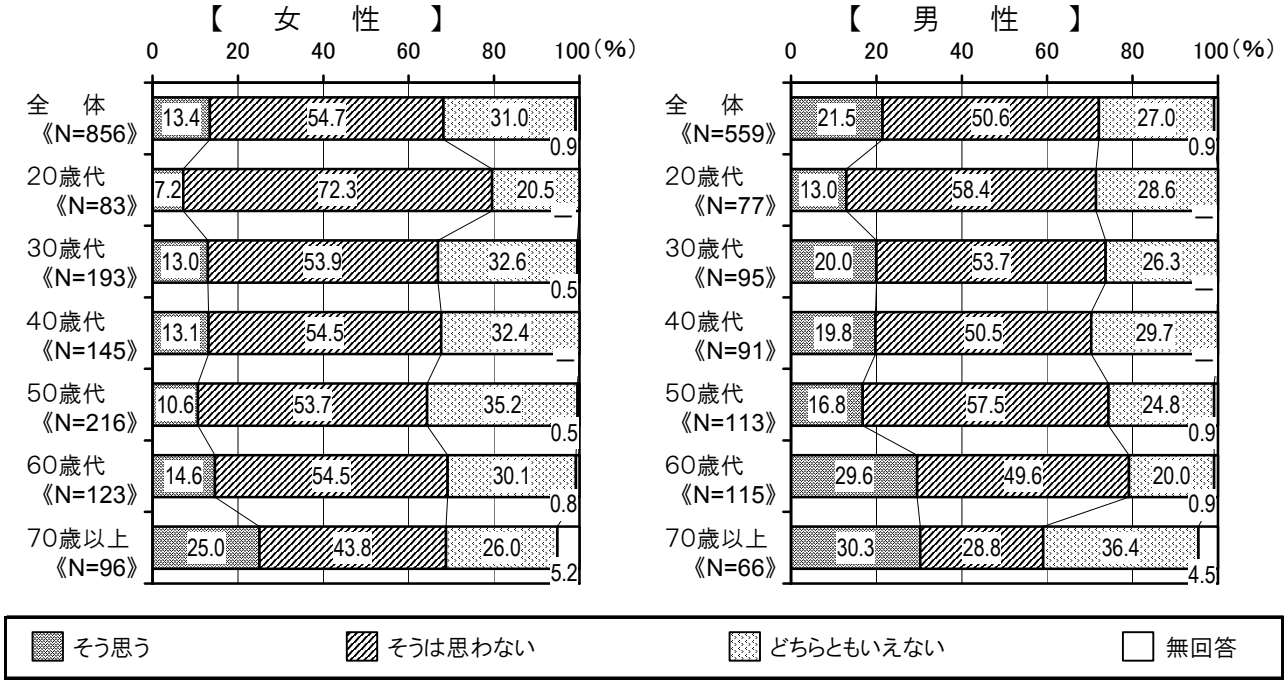
20 歳代では，女性のほうが男性よりも『反対』する人が多い。60 歳代では，男性のほうが女性よりも『賛成』する人が多い。

男女とも「そう思う」は概ね年代が高いほど高く，最も低い 20 歳代と最も高い 70 歳以上では，女性 17.8 ポイント，男性 17.3 ポイントの差となっている。

また，「そうは思わない」は，女性では概ね年代が上がるほど低くなり，最も高い 20 歳代と最も低い 70 歳以上では，28.5 ポイント差となっている。

男女で『賛成』『反対』の差が最も大きかったのは，『反対』では 20 歳代で女性の方が 13.9 ポイント高く，『賛成』では 60 歳代で男性の方が 15 ポイント高くなっている。

性別役割分担意識　①夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである【性・年代別】



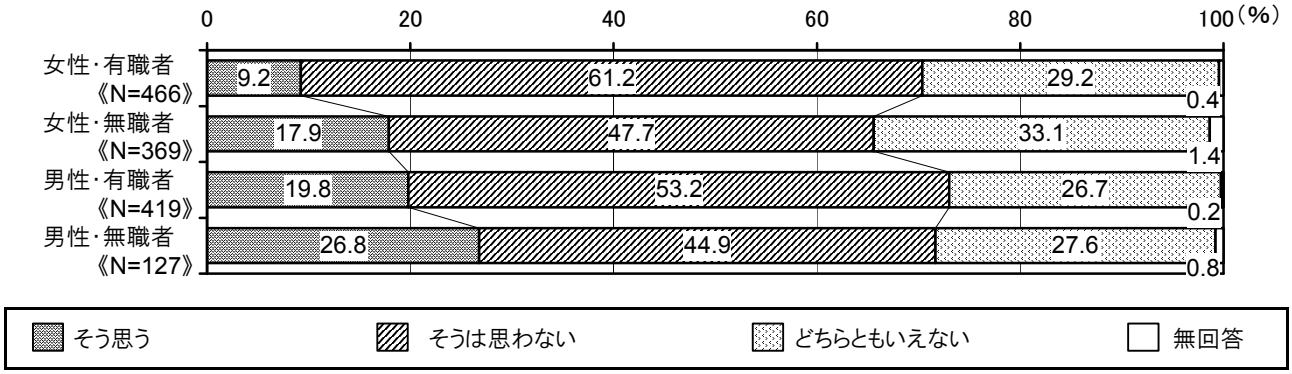
【性・職業の有無別】

『反対』は，女性・有職者で最も多く，男性・無職者で最も少ない。

「そう思う」は，女性・有職者で最も低く，男性・無職者で最も高く，その差は 17.6 ポイントとなっている。

また，「そうは思わない」は男性・無職者で最も低く，女性・有職者で最も高く，その差は 16.3 ポイントとなっている。

性別役割分担意識　①夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである
【性・職業の有無別】



○ 前回調査・内閣府世論調査（平成16年）との比較　　性別役割分担意識 ○

（夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである）

前回調査に比べ，男女とも『賛成』『反対』が減り，「どちらともいえない」が増えている。

【全体】

1）前回調査との比較

『賛成（「そう思う」）』は，前回調査 18.4%，今回調査 16.6%と，前回調査を下回っている。『反対（「そう思わない」）』は，前回 58.4%，今回 54.7%と，前回を下回っている。「どちらともいえない」は，前回 23.6%，今回 29.2%，今回の方が 5.3 ポイント上回り，性別役割分担意識を明確にすることへの疑問が増している様子がうかがわれる。

2）内閣府世論調査（平成 16 年）との比較

内閣府世論調査（平成 16 年）の選択肢で「賛成」＋「どちらかといえば賛成」を『賛成』,「どちらかといえば反対」＋「反対」を『反対』とすると，今回調査の方が『賛成』が低くなっている。

【性別】

1）前回調査との比較

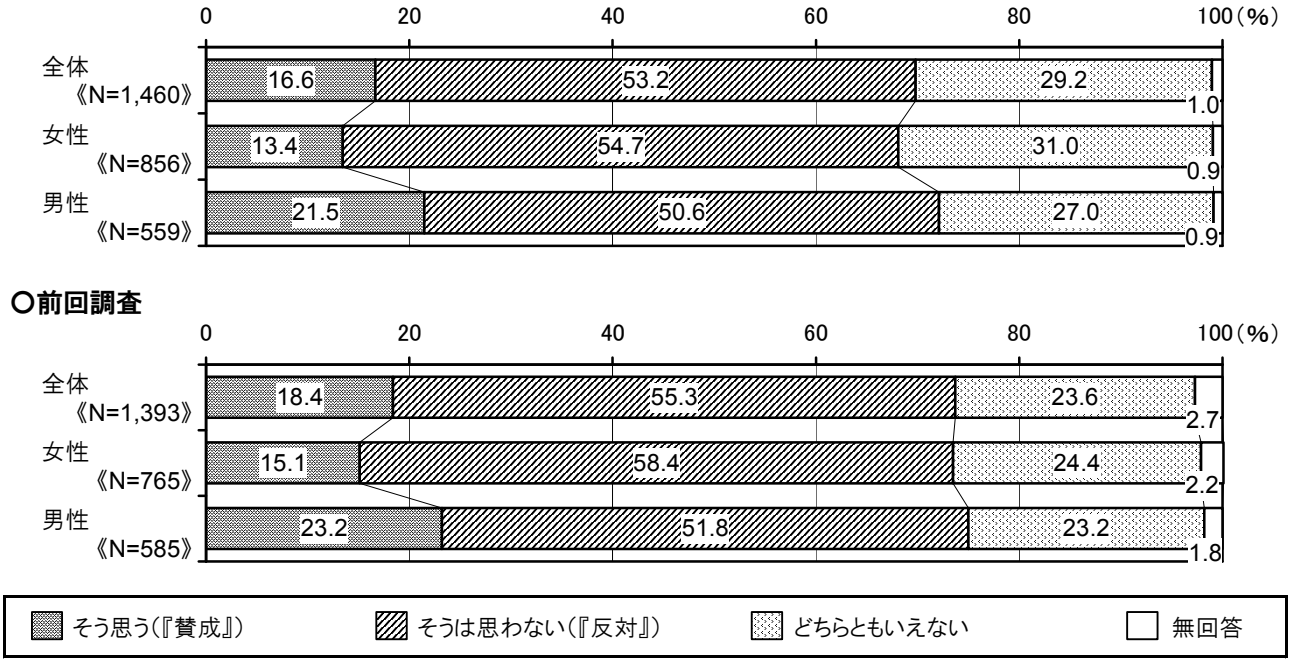
男女とも，『賛成』『反対』が前回よりも低くなり，「どちらともいえない」が前回を上回っている。

2）内閣府世論調査（平成 16 年）との比較

内閣府世論調査（平成 16 年）と比べると，男女とも，全体と同様に，今回調査の方が『賛成』が低くなっている。

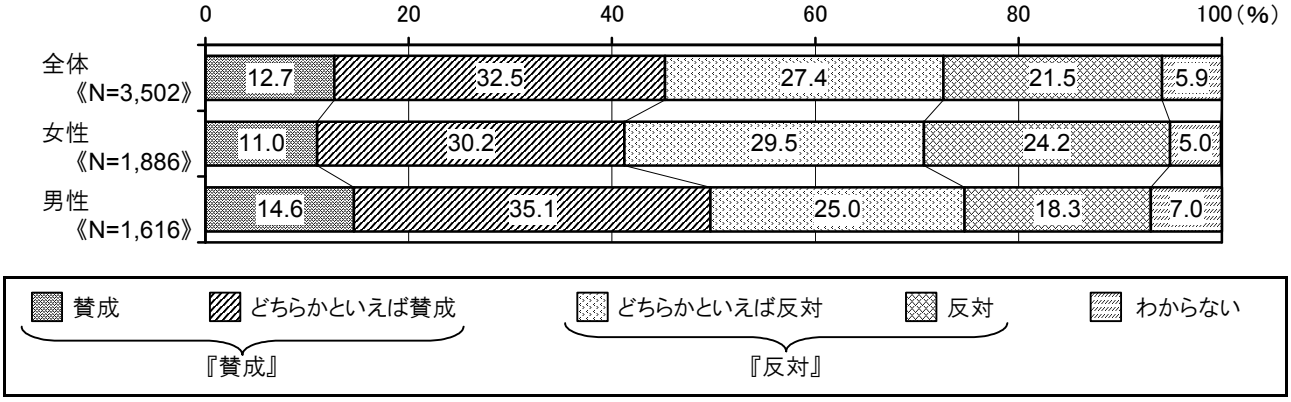
夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである
{今回調査・前回調査・内閣府世論調査（平成 16 年)}【全体，性別】

○今回調査



○前回調査

○内閣府世論調査（平成16年）



② 子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない

“子どもは男女の区別なく育てる”ことに『賛成』は女性の方が高く，『反対』は男性の方が高い。

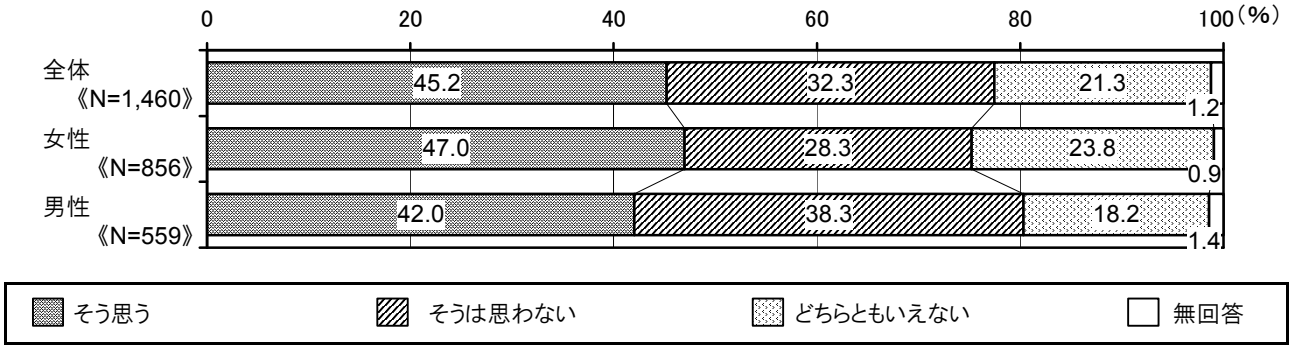
【全体】

『賛成（「そう思う」）』が 45.2％と最も多く，次いで『反対（「そうは思わない」）』32.3％，「どちらともいえない」21.3％となっている。

【性別】

「そう思う」は女性の方が男性より 5 ポイント高く，「そうは思わない」は男性の方が 10 ポイント高くなっており，女性の方が“子どもは男女の区別なく育てる”ことに賛成する人が多くなっている。

性別役割分担意識　②子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない
【全体，性別】

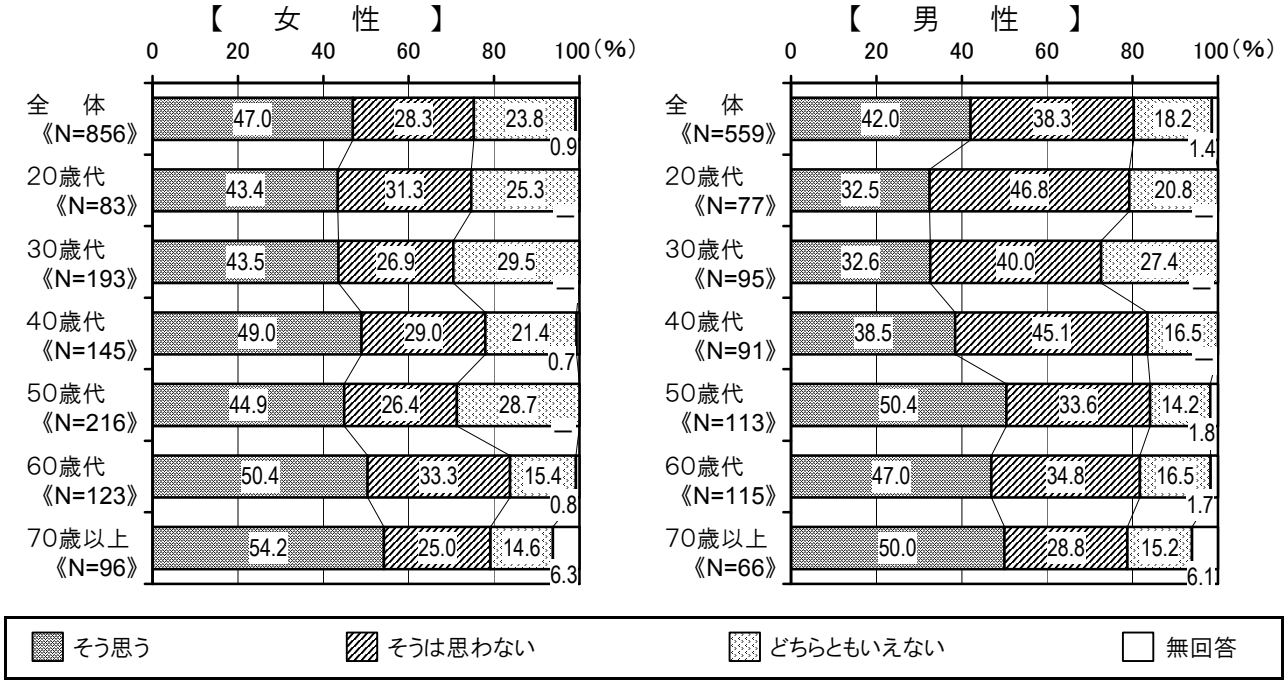


【性・年代別】

男女の区別なく育てることに賛成する人は，概ね年代が上がるほど多い。

男女とも，概ね「そう思う」は年代が上がるほど高く，「そうは思わない」は年代が上がるほど低くなっている。

性別役割分担意識　②子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない
【性・年代別】



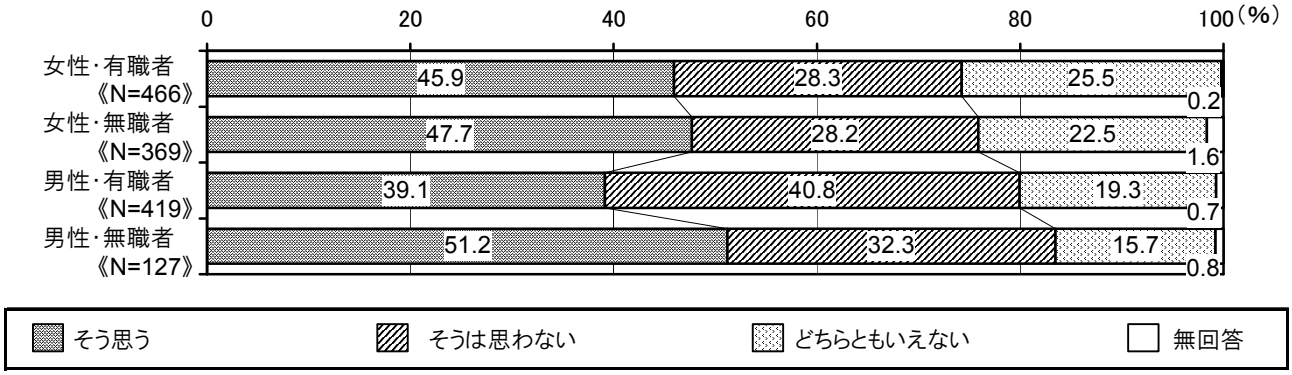
【性・職業の有無別】

男女の区別なく育てることに賛成する人は，男性・無職者で最も高く，反対する人は男性・有職者で最も高い。

女性よりも男性の方が，有職者，無職者の間の差が大きく，「そう思う」は男性・無職者で最も高く，「そうは思わない」は男性・有職者で最も高くなっている。

「どちらともいえない」は女性・有職者では約４分の１を占めている。

性別役割分担意識　②子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない
【性・職業の有無別】



2. 家庭生活

(1) 夫婦役割分担の現状と理想

問３．あなたの家庭では，日常の家事などの分担はどうしていますか。また，理想はどうしたいと考えていますか。

現状はほとんどの項目で「主に妻」が行っているが高いが，理想はすべての項目で「夫と妻で半々」が高く，現状と理想の間に差がみられる。

① 現状

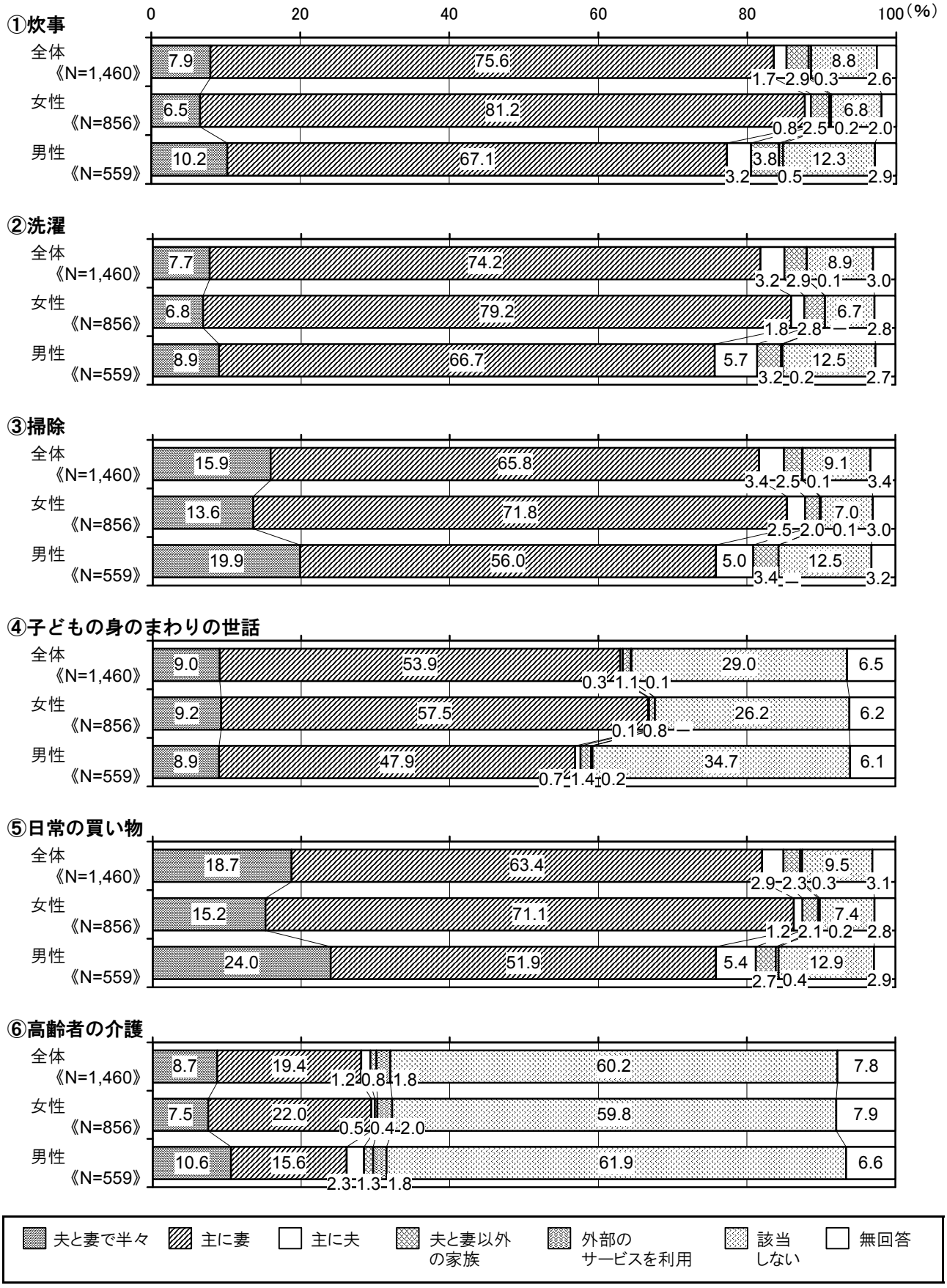
【全体】

6 項目のうち 5 項目で,「主に妻」が最も多くなっている。「主に妻」は,［①炊事］が 75.6%と最も高く，次いで［②洗濯］74.2%,［③掃除］65.8%と続き，5 項目すべてが 5 割を超えている。

【性別】

「夫と妻で半々」は，6 項目のうち 5 項目で女性より男性の方が高く，男性が女性より高い項目の男女差は［⑤日常の買い物］が 8.8 ポイント，次いで［③掃除］6.3 ポイント,［①炊事］3.7 ポイントと続いている。

夫婦役割分担の現状と理想　①現状【全体，性別】



② 理想

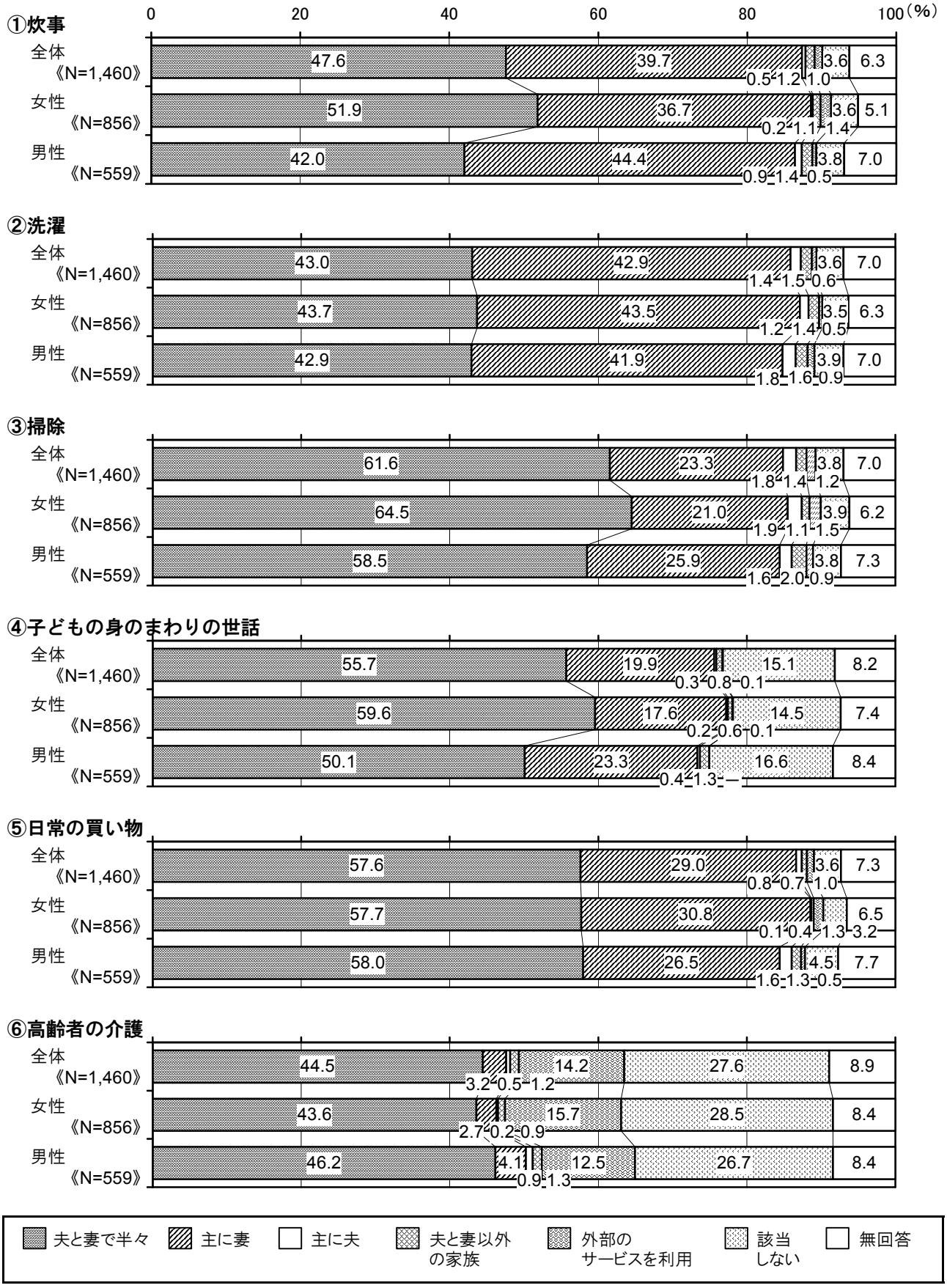
【全体】

6 項目すべてで，「夫と妻で半々」が最も高くなっている。「夫と妻で半々」は，［③掃除］が 61.6%と最も高く，次いで［⑤日常の買い物］57.6%，［④子どもの身のまわりの世話］55.7%と続き，すべての項目で 4 割を超えている。

【性別】

「夫と妻で半々」は，6 項目のうち 4 項目が女性が男性より高くなっている。女性が男性より高い項目の男女差は，［①炊事］が 9.9 ポイントと最も高く，次いで［④子どもの身のまわりの世話］9.5 ポイント，［③掃除］6.0 ポイントと続いている。

夫婦役割分担の現状と理想　②理想【全体，性別】



③ 現状と理想の比較　　※「該当しない」と「無回答」を除く

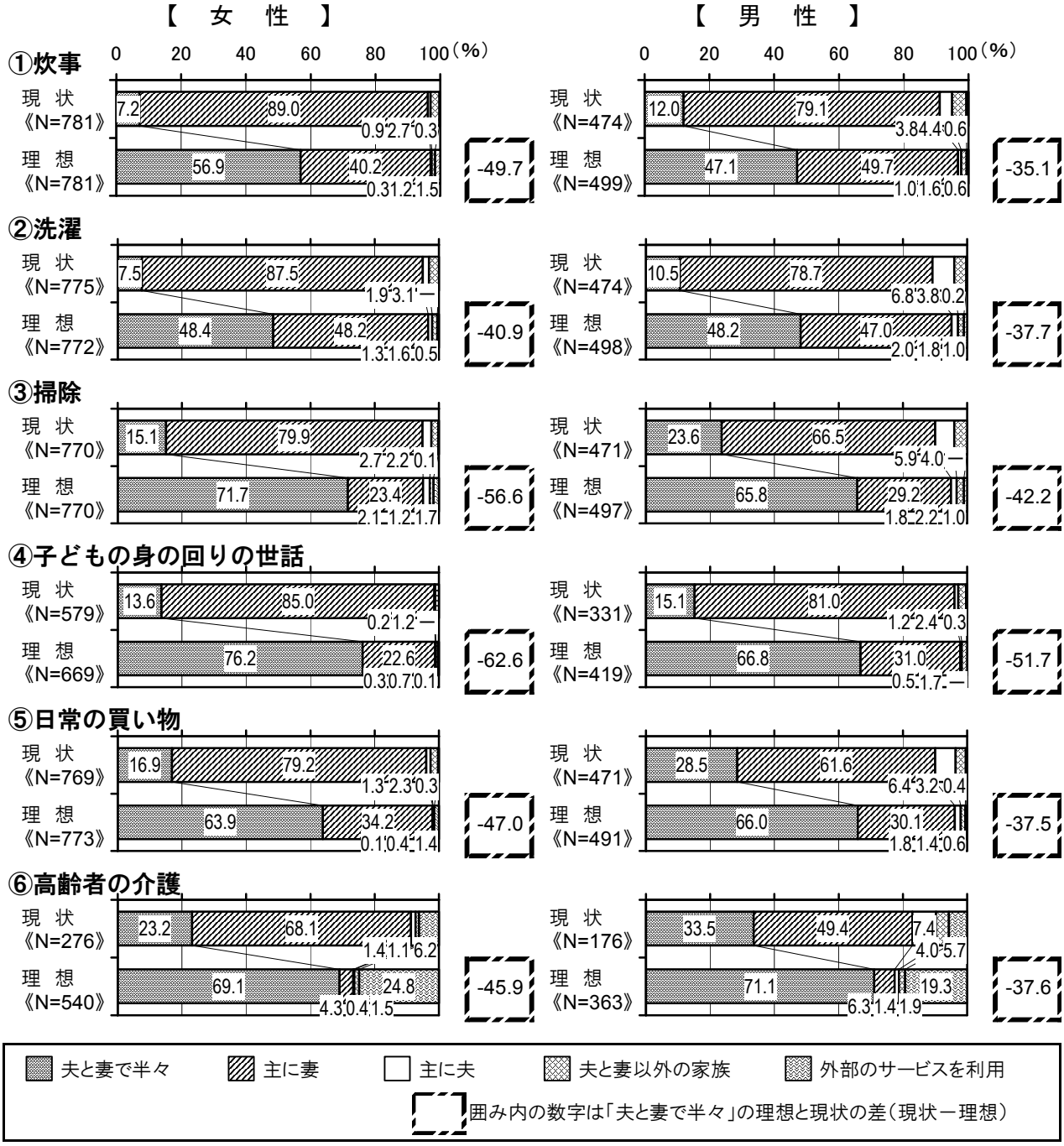
［子どもの身のまわりの世話］の現状と理想の差が最も大きい。

【性別】

現状と理想の差が最も大きいのは男女とも［④子どもの身のまわりの世話］で，女性 62.6 ポイント，男性 51.7 ポイントの差がみられる。また，どの項目も男性より女性の方が現状と理想の差が大きく，特に［①炊事］では 14.6 ポイント，［③掃除］では 14.4 ポイント，女性の差が大きくなっている。

［⑥高齢者の介護］では，他の項目よりも「外部のサービスを利用する」が現状・理想とも高くなっている。

夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較
《「該当しない」と無回答を除く》【性別】



【性・年代別】

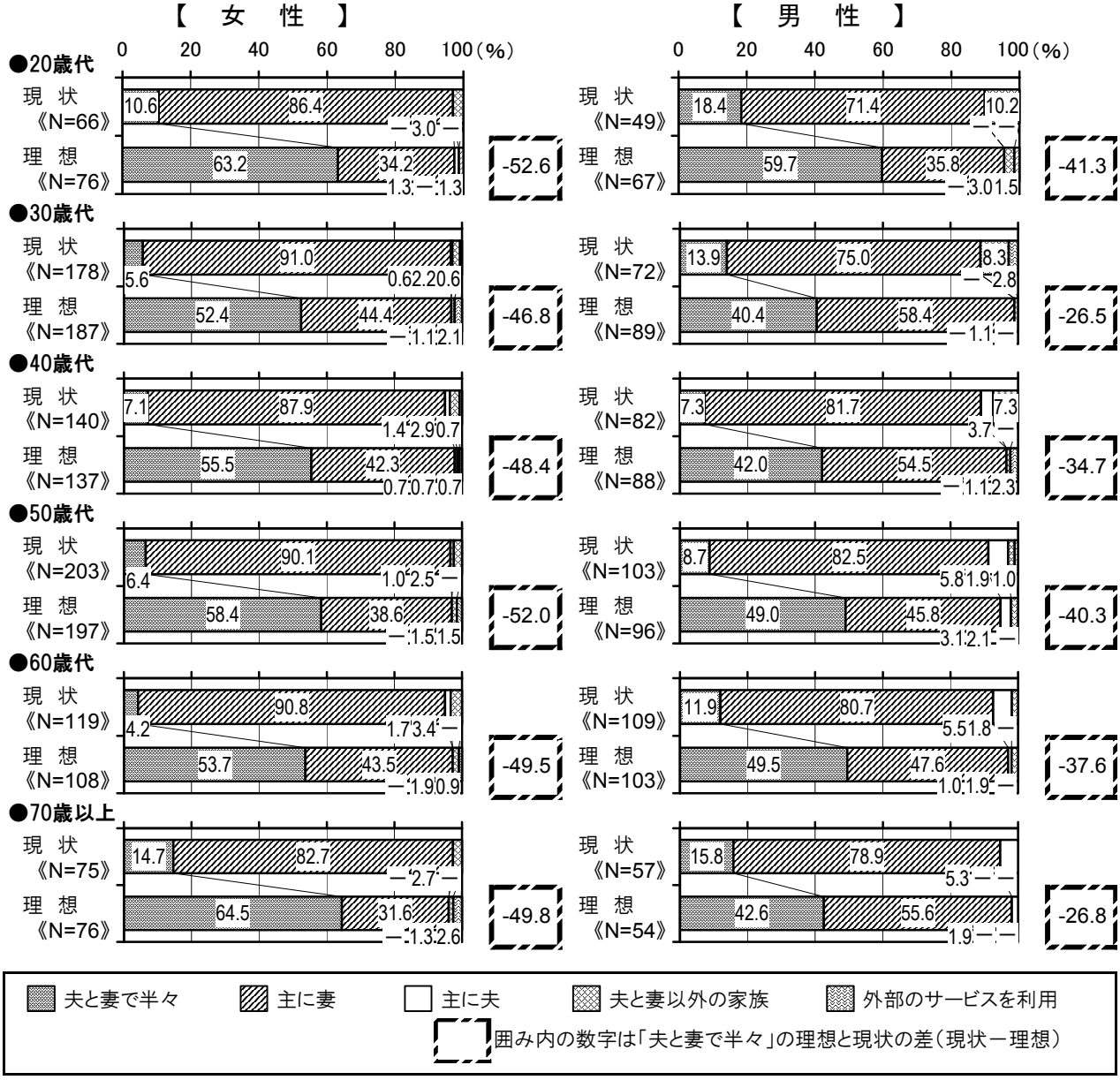
特に 40 歳代の男性は［子どもの身の回りの世話］の現状と理想の差が大きい。

特に男女差が大きい［①炊事］，［③掃除］，［④子どもの身のまわりの世話］の 3 項目について，性・年代別でみた。

［炊事］

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，女性はすべての年代で－50 ポイント前後となっているが，男性は 20 歳代，50 歳代が約－40 ポイントで，最も低い 30 歳代の約－25 ポイントとは約 15 ポイントの差がある。

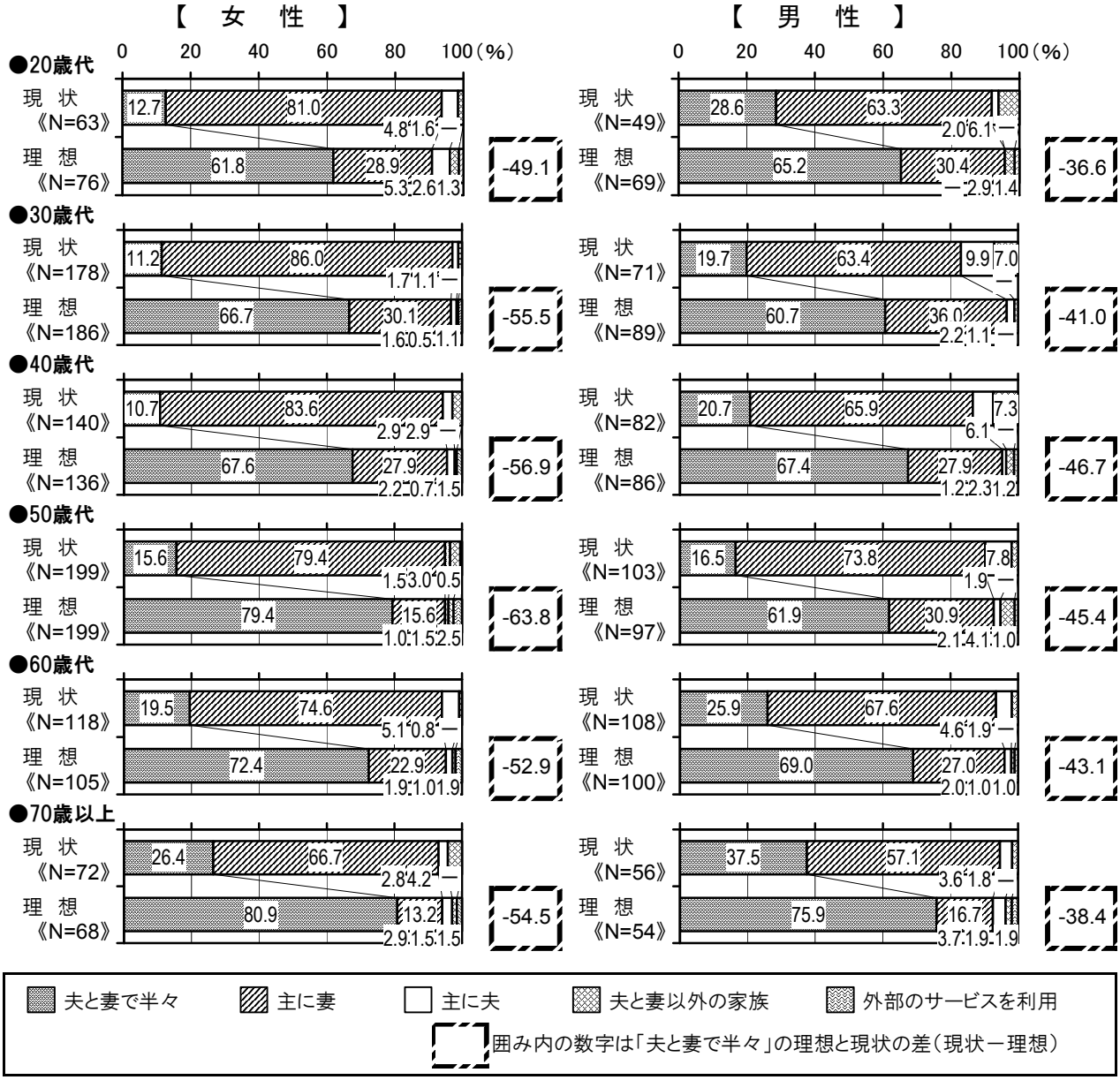
夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較［炊事］
《「該当しない」と無回答を除く》【性・年代別】



［掃除］

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，男女とも 40 歳代・50 歳代で高く，中年層の差が大きい。

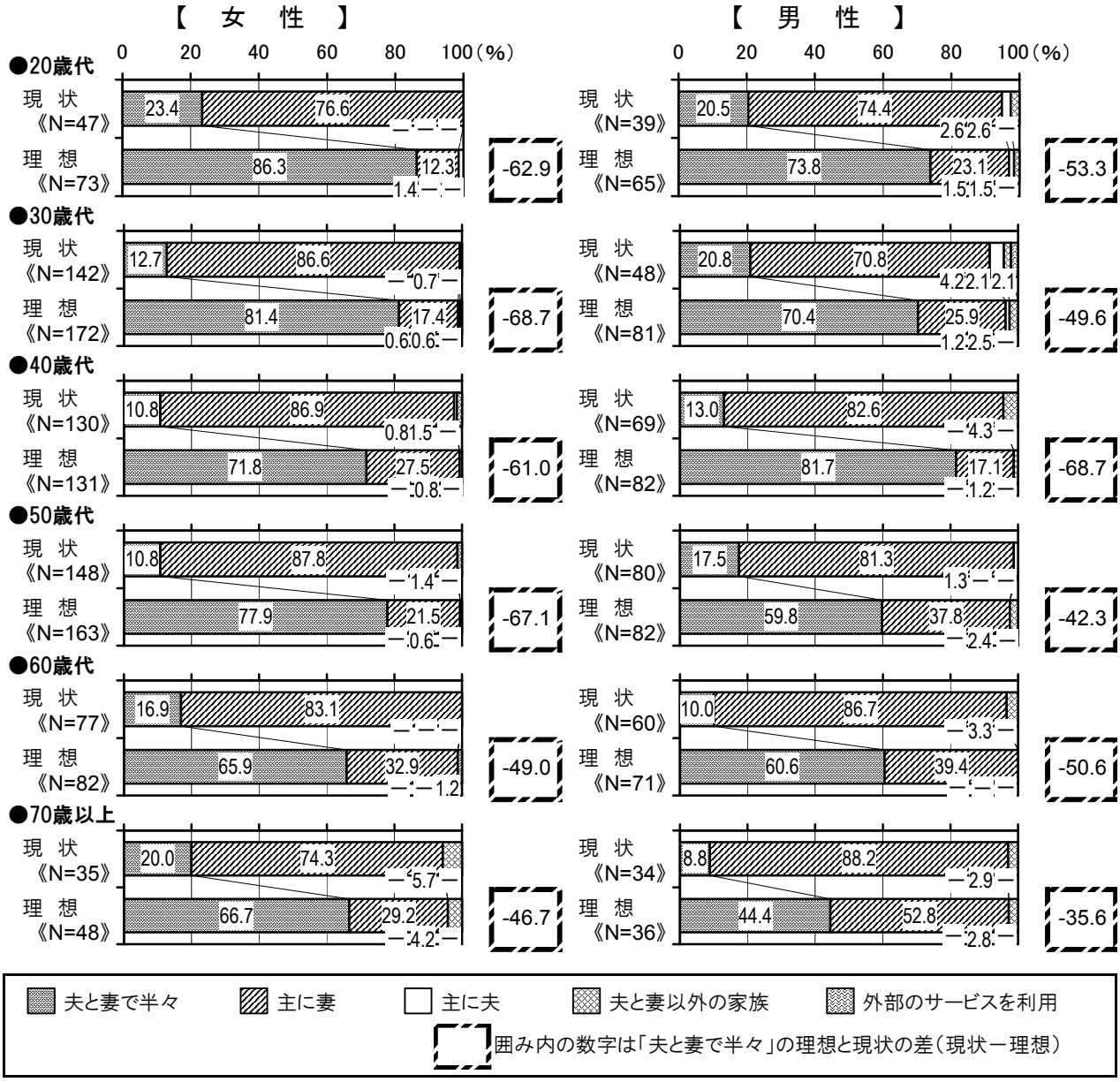
夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較［掃除］
《「該当しない」と無回答を除く》【性・年代別】



［子どもの身のまわりの世話］

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，女性の 50 歳代以下は-60 ポイントを下回って差が大きい。男性では年代によりばらつきがみられるが，40 歳代では－68.7 ポイントで，他の項目に比べても突出している。

夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較［子どもの身のまわりの世話］
《「該当しない」と無回答を除く》【性・年代別】



【性・子どもの有無別】

子どものいる女性は，現状では子どもの身の回りの世話を担っているが，理想は夫と妻で半々に分担したいと思っている。

特に男女差が大きい［①炊事］,［③掃除］,［④子どもの身のまわりの世話］の 3 項目について，性・子どもの有無別でみた。〔夫と妻で半々〕の現状と理想の差をみると，最も高い項目は，子どもの〔いる〕女性の［子どもの身の回りの世話］で 62.2 ポイント現状が理想を上回っている。

また，現状で子どもの有無による差が最も大きいのは，［③掃除］で，子のいる男性は，「主に妻が担っている」割合が，子のいない男性に比べ 20 ポイント高くなっている。次いで［①炊事］で 13.5 ポイント高く，子どもの有無により家事分担に差が生じている。

理想で，子どもの有無による差が最も大きいのは［④子どもの身のまわりの世話］で，子のいる男性は「主に妻」が担うことを理想とする人の割合が，子のいない男性に比べ 13.3 ポイント上回っている。次いで，同じく［④子どもの身のまわりの世話］で，子のいない男性は「夫と妻で半々」に担うことを理想とする人の割合が，子のいる男性より 11.9 ポイント上回っている。また，［①炊事］で，子のいない男性は「夫と妻で半々」に担うことを理想とする人の割合が子のいる男性より 10.2 ポイント高く，反対に，主に妻が担うことを理想とする人の割合は，子のいる男性の方が子のいない男性よりも 10.2 ポイント高い。

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，［①炊事］では，男女とも子のいない人のほうが差が大きく，特に男性では子のいない人のほうが，いる人より差が 11.1 ポイント大きくなっている。

男性では，子のいる人はいない人に比べて全ての項目で「主に妻」が担うのが理想と回答する割合が高くなっている。

夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較
《「該当しない」と無回答を除く》【性・子どもの有無別】

			現状						理想						※「夫と妻で半々」の現状と理想の差
			調査数（人）	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	調査数（人）	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	
			（単位：%）						（単位：%）						
①炊事	女性	いる	637	6.9	89.8	0.9	2.4	—	613	56.1	41.4	0.2	1.1	1.1	− 49.2
		いない	141	8.5	85.1	0.7	4.3	1.4	164	59.8	35.4	0.6	1.2	3.0	− 51.3
	男性	いる	354	12.1	82.5	2.8	2.3	0.3	341	43.7	53.1	1.5	1.2	0.6	− 31.6
		いない	116	11.2	69.0	6.9	11.2	1.7	154	53.9	42.9	—	2.6	0.6	− 42.7
③掃除	女性	いる	629	16.2	79.2	2.4	2.1	0.2	604	72.5	23.2	1.8	1.0	1.5	− 56.3
		いない	138	9.4	83.3	4.3	2.9	—	163	68.1	24.5	3.1	1.8	2.5	− 58.7
	男性	いる	352	22.4	71.3	4.3	2.0	—	336	64.6	30.7	1.5	2.1	1.2	− 42.2
		いない	115	27.0	51.3	11.3	10.4	—	157	68.2	26.1	2.5	2.5	0.6	− 41.2
④子どもの身のまわりの世話	女性	いる	528	12.5	86.0	0.2	1.3	—	545	74.7	24.2	0.2	0.7	0.2	− 62.2
		いない							122	83.6	14.8	0.8	0.8	—	
	男性	いる	278	13.7	82.7	1.1	2.2	0.4	287	63.1	35.2	0.3	1.4	—	− 49.4
		いない							128	75.0	21.9	0.8	2.3	—	

※現状と理想の差：「夫と妻で半々」の現状－理想

【性・就労形態別】

特に男女差が大きい［①炊事］,［③掃除］,［④子どもの身のまわりの世話］の 3 項目について，性・就労形態別でみた。

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，最も高い項目は，［④子どもの身のまわりの世話］の女性の〔非正規〕で，73.9 ポイント現状が理想を上回っている。また，［④子どもの身のまわりの世話］の女性の〔有職者全体〕と〔正規〕も 60 ポイント以上現状が理想を上回り，差が大きくなっている。

男女とも現状と理想の差は〔無職者〕より〔有職者〕のほうが大きく，〔正規〕と〔非正規〕の現状と理想の差は 3 項目とも、女性では〔正規〕より〔非正規〕の方が大きい。男性では〔非正規〕より〔正規〕の方が大きくなっている。

夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較
《「該当しない」と無回答を除く》【性・就労形態別】

			現状						理想						※「夫と妻で半々」の現状と理想の差
			調査数（人）	夫と妻で半々（単位：%）	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	調査数（人）	夫と妻で半々（単位：%）	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	
①炊事	女性	有識者全体	417	8.6	87.5	0.2	3.1	0.5	432	62.3	34.5	0.5	1.6	1.2	**－53.6**
		正規	147	13.6	79.6	0.7	5.4	0.7	169	66.9	29.0	1.2	1.8	1.2	－53.3
		自営	67	13.4	85.1	－	1.5	－	68	54.4	41.2	－	2.9	1.5	－41.0
		非正規	203	3.4	94.1	－	2.0	0.5	195	61.0	36.9	－	1.0	1.0	**－57.6**
		無職者	345	5.5	91.0	1.4	2.0	－	333	49.8	47.4	－	0.6	2.1	－44.3
	男性	有識者全体	360	19.4	70.3	5.3	5.0	－	379	61.2	33.5	1.8	2.4	1.1	**－41.8**
		正規	262	9.2	82.1	1.9	6.1	0.8	287	43.6	53.7	0.3	1.7	0.7	－34.4
		自営	68	20.6	64.7	7.4	5.9	1.5	62	53.2	40.3	3.2	1.6	1.6	－32.6
		非正規	31	22.6	77.4	－	－	－	31	41.9	51.6	3.2	3.2	－	－19.4
		無職者	105	10.5	81.0	7.6	1.0	－	113	52.5	46.0	0.9	0.9	－	**－41.7**
③掃除	女性	有識者全体	412	19.4	76.0	1.9	2.7	－	426	76.5	18.3	2.3	1.4	1.4	－57.1
		正規	144	24.3	68.8	2.8	4.2	－	170	82.4	11.8	2.9	1.8	1.2	**－58.0**
		自営	67	22.4	70.1	4.5	3.0	－	66	71.2	24.2	－	3.0	1.5	－48.8
		非正規	201	14.9	83.1	0.5	1.5	－	190	73.2	22.1	2.6	0.5	1.6	**－58.2**
		無職者	339	10.3	84.7	3.2	1.5	0.3	329	65.7	29.8	1.8	0.9	1.8	－55.3
	男性	有識者全体	360	19.4	70.3	5.3	5.0	－	379	61.2	33.5	1.8	2.4	1.1	**－41.8**
		正規	261	16.5	71.6	6.1	5.7	－	287	61.3	34.1	1.4	2.4	0.7	**－44.8**
		自営	69	24.6	66.7	4.3	4.3	－	62	61.3	30.6	3.2	1.6	3.2	－36.7
		非正規	30	33.3	66.7	－	－	－	30	60.0	33.3	3.3	3.3	－	－26.7
		無職者	103	37.9	53.4	7.8	1.0	－	112	79.5	16.1	1.8	1.8	0.9	－41.6
④子どもの身のまわりの世話	女性	有識者全体	317	13.9	84.9	－	1.3	－	380	80.0	18.9	0.3	0.8	－	**－66.1**
		正規	107	21.5	76.6	－	1.9	－	154	85.7	13.0	0.6	0.6	－	－64.2
		自営	50	22.0	76.0	－	2.0	－	54	63.0	35.2	－	1.9	－	－41.0
		非正規	160	6.3	93.1	－	0.6	－	172	80.2	19.2	－	0.6	－	**－73.9**
		無職者	249	13.7	84.7	0.4	1.2	－	278	71.2	27.3	0.4	0.7	0.4	－57.6
	男性	有識者全体	269	15.2	80.3	1.5	2.6	0.4	334	69.2	28.7	0.6	1.5	－	－53.9
		正規	209	15.3	79.4	1.9	2.9	0.5	260	70.0	27.3	0.8	1.9	－	**－54.7**
		自営	46	13.0	84.8	－	2.2	－	53	69.8	30.2	－	－	－	**－56.8**
		非正規	14	21.4	78.6	－	－	－	21	57.1	42.9	－	－	－	－35.7
		無職者	57	14.0	84.2	－	1.8	－	80	56.3	41.3	－	2.5	－	－42.2

※現状と理想の差：「夫と妻で半々」の現状－理想　↑
※「正規」=「勤め（正社員・正職員）」　※「非正規」=「勤め（パート・アルバイトなど）」+「その他」　↑
※「自営」=「自営業」　※「無職者」=「学生」+「専業主婦（夫）」+「その他」　↑

***性・就労形態区分の中で差が最も大きい項目　***2番目に大きい項目

【性・無職者の就労希望別】

現在無職で就労希望のある女性は［子どもの身のまわりの世話］の現状と理想の差が大きい。

特に男女差が大きい［①炊事］,［③掃除］,［④子どもの身のまわりの世話］の 3 項目について，性・無職者の就労希望別でみた。

「夫と妻で半々」の現状と理想の差をみると，最も高い項目は，［④子どもの身のまわりの世話］の女性の〔働きたい〕で，64.9 ポイント現状が理想を上回っている。次いで，［③掃除］の女性の〔わからない〕で差が大きく，62.3 ポイント現状が理想を上回っている。

夫婦役割分担の現状と理想　③現状と理想の比較
《「該当しない」と無回答を除く》【性・就労希望の有無別】

			現状						理想						※「夫と妻で半々」の現状と理想の差
			調査数（人）	夫と妻で半々（単位：%）	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	調査数（人）	夫と妻で半々（単位：%）	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	
①炊事	女性	全体★	337	5.3	91.1	1.5	2.1	—	325	49.8	47.7	—	0.6	1.8	− 44.5
		働きたい	102	2.9	94.1	—	2.9	—	101	40.6	58.4	—	1.0	—	− 37.7
		働きたいが働けない	114	7.0	87.7	3.5	1.8	—	109	56.0	39.4	—	0.9	3.7	**− 49.0**
		働きたくない	76	7.9	88.2	1.3	2.6	—	73	49.3	47.9	—	—	2.7	**− 41.4**
		わからない	25	—	100.0	—	—	—	23	52.2	47.8	—	—	—	—
	男性	全体★	94	10.6	80.9	8.5	—	—	96	51.0	46.9	1.0	1.0	—	− 40.4
		働きたい	22	18.2	77.3	4.5	—	—	23	65.2	34.8	—	—	—	**− 47.0**
		働きたいが働けない	28	7.1	85.7	7.1	—	—	32	46.9	53.1	—	—	—	**− 39.8**
		働きたくない	34	11.8	79.4	8.8	—	—	33	48.5	48.5	—	3.0		− 36.7
		わからない	2	—	50.0	50.0	—	—	1	—	100.0	—	—	—	—
③掃除	女性	全体★	333	10.5	84.7	3.0	1.5	0.3	321	65.4	30.5	1.9	0.6	1.6	− 54.9
		働きたい	102	3.9	92.2	2.9	1.0	—	101	56.4	40.6	2.0	1.0	—	− 52.5
		働きたいが働けない	114	12.3	80.7	5.3	1.8	—	109	66.1	28.4	2.8	—	2.8	− 53.8
		働きたくない	74	13.5	81.1	1.4	2.7	1.4	72	69.4	25.0	1.4	1.4	2.8	**− 55.9**
		わからない	25	16.0	84.0	—	—	—	23	78.3	21.7	—	—	—	**− 62.3**
	男性	全体★	92	37.0	53.3	8.7	1.1	—	95	81.1	13.7	2.1	2.1	1.1	− 44.1
		働きたい	22	50.0	45.5	4.5	—	—	23	87.0	13.0	—	—	—	− 37.0
		働きたいが働けない	27	37.0	55.6	7.4	—	—	31	83.9	16.1	—	—	—	**− 46.9**
		働きたくない	33	33.3	51.5	12.1	3.0	—	32	78.1	9.4	3.1	6.3	3.1	**− 44.8**
		わからない	2	—	100.0	—	—	—	1	—	100.0	—	—	—	—

			現状（単位：%）						理想（単位：%）						※「夫と妻で半々」の現状と理想の差
			調査数（人）	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	調査数（人）	夫と妻で半々	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部のサービスを利用	
④ 子どもの身のまわりの世話	女性	全体★	242	12.4	86.0	0.4	1.2	―	269	70.3	28.3	0.4	0.7	0.4	－ 57.9
		働きたい	85	8.2	90.6	―	1.2	―	93	73.1	25.8	1.1	―	―	**－ 64.9**
		働きたいが働けない	83	15.7	83.1	1.2	―	―	92	71.7	27.2	―	―	1.1	－ 56.0
		働きたくない	41	9.8	85.4	―	4.9	―	47	63.8	34.0	―	2.1	―	－ 54.0
		わからない	19	10.5	89.5	―	―	―	21	66.7	28.6	―	4.8	―	**－ 56.2**
	男性	全体★	92	37.0	53.3	8.7	1.1	―	95	81.1	13.7	2.1	2.1	1.1	－ 44.1
		働きたい	22	50.0	45.5	4.5	―	―	23	87.0	13.0	―	―	―	－ 37.0
		働きたいが働けない	27	37.0	55.6	7.4	―	―	31	83.9	16.1	―	―	―	**－ 46.9**
		働きたくない	33	33.3	51.5	12.1	3.0	―	32	78.1	9.4	3.1	6.3	3.1	**－ 44.8**
		わからない	2	―	100.0	―	―	―	1	―	100.0	―	―	―	―

※現状と理想の差：「夫と妻で半々」の現状－理想
★「全体」=「専業主婦（夫）」+「無職」

***性・就労希望の有無区分の中で差が最も大きい項目　***2番目に大きい項目

(2) 男性の家事・子育て・介護等への参加

問４．男性の家事，子育て，介護参加についておうかがいします。
（1）《男性の方におうかがいします。》
家事，子育て，介護に参加したいですか。
（2）《女性の方におうかがいします。》
男性に家事，子育て，介護に参加してほしいですか。

女性の 20 歳代から 50 歳代までは「参加してほしい」が 9 割以上となっており，男性の参加を強く求めている様子がうかがわれる。

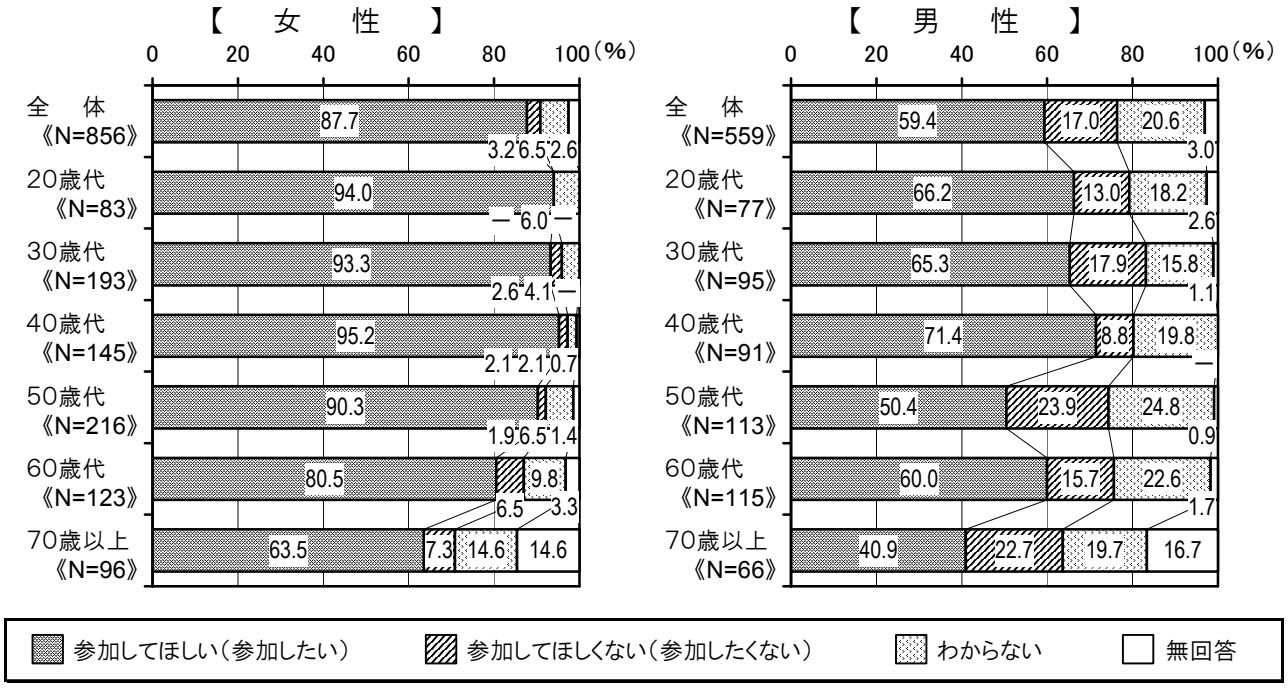
【性・年代別】

女性では，20 歳代から 50 歳代まで「参加してほしい」が 9 割以上となっており，男性の参加を強く求めている様子がうかがわれる。

男性では，「参加したい」が最も高いのは 40 歳代の 71.4%，最も低いのは 70 歳以上の 40.9%と，30.5 ポイントの差となっており，年代による差が女性よりも大きくなっている。

同年代の男女で比べると，「参加してほしい（参加したい）」はすべての年代で女性の方が高く，最も男女差が大きいのは 50 歳代の 39.9 ポイント，次いで 30 歳代 28.0 ポイント，20 歳代 27.8 ポイントなど，20 ポイント以上男性の方が下回っている。

男性の家事・子育て・介護等への参加【性・年代別】



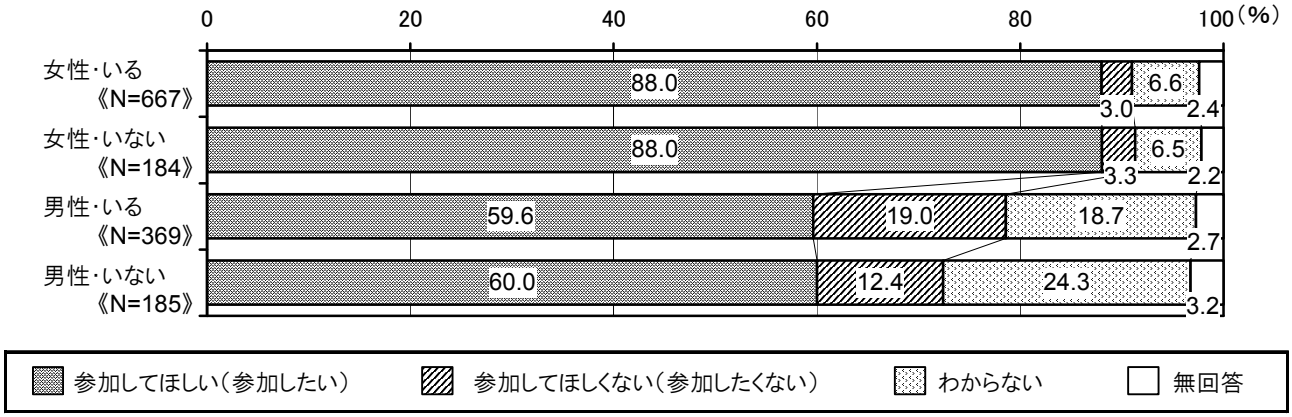
【性・子どもの有無別】

子のいる男性は，家事・子育て・介護等へ参加をしたくない人の割合が高い。

女性では，子の有無にかかわらずほぼ同様の結果となり，子どもの有無の影響はあまりみられない。

男性では，「参加したい」は，子どものいる人もいない人も約 6 割となっているが，「参加したくない」は〔男性・子どもあり〕が，〔男性・子どもなし〕を 6.6 ポイント上回っている。また，「わからない」は，〔男性・子どもなし〕が〔男性・子どもあり〕を 5.6 ポイント上回っている。

男性の家事・子育て・介護等への参加【性・子どもの有無別】



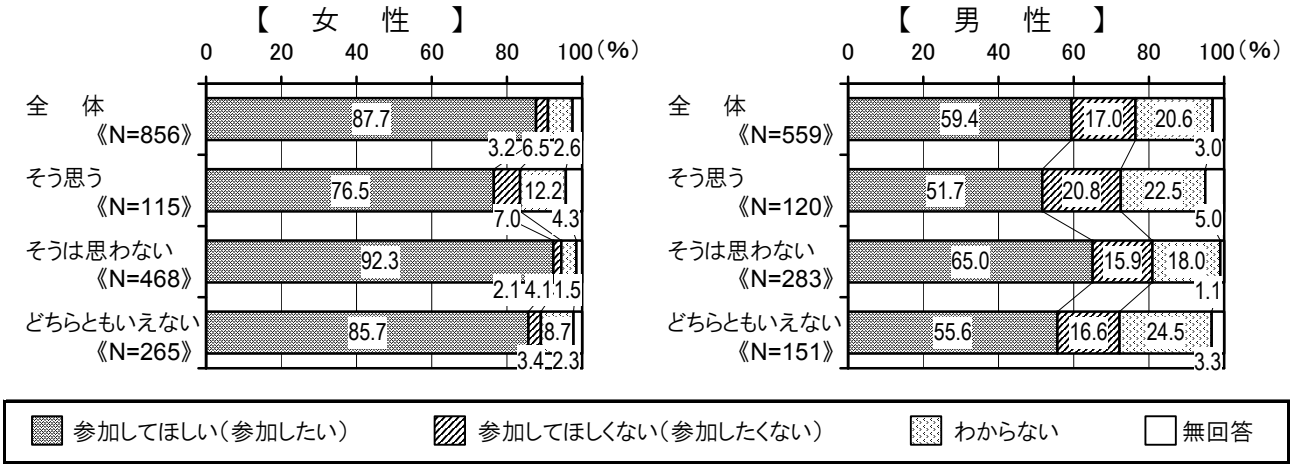
【性・性別役割分担意識“男は仕事，女は家庭”別】

“男は仕事，女は家庭”の賛成派は，男性の家事参加に反対する割合が高い。

男女とも，「参加してほしい（参加したい）」は“男は仕事，女は家庭”の反対派〔そうは思わない〕が最も高く，「参加してほしくない（参加したくない）」は“男は仕事，女は家庭”の賛成派〔そう思う〕が最も高くなっており，性別役割分担意識との相関関係がみられる。

同意見の男女で比べると，「参加してほしい（参加したい）」はすべての層で女性の方が高いが，特に“男は仕事，女は家庭”の反対派〔そうは思わない〕では，27.3 ポイントの差で女性が男性を上回っている。

男性の家事・子育て・介護等への参加
【性・性別役割分担意識“男は仕事，女は家庭”別】

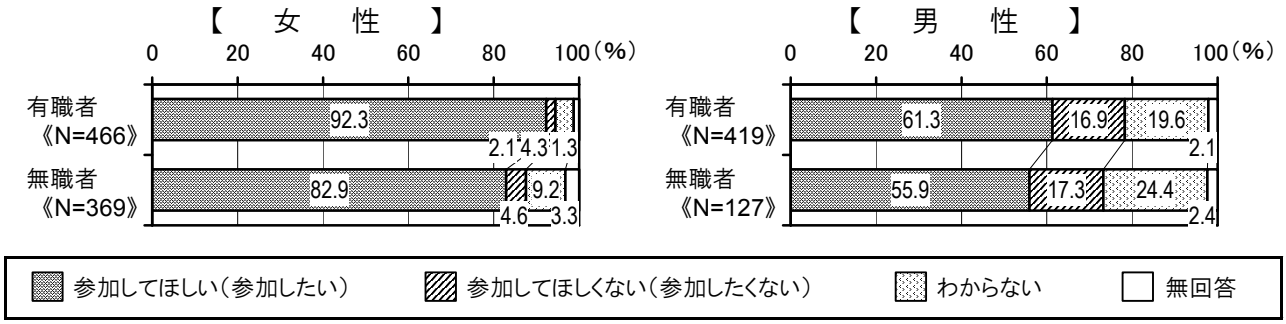


【性・職業の有無別】

男性の家事参加賛成派は，無職者よりも有職者のほうが多い。

「参加してほしい（参加したい）」は男女とも，〔有職者〕の方が高く，「参加してほしくない（参加したくない）」は〔無職者〕の方が高くなっている。

男性の家事・子育て・介護等への参加【性・職業の有無別】

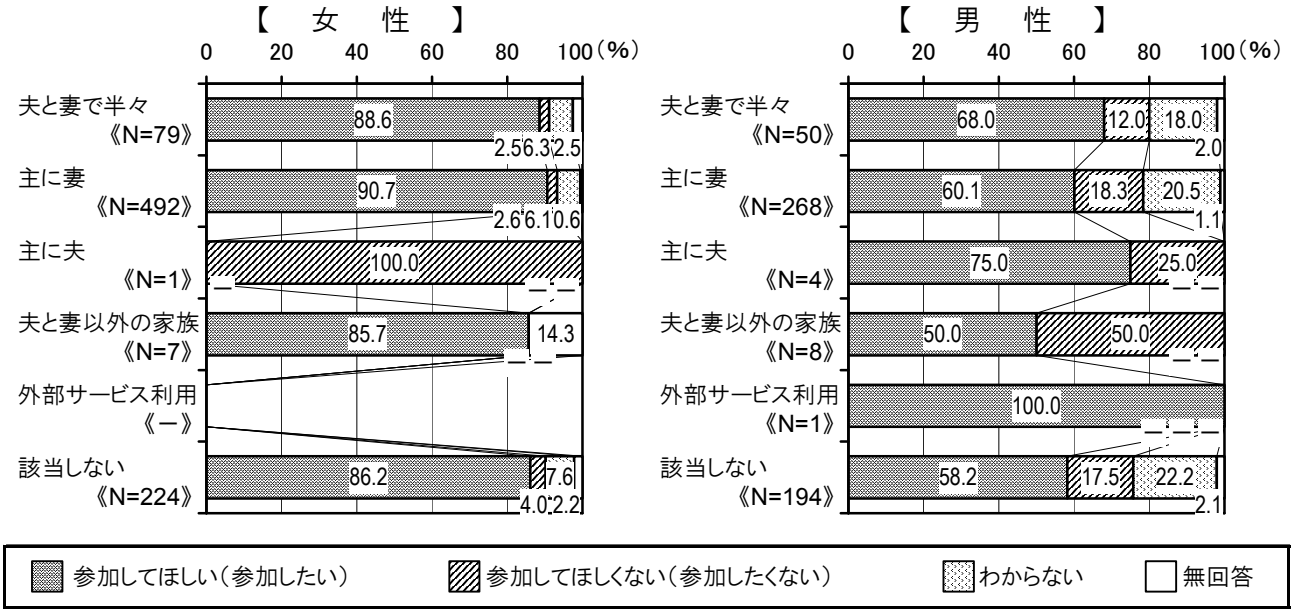


【性・子どもの身のまわりの世話をしている人（現状）別】

子どもの身の回りの世話をしている女性の９割が，男性の家事参加を望んでいる。

「参加してほしい」は，女性では子どもの身のまわりの世話をしているのが〔主に妻〕で 9 割を超えて最も高く，子供の身のまわりの世話をしている女性が男性の参加を望んでいる様子がうかがわれる。

男性の家事・子育て・介護等への参加
【性・子どもの身のまわりの世話をしている人（現状）別】



(3) 男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと

《問４．で「参加したい（参加してほしい）」を選んだ方におうかがいします。》
問４-１．今後，男性が女性とともに家事，子育て，介護に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか。〈２つまで回答可〉

男女ともに「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が５割半ばと最も高い。

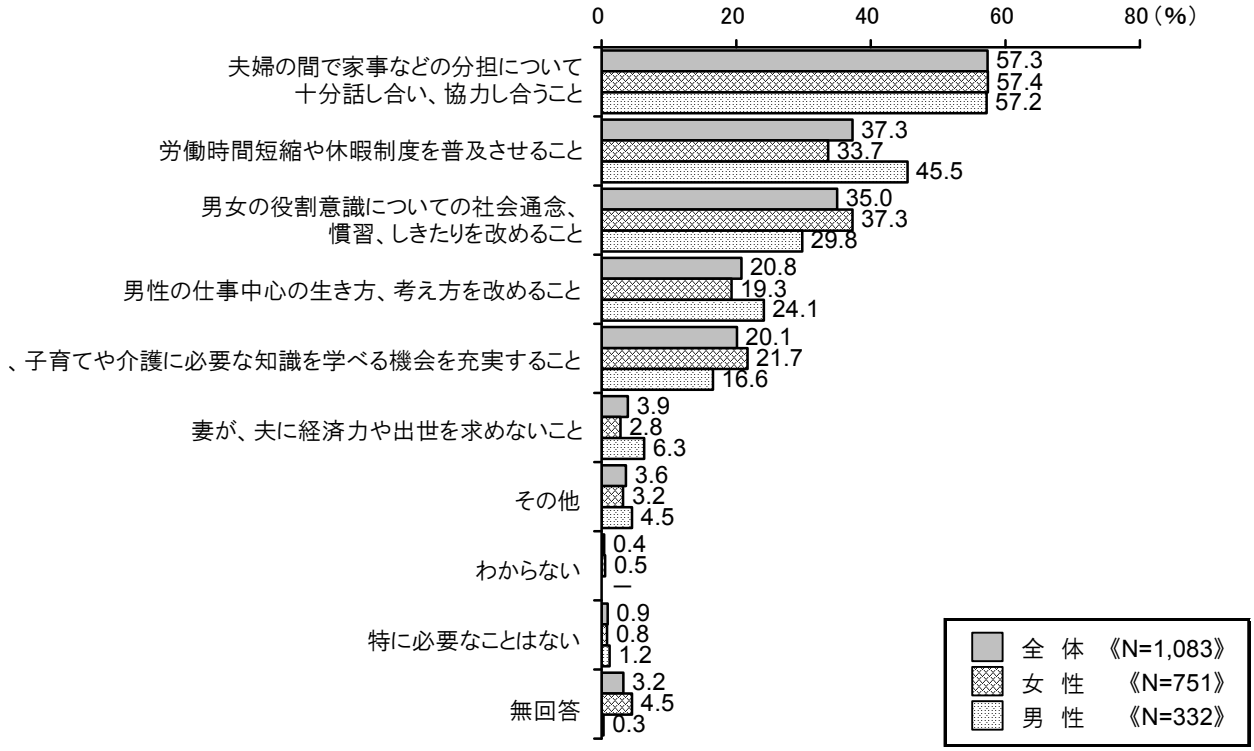
【全体】

「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が 57.3%と最も多く，次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」37.3%，「男女の役割についての社会通念，慣習，しきたりを改めること」35.0%と続いている。

【性別】

男女ともに「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が 5 割半ばと最も高くなっているが，2 番目は，女性では「男女の役割についての社会通念，慣習，しきたりを改めること」37.3%，男性では「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」45.5%と，2 番目以降の順は男女で異なっている。

男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと〈2 つまで回答可〉
《参加を望む人》【全体，性別】

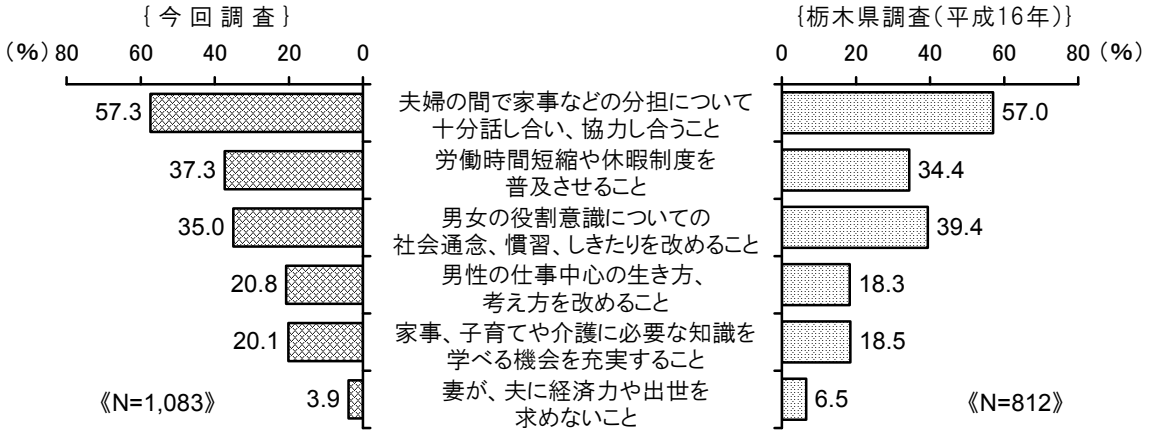


○　栃木県調査（平成16年）との比較
男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと　○

栃木県調査（平成 16 年），今回調査とも，「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が最も高い。

栃木県調査（平成 16 年）と今回調査を比べると，「夫婦の間で家事などの分担について十分話し合い，協力し合うこと」が共通で最も高くなっている。2 位以下の項目で，今回調査の方が割合が高いのは，「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」「男性中心の生き方，考え方を改めること」「家事，子育てや介護に必要な知識を学べる機会を充実すること」の 3 項目となっている。

男性の家事・子育て・介護等への参加に必要なこと　上位 6 項目
{今回調査・栃木県調査（平成 16 年)}【全体】



3. 社会参画

(1) 社会的活動の参加状況と参加意向

問５．あなたは（１）現在，何か地域などでの活動をしていますか。
また，（２）今後行ってみたい活動は何ですか。　〈(1)（2）とも，複数回答可〉

現在行っている活動・今後行ってみたい活動ともに，「趣味やスポーツのグループ活動」が最も多い。また，現在行っている活動が特にない人が約半数を占めている。

【全体】

1）現在行っている活動（参加状況）

1 割を超えているのは，「趣味やスポーツのグループ活動」18.3%，「自治会等の地域活動」16.2%，「ＰＴＡや子ども会，育成会の活動」11.2%の 3 項目となっている。また，「特にない」が 47.5%と高くなっている。

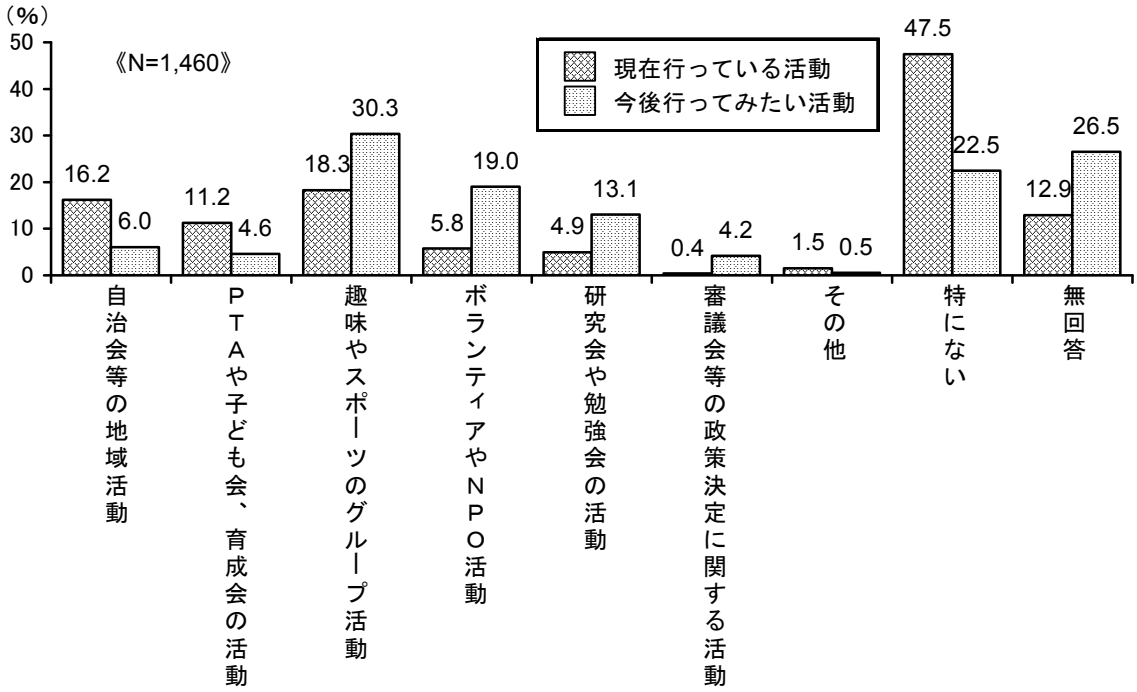
2）今後行ってみたい活動（参加意向）

「趣味やスポーツのグループ活動」が 30.3%と最も多く，次いで「ボランティアやＮＰＯ活動」19.0%，「研究会や勉強会の活動」13.1%と続いている。

現在行っている活動と比較すると，「自治会等の地域活動」は 10.2 ポイント，「ＰＴＡや子ども会，育成会の活動」は 6.6 ポイント，参加意向の方が低くなっている。

また，今後行ってみたい活動が「特にない」は，現在行っている活動が「特にない」の割合に比べ大幅に低い。

社会的活動の参加状況と参加意向〈複数回答可〉【全体】



【性別】

現在行っている活動が「特にない」人は，女性より男性に多い。今後，「審議会等の政策決定に関する活動」を行ってみたいと思う人は，女性より男性に多い。

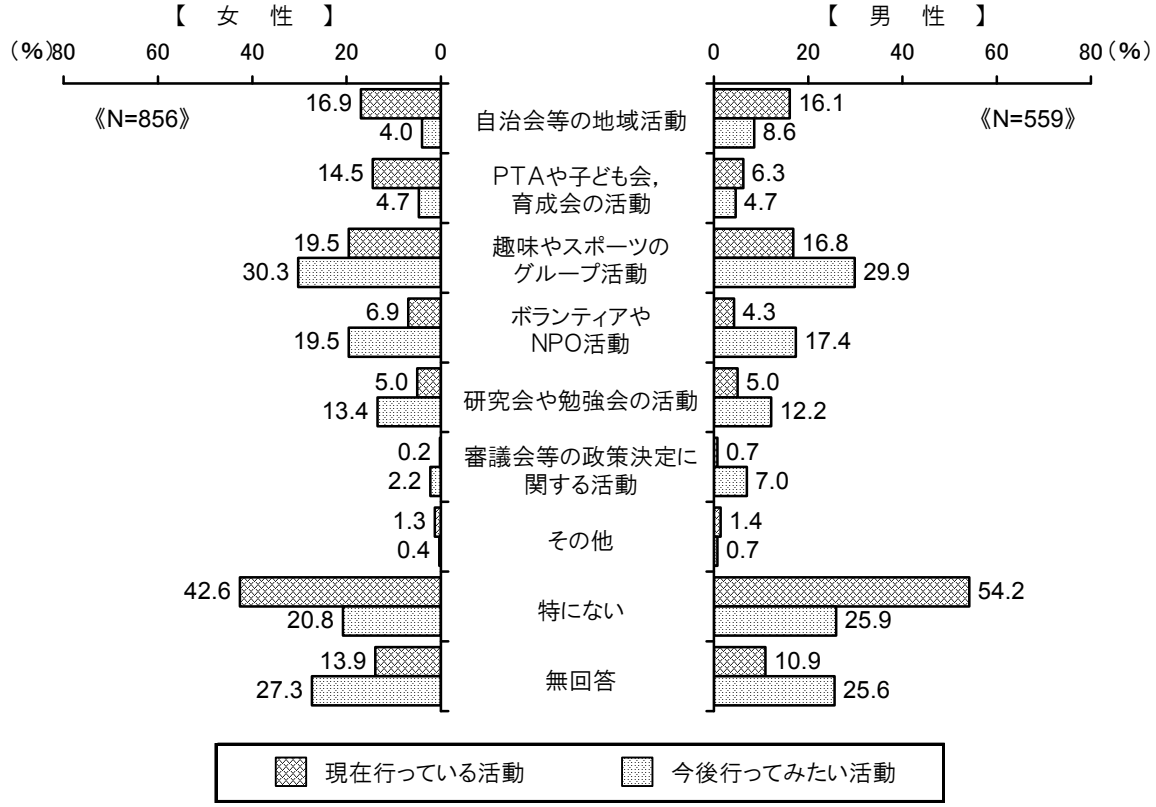
1）現在行っている活動（参加状況）

男女とも「趣味やスポーツのグループ活動」，「自治会等の地域活動」で活動している割合は高くなっている。この 2 つは男性より女性が若干高くなっている。また，「特にない」は，男性が女性を 11.6 ポイント上回っている。

2）今後行ってみたい活動（参加意向）

男女とも「趣味やスポーツの活動」が最も高く，約 3 割となっている。また，2 番目以降の順位も，男女とも「ボランティアやＮＰＯ活動」約 2 割，「研究会や勉強会の活動」1 割強と続いている。「審議会等の政策決定に関する活動」は男性が女性を 4.8 ポイント上回り，性別による違いがみられる。

社会的活動の参加状況と参加意向〈複数回答可〉【性別】



【性・年代別】

概ね年齢が上がるほど，現在行っている活動が「特にない」人は少なくなる。

1）現在行っている活動（参加状況）

女性の 40 歳代で「ＰＴＡや子ども会，育成会の活動」が最も高くなっている他は，男女とも「特にない」が最も高いが，概ね年齢が上がるほど割合は低くなっている。「ＰＴＡや子ども会，育成会の活動」は，女性では 20 歳代から 40 歳代にかけて，年齢が上がるほど高い順位となっている。

2）今後行ってみたい活動（参加意向）

女性 20 歳代から 60 歳代と，男性 40 歳代以上では，「趣味やスポーツのグループ活動」が最も高いが，女性 70 歳以上と男性 20 歳代・30 歳代では，「特にない」が最も高くなっている。「ボランティアやＮＰＯ活動」は，女性では，年代の高い層の方で順位が上がっているが，男性では，40 歳代と 50 歳代で２位と最も高い順位となっている。

社会的活動の参加状況と参加意向　上位 3 項目〈複数回答可〉【性・年代別】

		現在行っている活動			今後行ってみたい活動		
		1位	2位	3位	1位	2位	3位
女性	20歳代《N=83》	特にない 65.1%	趣味やスポーツのグループ活動 14.5%	PTAや子ども会，育成会の活動 4.8%	趣味やスポーツのグループ活動 34.9%	特にない 24.1%	ボランティアやNPO活動 21.7%
	30歳代《N=193》	特にない 53.4%	PTAや子ども会，育成会の活動 20.7%	自治会等の地域活動 13.5%	趣味やスポーツのグループ活動 35.8%	特にない 23.3%	ボランティアやNPO活動 20.2%
	40歳代《N=145》	PTAや子ども会，育成会の活動 42.1%	特にない 32.4%	趣味やスポーツのグループ活動 22.8%	趣味やスポーツのグループ活動 30.3%	ボランティアやNPO活動 20.7%	特にない 18.6%
	50歳代《N=216》	特にない 42.6%	自治会等の地域活動 19.4%	趣味やスポーツのグループ活動 19.4%	趣味やスポーツのグループ活動 34.7%	ボランティアやNPO活動 24.1%	特にない 18.1%
	60歳代《N=123》	特にない 31.7%	趣味やスポーツのグループ活動 26.8%	自治会等の地域活動 23.6%	趣味やスポーツのグループ活 26.0%	ボランティアやNPO活動 19.5%	研究会や勉強会の活動 15.4%
	70歳以上《N=96》	特にない 31.3%	趣味やスポーツのグループ活動 21.9%	自治会等の地域活動 17.7%	特にない 29.2%	趣味やスポーツのグループ活動 10.4%	研究会や勉強会の活動 6.3%
男性	20歳代《N=77》	特にない 71.4%	趣味やスポーツのグループ活動 13.0%	研究会や勉強会の活動 7.8%	特にない 33.8%	趣味やスポーツのグループ活動 31.2%	ボランティアやNPO活動 11.7%
	30歳代《N=95》	特にない 60.0%	趣味やスポーツのグループ活動 18.9%	自治会等の地域活動 10.5%	特にない 37.9%	趣味やスポーツのグループ活動 24.2%	ボランティアやNPO活動 14.7%
	40歳代《N=91》	特にない 54.9%	PTAや子ども会，育成会の活動 16.5% 趣味やスポーツのグループ活動 16.5%		趣味やスポーツのグループ活動 44.0%	ボランティアやNPO活動 20.9% 特にない 20.9%	
	50歳代《N=113》	特にない 61.9%	自治会等の地域活動 17.7%	趣味やスポーツのグループ活動 10.6%	趣味やスポーツのグループ活動 25.7%	ボランティアやNPO活動 22.1%	特にない 21.2%
	60歳代《N=115》	特にない 42.6%	自治会等の地域活動 24.3%	趣味やスポーツのグループ活動 22.6%	趣味やスポーツのグループ活動 32.2%	特にない 23.5%	ボランティアやNPO活動 20.0%
	70歳以上《N=66》	特にない 31.8%	自治会等の地域活動 28.8%	趣味やスポーツのグループ活動 18.2%	趣味やスポーツのグループ活動 19.7%	特にない 18.2%	ボランティアやNPO活動 10.6%

○　前回調査との比較　　社会的活動の参加状況と参加意向　○

今後行ってみたい活動が「特にない」は，男女とも前回より今回の方が低い。

【性別】

1）現在行っている活動（参加状況）

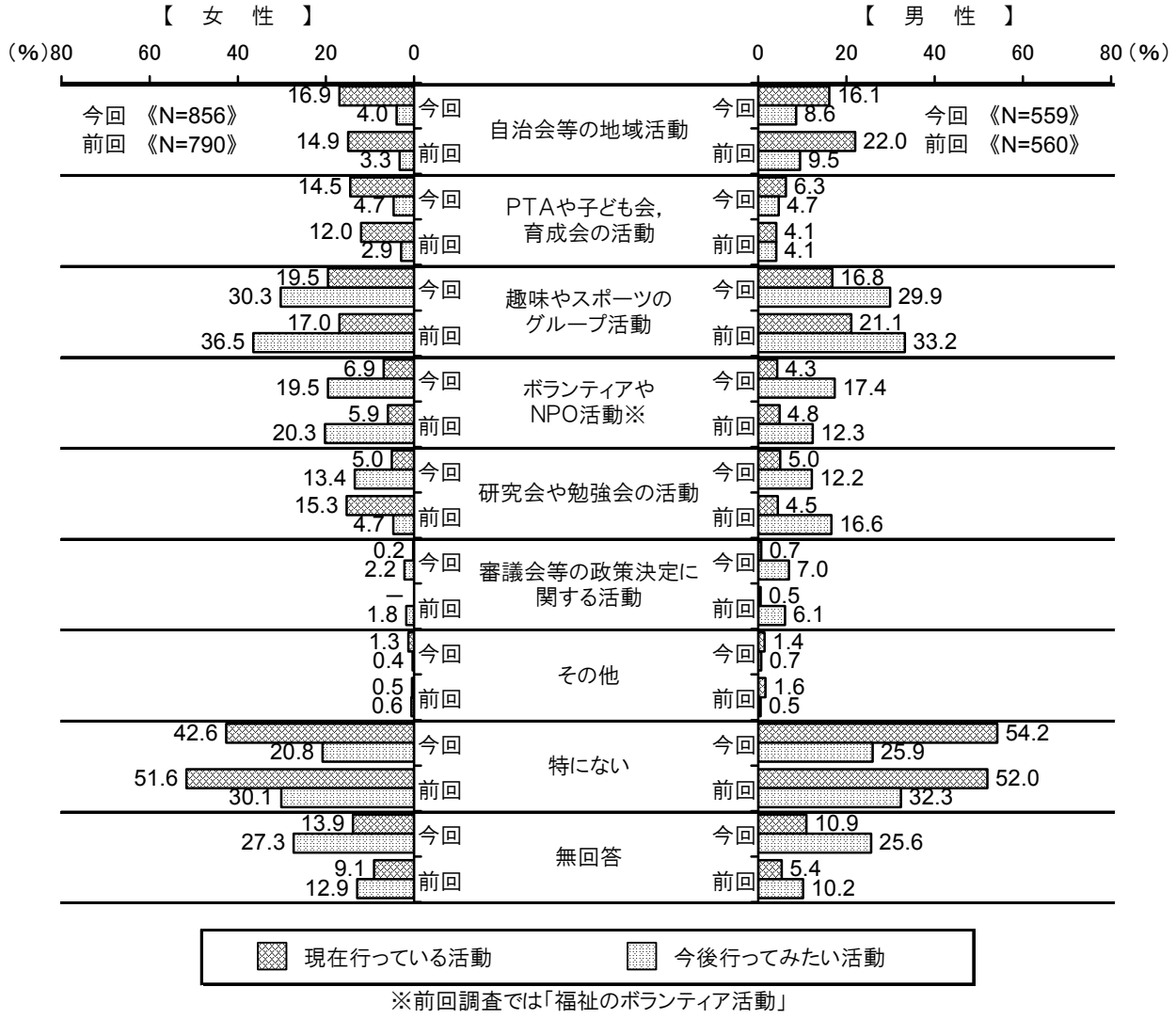
前回調査においても男女とも「趣味やスポーツのグループ活動」が最も高くなっているが，今回調査では前回調査より女性は 2.5 ポイント高く，男性は 4.3 ポイント低くなっている。また，女性では，「特にない」が前回より今回の方が 9.0 ポイント低くなっている。

2）今後行ってみたい活動（参加意向）

前回調査においても「趣味やスポーツのグループ活動」が最も高くなっているが，男女とも前回よりも今回の方が女性では 6.2 ポイント，男性では 3.3 ポイント下回っている。また，男性では前回 2 位であった「研究会や勉強会の活動」が今回 3 位となり，4.4 ポイント低くなっている。

また，「特にない」は，男女とも前回より今回の方が低くなっている。

社会的活動の参加状況と参加意向 ｛今回調査・前回調査｝〈複数回答可〉【性別】



※前回調査では「福祉のボランティア活動」

(2) 社会的活動に参加していない理由

《問５．の（１）で，「特にない」と回答した方におうかがいします。》
問５-１．現在，あなたがこれらの社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか。
〈複数回答可〉

男女とも「仕事が忙しく時間がないから」が最も多くなっている。

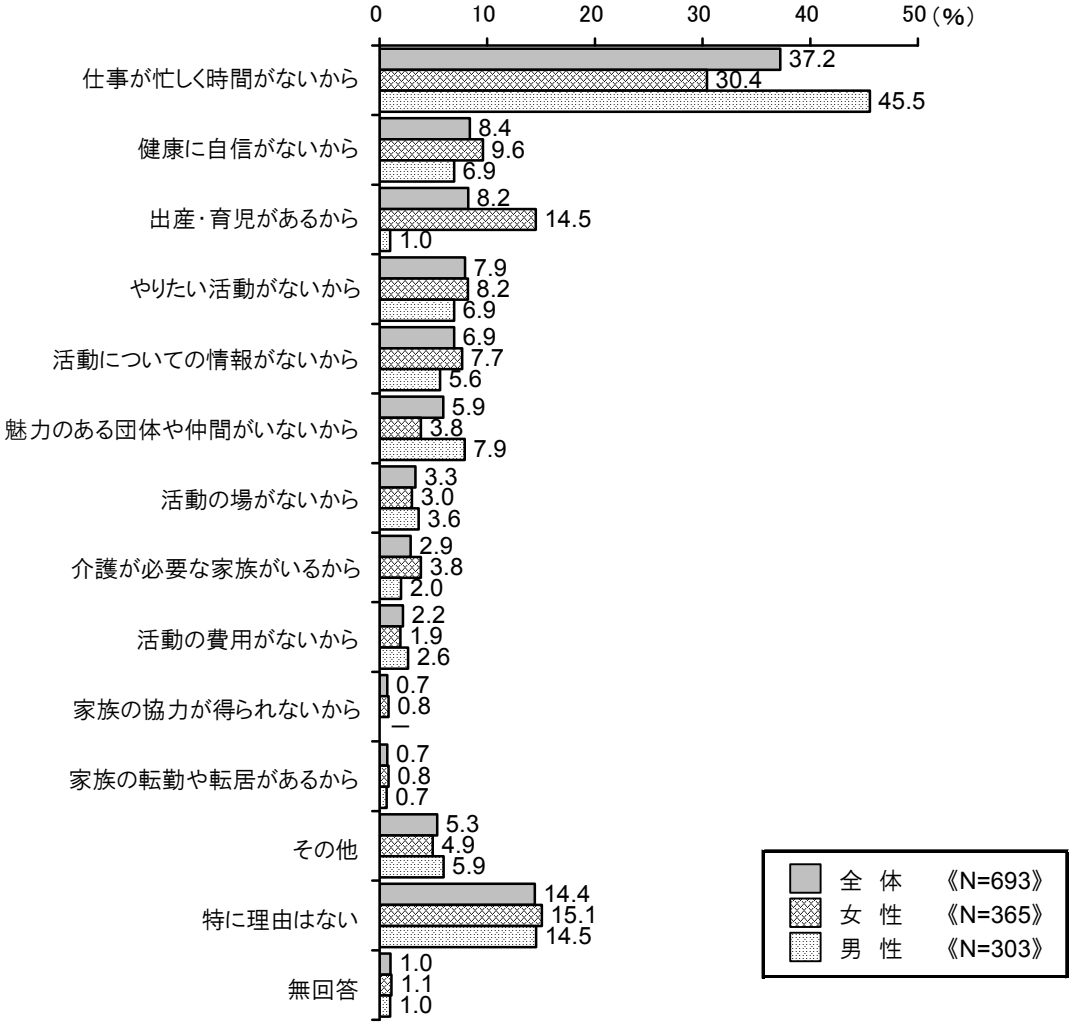
【全体】

「仕事が忙しく時間がないから」が 37.2%と最も多く，続く「健康に自身がないから」8.4%，「出産・育児があるから」8.2%などを大きく引き離している。

【性別】

男女とも「仕事が忙しく時間がないから」が最も多く，特に男性では 45.5%と，女性より 15.1 ポイント上回っている。また，2 番目に多いのは，女性では「出産・育児があるから」14.5%，男性では「魅力のある団体や仲間がいないから」7.9%となっており，性による違いがみられる。

社会的活動に参加していない理由〈複数回答可〉《現在行っている活動が特にない人》
【全体，性別】



○　前回調査との比較　　社会的活動に参加していない理由　○

「仕事が忙しく時間がない」ことを理由に社会的活動に参加しない人は，男女ともに前回調査よりも増えている。

【性別】

前回調査においても男女とも「仕事が忙しく時間がない」が最も多くなっているが，男女とも前回よりも今回の方が女性では 8.8 ポイント，男性では 12.2 ポイント上回っている。

社会的活動に参加していない理由　上位 5 項目 ｛今回調査・前回調査｝〈複数回答可〉
《現在行っている活動が特にない人》【性別】

	性別	調査数（N）	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査	女性	365	仕事が忙しく時間がないから 30.4%	出産・育児があるから 14.5%	健康に自信がないから 9.6%	やりたい活動がないから 8.2%	活動についての情報がないから 7.7%
	男性	303	仕事が忙しく時間がないから 45.5%	魅力のある団体や仲間がいないから 7.9%	健康に自信がないから 6.9%	やりたい活動がないから 6.9%	活動についての情報がないから 5.6%
前回調査	女性	408	仕事が忙しく時間がないから 21.6%	出産・育児があるから 11.3%	健康に自身がないから 10.0%	活動についての情報がないから 7.8%	やりたい活動がないから 4.9%
	男性	291	仕事が忙しく時間がないから 33.3%	活動についての情報がないから 11.7%	健康に自身がないから 11.0%	やりたい活動がないから 7.9%	魅力のある団体や仲間がいないから 3.8%

4. 少子高齢社会

(1) 少子化が進んだ理由

問６．近年，女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっていますが，その理由はどのようなことがあると思いますか。〈２つまで回答可〉

男女とも「育児・教育のための経済的負担が大きいから」が４割半ばと最も高い。

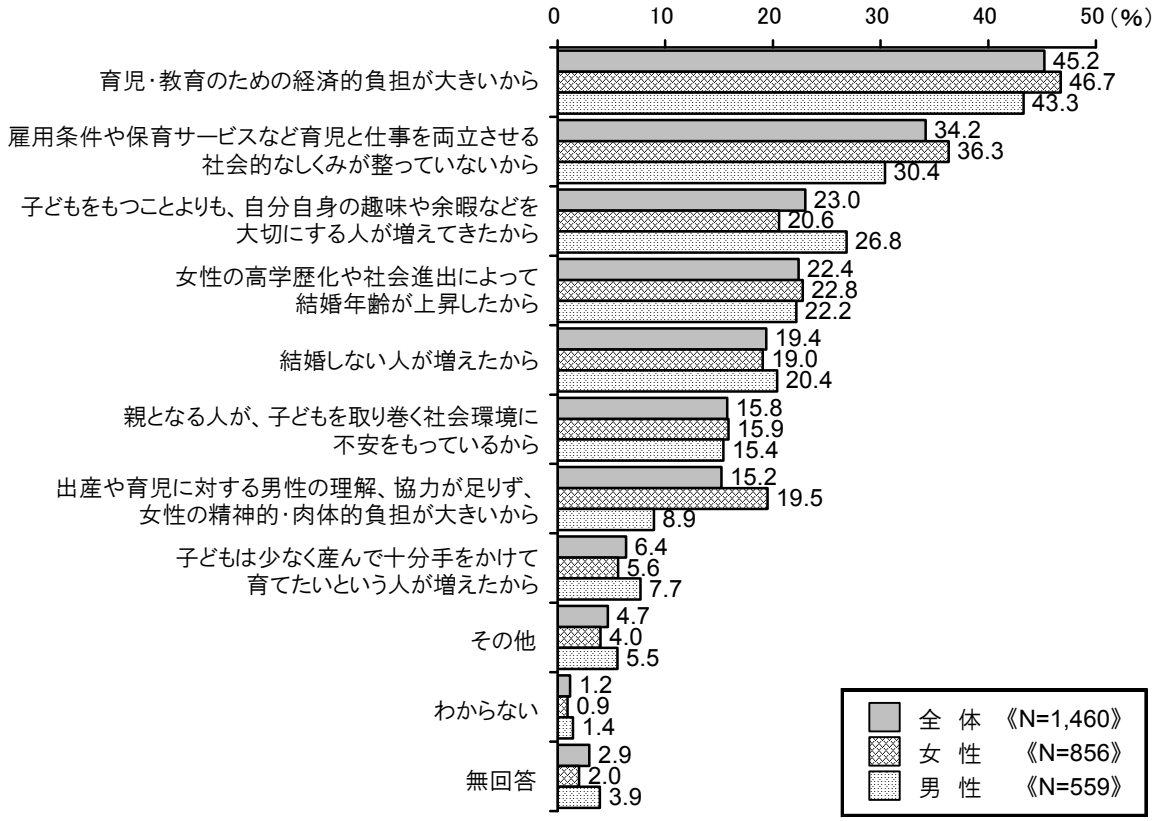
【全体】

「育児・教育のための経済的負担が大きいから」が 45.2%と最も多く，次いで「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」34.2%，「子どもをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから」23.0%と続いている。

【性別】

男女とも「育児・教育のための経済的負担が大きいから」が 4 割半ばと最も高く，次いで「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」3 割台となっている。3 番目に多いのは，女性では「女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから」22.8%，男性では「子どもをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから」26.8%となっており，男女差がみられる。

少子化が進んだ理由〈２つまで回答可〉【全体，性別】



【性・年代別】

40 歳代では「育児・教育のための経済的負担が大きいから」が多い。

上位 3 項目の中には，概ね「育児・教育のための経済的負担が大きいから」と「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」が入り，「育児・教育のための経済的負担が大きいから」は，男女とも 40 歳代が最も高く，それ以上の年代では概ね年代が上がるほど低くなっている。「結婚しない人が増えたから」は，女性の 50 歳以上と男性 60 歳以上では，上位 3 項目の中に入っており，若年層・中年層との違いがみられる。

少子化が進んだ理由　上位 3 項目〈２つまで回答可〉【性・年代別】

		1位	2位	3位
女性	20歳代《N=83》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 49.4%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 43.4%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 26.5%
	30歳代《N=193》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 52.8%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 42.5%	出産や育児に対する男性の理解、協力が足りず、女性の精神的･肉体的負担が大きいから 25.9%
	40歳代《N=145》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 56.6%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 29.7%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 23.4%
	50歳代《N=216》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 44.9%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 38.0%	結婚しない人が増えたから 22.7%
	60歳代《N=123》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 43.1%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 32.5%	結婚しない人が増えたから 30.9%
	70歳以上《N=96》	結婚しない人が増えたから 33.3%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 29.2%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 27.1%
男性	20歳代《N=77》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 46.8%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 33.8%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 29.9%
	30歳代《N=95》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 47.4%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 28.4%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 28.4%
	40歳代《N=91》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 50.5%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 34.1%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 28.6%
	50歳代《N=113》	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 41.6%	育児･教育のための経済的負担が大きいから 38.1%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 29.2%
	60歳代《N=115》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 41.7%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 30.4%	結婚しない人が増えたから 26.1%
	70歳以上《N=66》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 36.4%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 25.8%	結婚しない人が増えたから 24.2%

【性・子どもの有無別】

女性および子どものいる男性は「育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」を理由にあげる人が多い。

順位の違いはあるが，「育児・教育のための経済的負担が大きいから」は，すべての層で上位 2 項目の中に入っている。

「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」は，女性および子どものいる男性では上位 2 項目以内に入っているが，子どものいない男性では上位３項目に入っていない。

また，男性には「子どもをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから」が，子どもがいる人で 3 位，いない人で 2 位に入っているが，女性では上位 3 項目に入っておらず，性別・子どもの有無による考え方の違いがうかがわれる。

少子化が進んだ理由　上位 3 項目〈２つまで回答可〉【性・子どもの有無別】

		1位	2位	3位
女性	全体《N=856》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 46.7%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 36.3%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 22.8%
	いる《N=667》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 50.7%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 36.4%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 21.6%
	いない《N=184》	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 36.4%	育児･教育のための経済的負担が大きいから 33.7%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 27.2%
男性	全体《N=559》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 43.3%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 30.4%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 26.8%
	いる《N=369》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 46.1%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 34.1%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 24.4%
	いない《N=185》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 37.8%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 31.9%	結婚しない人が増えたから 24.9%

【性・性別役割分担意識別】

男は仕事，女は家庭の賛成派は，結婚しない人が増えたことを少子化の理由にあげる人が多い。

「育児・教育のための経済的負担が大きいから」は，すべての層で最も高くなっている。「結婚しない人が増えたから」は“男は仕事，女は家庭”の賛成派（〔そう思う〕）では男性 3 位，女性 2 位となっているが，他の層では 3 位以内に入っていない。また，男女とも“男は仕事，女は家庭”の反対派（〔そうは思わない〕と〔どちらともいえない〕）では，「雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから」が 2 位となっている。また，「子どもをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから」は，男性の“男は仕事，女は家庭”の賛成派で 2 位，女性の賛成派と男性の反対派，および〔どちらともいえない〕で 3 位となっているが，女性の反対派と〔どちらともいえない〕では 3 位以内に入っておらず，性・性別役割分担意識による考え方の違いがみられる。

少子化が進んだ理由　上位 3 項目〈２つまで回答可〉【性・性別役割分担意識別】

		1位	2位	3位
女性	そう思う《N=115》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 47.0%	結婚しない人が増えたから 29.6%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 25.2%
	そうは思わない《N=468》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 45.9%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 44.0%	出産や育児に対する男性の理解、協力が足りず、女性の精神的･肉体的負担が大きいから 22.9%
	どちらともいえない《N=265》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 48.3%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 31.7%	女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから 24.5%
男性	そう思う《N=120》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 38.3%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 28.3%	結婚しない人が増えたから 27.5%
	そうは思わない《N=283》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 45.9%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 35.3%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 26.1%
	どちらともいえない《N=151》	育児･教育のための経済的負担が大きいから 42.4%	雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから 30.5%	子どもをもつことよりも、自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから 27.8%

(2) 豊かな老後のために必要なこと

問７．あなたは，豊かな老後を送るためにはどのようなことが必要だと思いますか。
〈２つまで回答可〉

① 全項目

「社会保障制度がしっかりしていること」が 50.1%と最も多い。

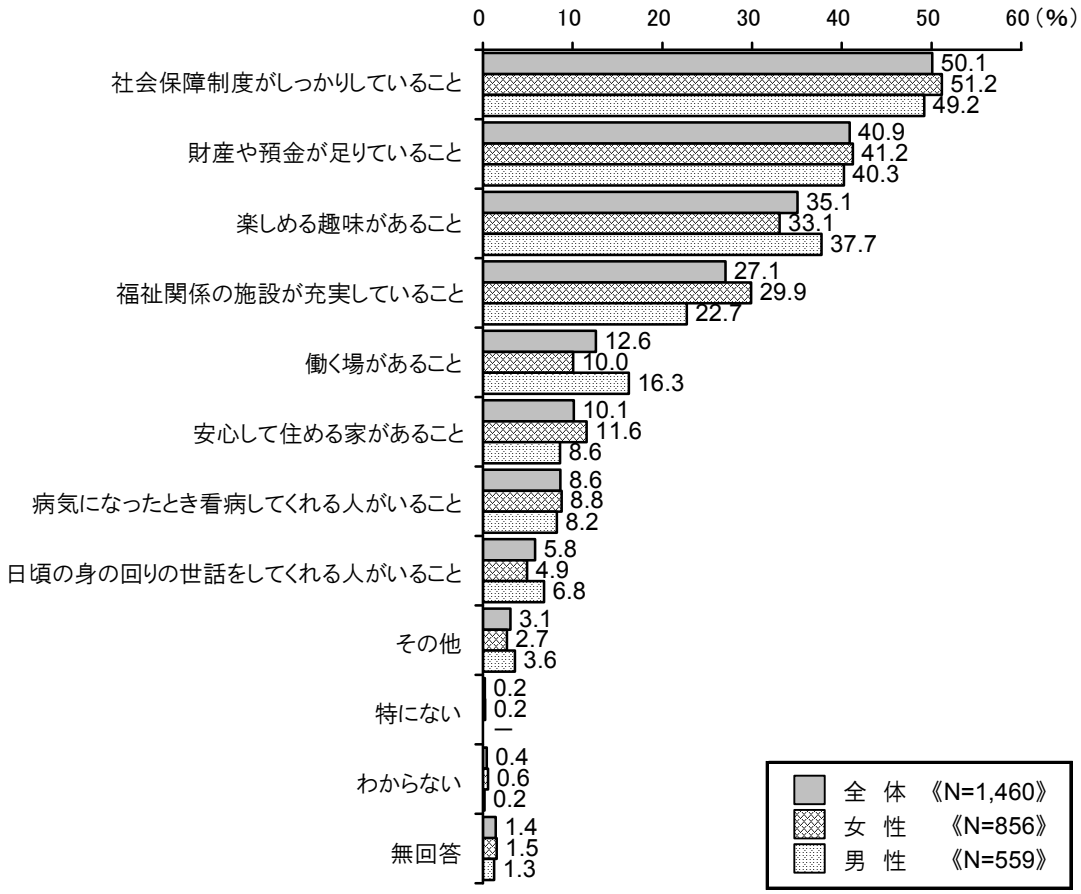
【全体】

「社会保障制度がしっかりしていること」が 50.1%と最も多く，次いで「財産や預金が足りていること」40.9%，「楽しめる趣味があること」35.1%と続いている。

【性別】

男女とも，上位 4 項目は全体と同じになっているが，3 番目に高い「楽しめる趣味があること」は男性が女性を 4.6 ポイント上回り，4 番目に高い「福祉関係の施設が充実していること」は女性が男性を 7.2 ポイント上回っている。

豊かな老後のために必要なこと〈２つまで回答可〉【全体，性別】



【性・職業の有無別】

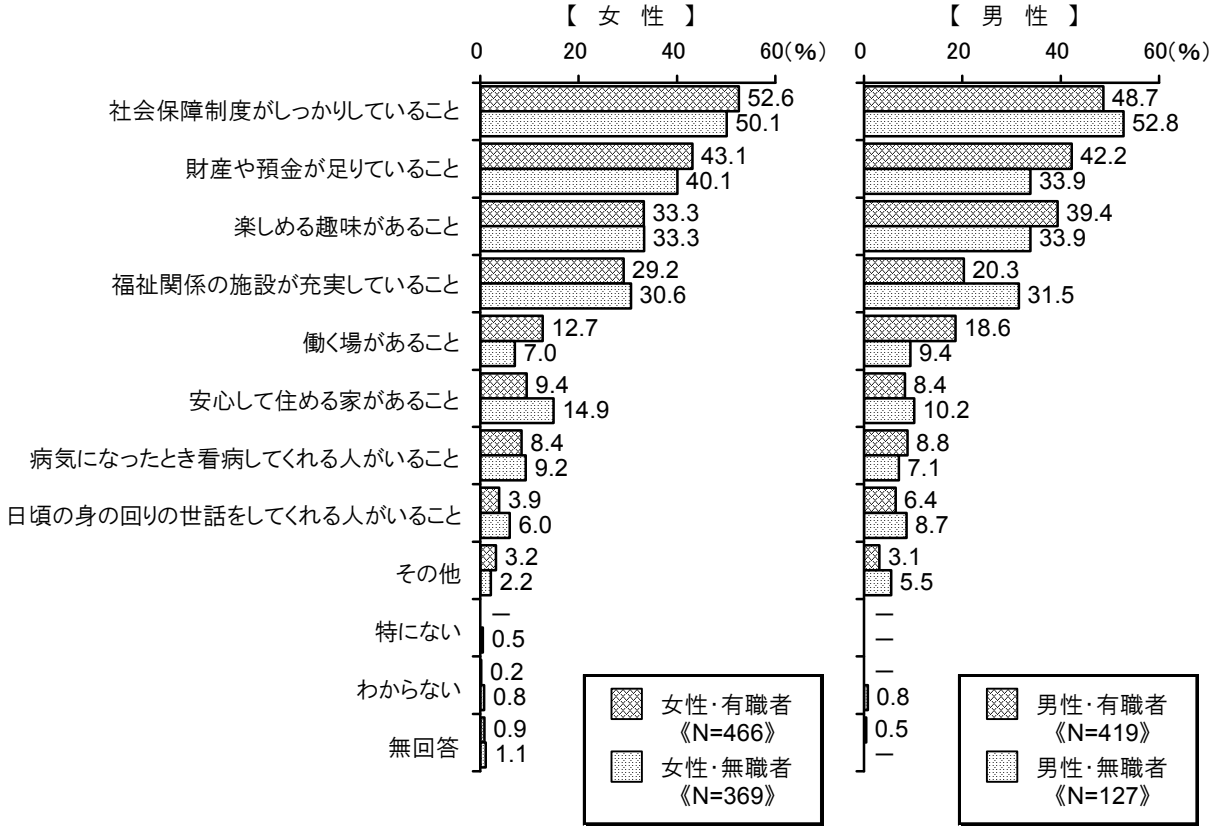
豊かな老後のためには働く場が必要と答える人は，男女とも有職者に多い。

男女とも上位４項目までは，〔有職者〕も〔無職者〕も同様となっている。

女性では，〔有職者〕と〔無職者〕で差が大きいのは，「働く場があること」で，〔有職者〕が〔無職者〕を 5.7 ポイント上回り，次いで「安心して住める家があること」で〔無職者〕が〔有職者〕を 5.5 ポイント上回っている。

男性で〔有職者〕と〔無職者〕で差が最も大きいのは，「福祉関係の施設が充実していること」で，〔無職者〕が〔有職者〕を 11.2 ポイント上回っている。次いで「働く場があること」で，〔有職者〕が〔無職者〕を 9.2 ポイント上回っている。

豊かな老後のために必要なこと〈２つまで回答可〉【性・職業の有無別】



② 上位４項目

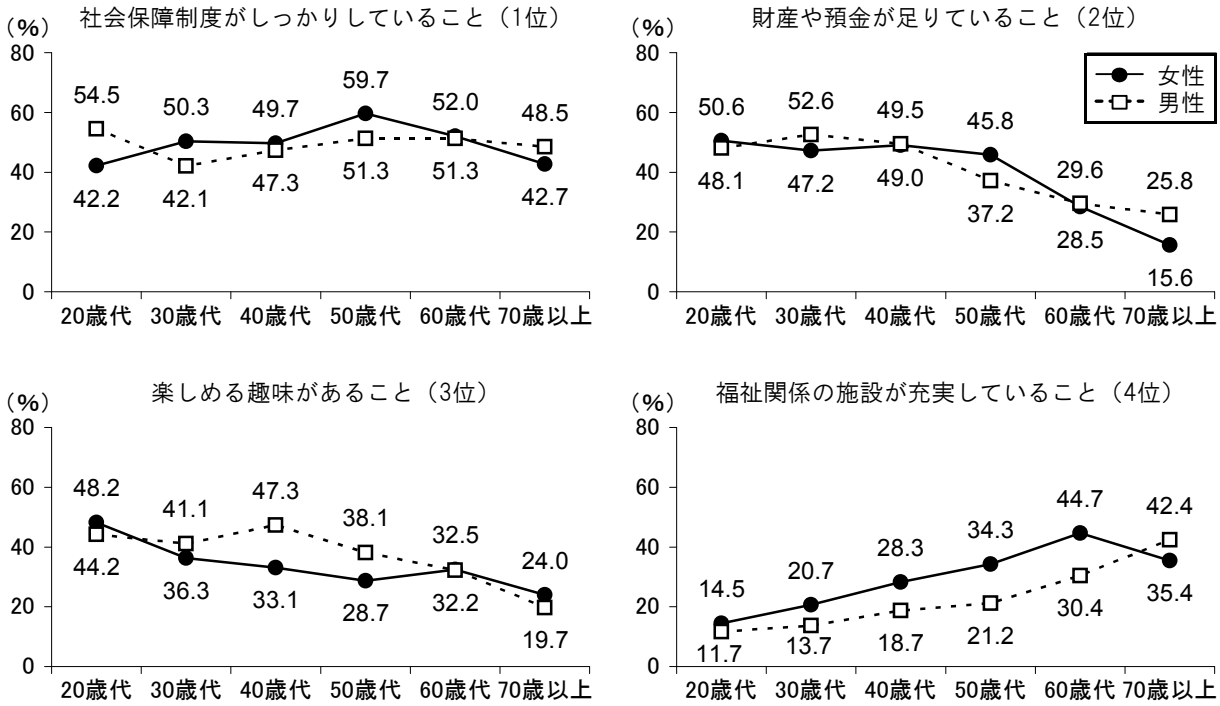
男女とも概ね「財産や預金が足りていること」は年代が上がるほど低く，「福祉関係の施設が充実していること」は年代が上がるほど高い。

【性・年代別】

「財産や預金が足りていること」は男女とも概ね年代が上がるほど低くなり，最も高い女性 20 歳代と最も低い女性 70 歳以上では，35.0 ポイントと大きな差がみられる。「福祉関係の施設が充実していること」は，男女とも概ね年代が上がるほど高くなり，最も高い女性 60 歳代と最も低い男性 20 歳代では 33.0 ポイント差となっている。

また，女性 20 歳代，男性 30 歳代・40 歳代では，「財産や預金が足りていること」が最も高くなっており，他の年代とは異なっている。

豊かな老後のために必要なこと　上位４項目〈２つまで回答可〉【性・年代別】



※ 調査数　【女性】20歳代《N=83》　30歳代《N=193》　40歳代《N=145》　50歳代《N=216》　60歳代《N=123》　70歳以上《N=96》

【男性】20歳代《N=77》　30歳代《N=95》　40歳代《N=91》　50歳代《N=113》　60歳代《N=115》　70歳以上《N=66》

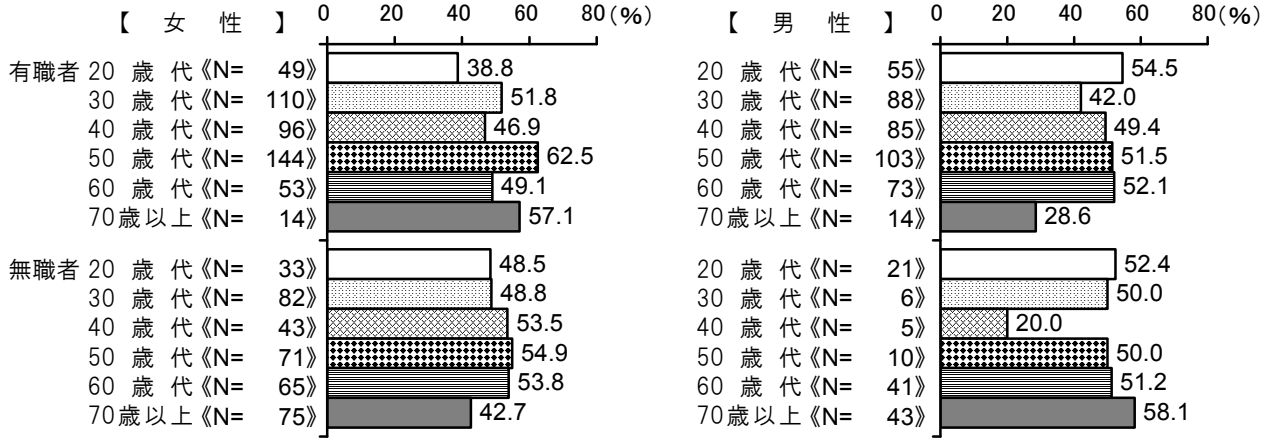
【性・職業の有無別・年代別】

「財産や預金が足りていること」は，50 歳代無職者男性がピークとなっている。
「楽しめる趣味があること」は，20 歳代無職者男性で突出している。

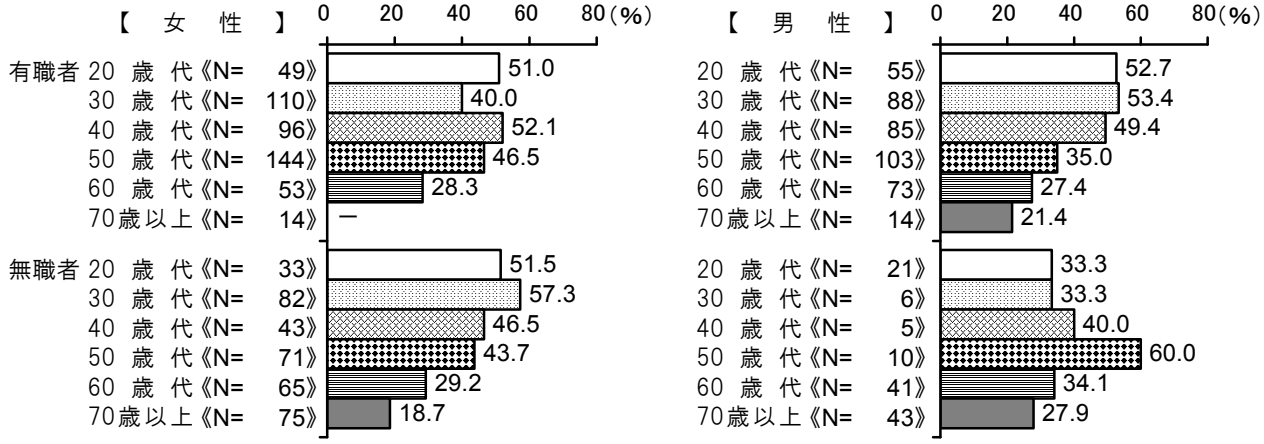
「財産や預金が足りていること」は、男性の〔無職者〕では 50 歳代がピークとなっており、他の層と異なった傾向となっている。「楽しめる趣味があること」は、〔有職者〕では、女性は若年層と高年齢層が高く、男性は中年層が高く、傾向が逆になっている。〔無職者〕は、男女とも 20 歳代が最も高く、概ね年齢が上がるに連れて低くなっている。

豊かな老後のために必要なこと　上位 4 項目〈２つまで回答可〉
【性・職業の有無別・年代別】

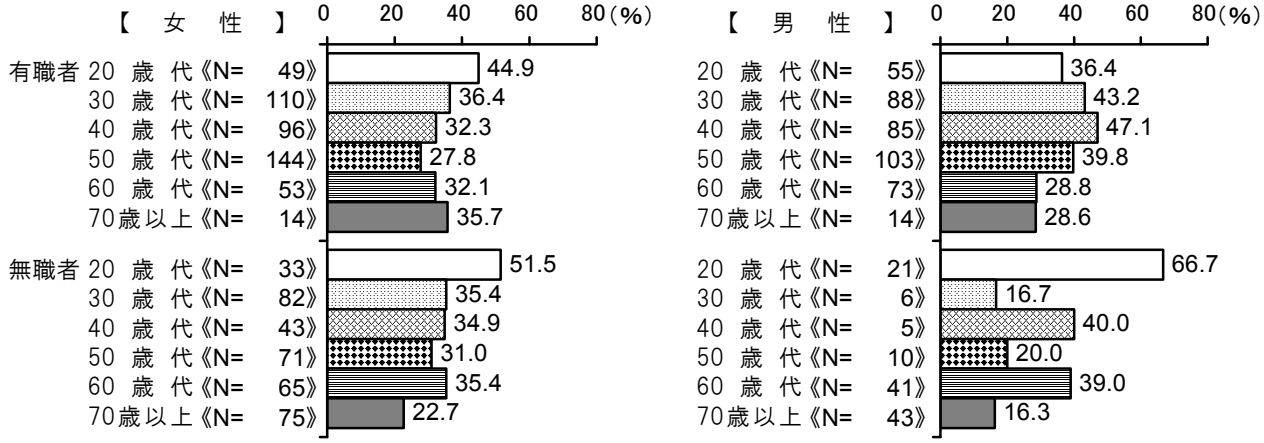
1位： 社会保障制度がしっかりしていること



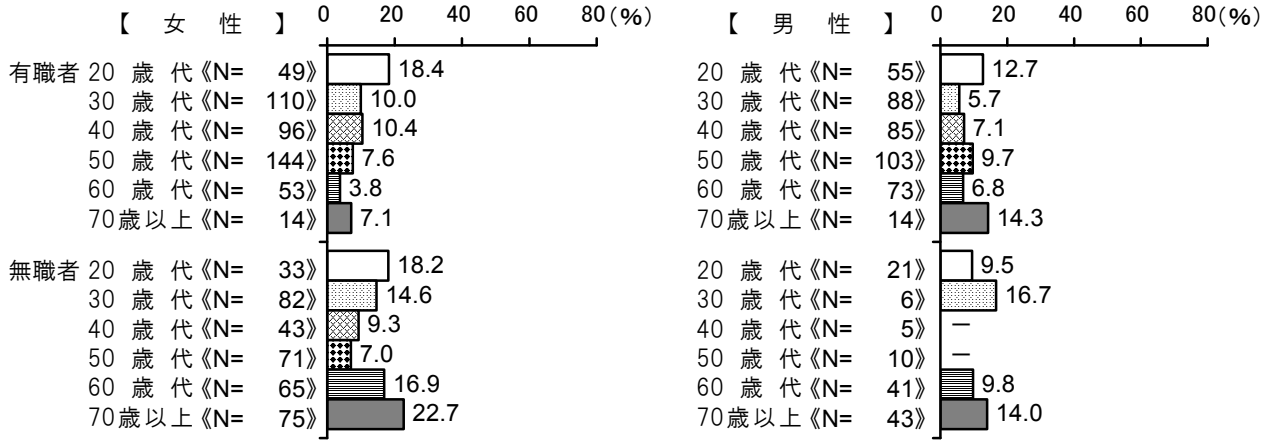
2位： 財産や預金が足りていること



3位： 楽しめる趣味があること



4位： 福祉関係の施設が充実していること

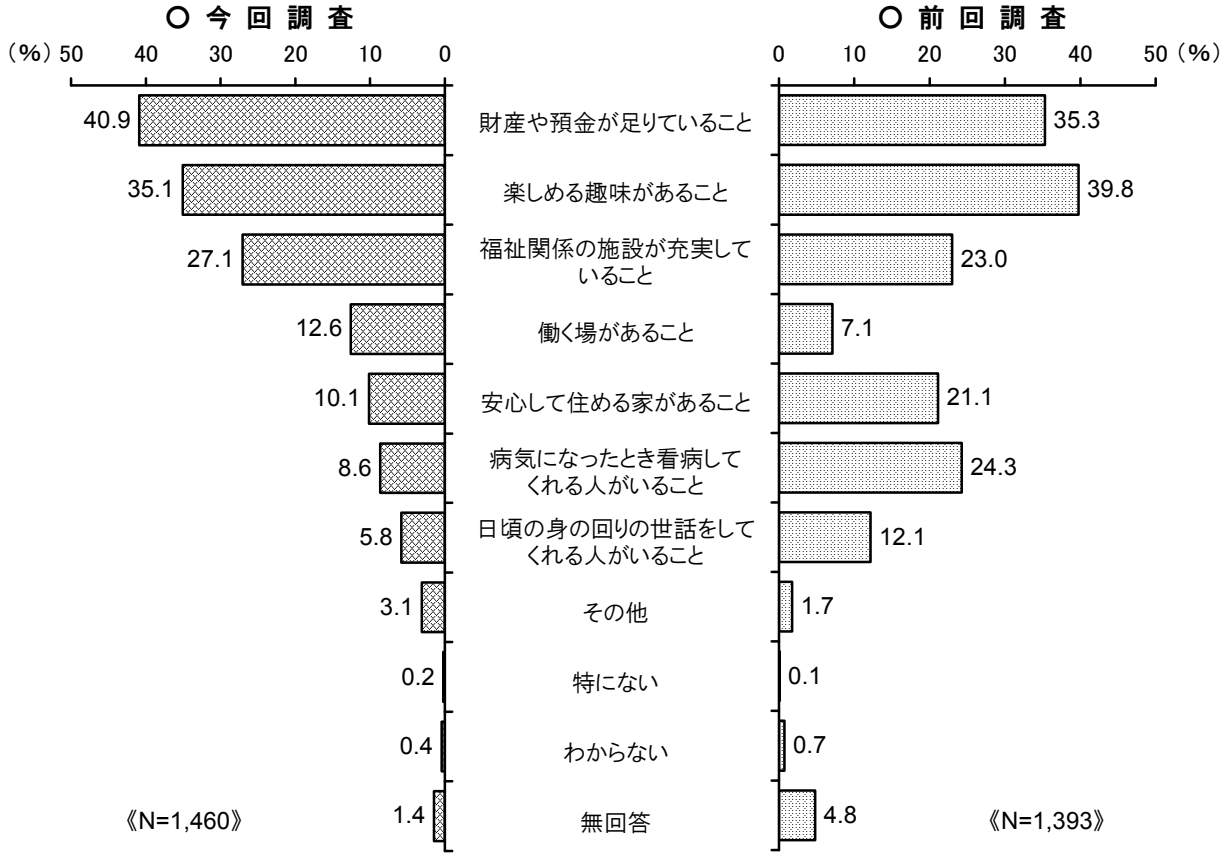


○　前回調査との比較　　豊かな老後のために必要なこと　○

前回調査に比べ，老後の介護への心配が軽減されている様子がうかがわれる。

前回調査より高い項目は，「財産や預金が足りていること」5.6 ポイント，「働く場があること」5.5 ポイント，「福祉関係の施設が充実していること」4.1 ポイントとなっている。一方，前回調査より低い項目は，「病気になったとき看病してくれる人がいること」15.7 ポイント，「安心して住める家があること」11.0 ポイント，「日頃の身の回りの世話をしてくれる人がいること」6.3 ポイントなどとなっており，老後の介護への心配が軽減されている様子がうかがわれる。

豊かな老後のために必要なこと｛今回調査・前回調査｝【全体】



※「社会保障制度がしっかりしていること」は、前回調査では尋ねていないため、グラフから除いている

5. 職業・就労

(1) 女性の働き方の理想と現実

問８．《男性の方は（1）のみ，女性の方は（1）（2）それぞれにお答えください。》
女性の働き方についておたずねします。
（1）一般的に，女性の働き方について，あなたが望ましいと思うのはどれですか。
（2）あなたご自身の職業の持ち方は，実際はどれになると思いますか。

男女とも半数が『再就職型』を女性の理想の働き方と考えている。

① 理想とする女性の働き方

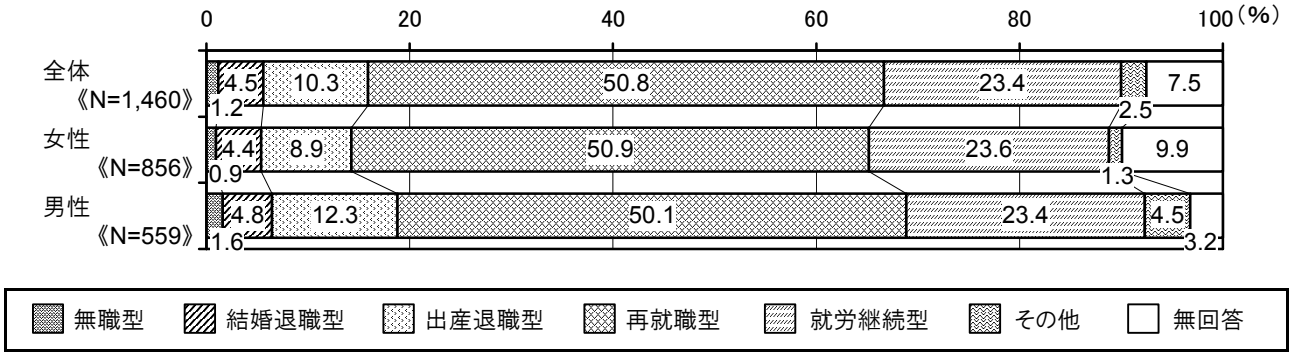
【全体】

『再就職型（「出産育児期間は一時退職して，子どもが成長したら再び職業をもつ」）』が50.8%と最も多くなっている。次いで『就労継続型（結婚や出産・育児にかかわらず，ずっと職業をもちつづける）』23.4%，『出産退職型（子どもができるまでは職業をもつ）』10.3%と続いている。『結婚退職型（結婚するまでは職業をもつ）』と『無職型（女性は職業をもたない）』は 5%未満にとどまっている。

【性別】

男女とも，全体と同様の順位であり，男女間を比べても『出産退職型』で男性が女性を 3.4 ポイント上回っているのが最も差が大きいなど，男女の差は小さくなっている。

理想とする女性の働き方【全体，性別】



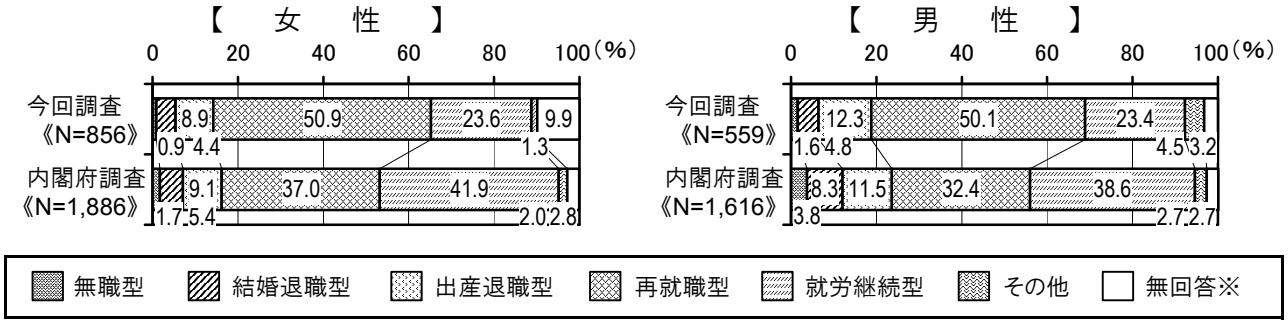
○　内閣府世論調査調査（平成16年）との比較　　女性の働き方の理想　○

内閣府世論調査に比べると，男女とも『再就職型』が高く『就労継続型』が低い。

【性別】

内閣府世論調査（平成 16 年）と比べると，今回調査では，男女とも，『再就職型』が高く，『就労継続型』が低くなっている。『再就職型』は，今回調査の方が女性 13.9 ポイント，男性 17.7 ポイント高く，『就労継続型』は，今回調査の方が女性 18.3 ポイント，男性 15.2 ポイント低くなっている。

理想とする女性の働き方｛今回調査・内閣府世論調査（平成 12 年)｝【性別】



② 実際の女性の働き方

女性の実際の働き方は 37%が『再就職型』である。

【全体（女性）】

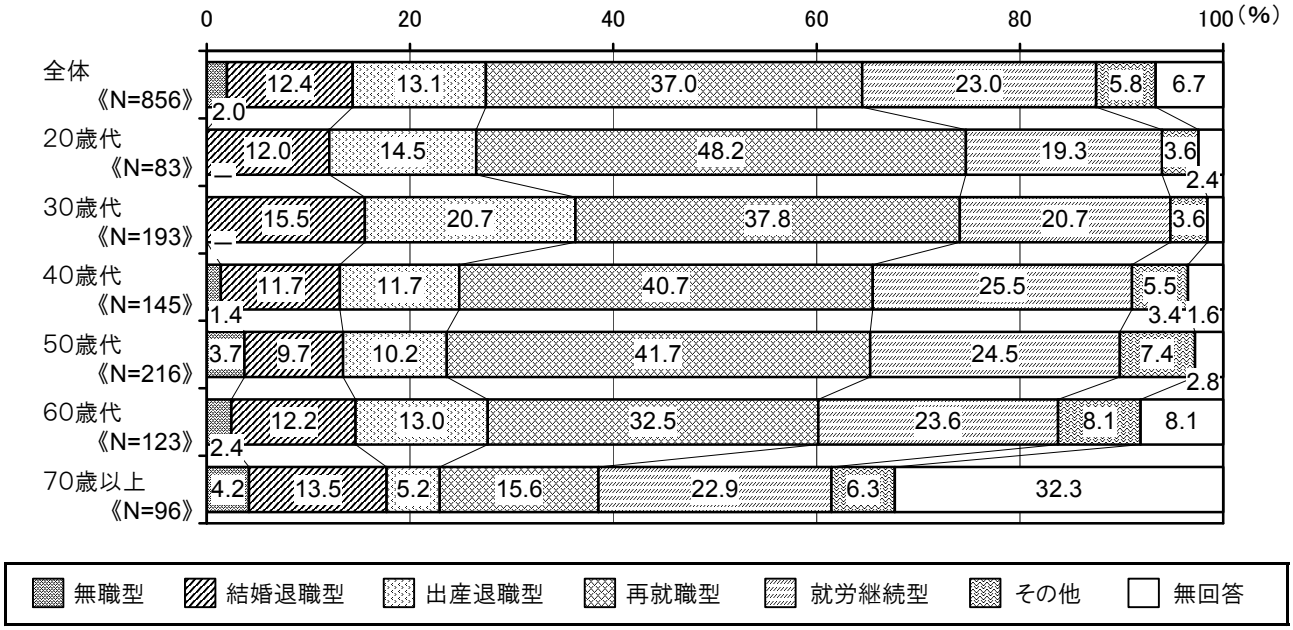
『再就職型』が 37.0%と最も多く，次いで『就労継続型』23.0%，『出産退職型』13.1%と続いている。

【年代別（女性）】

『再就職型』は，20 歳代と 40 歳代，50 歳代では 4 割を超え，特に 20 歳代では 48.2%と高くなっている。

『就労継続型』は，どの年代も 2 割前後となっており，40 歳代の 25.5%が最も高く，20 歳代の 19.3%が最も低くなっている。

実際の女性の働き方《女性》【全体，年代別】



③ 理想と実際の比較

理想と実際の働き方が一致している女性は４割半ばとなっている。

【全体（女性）】

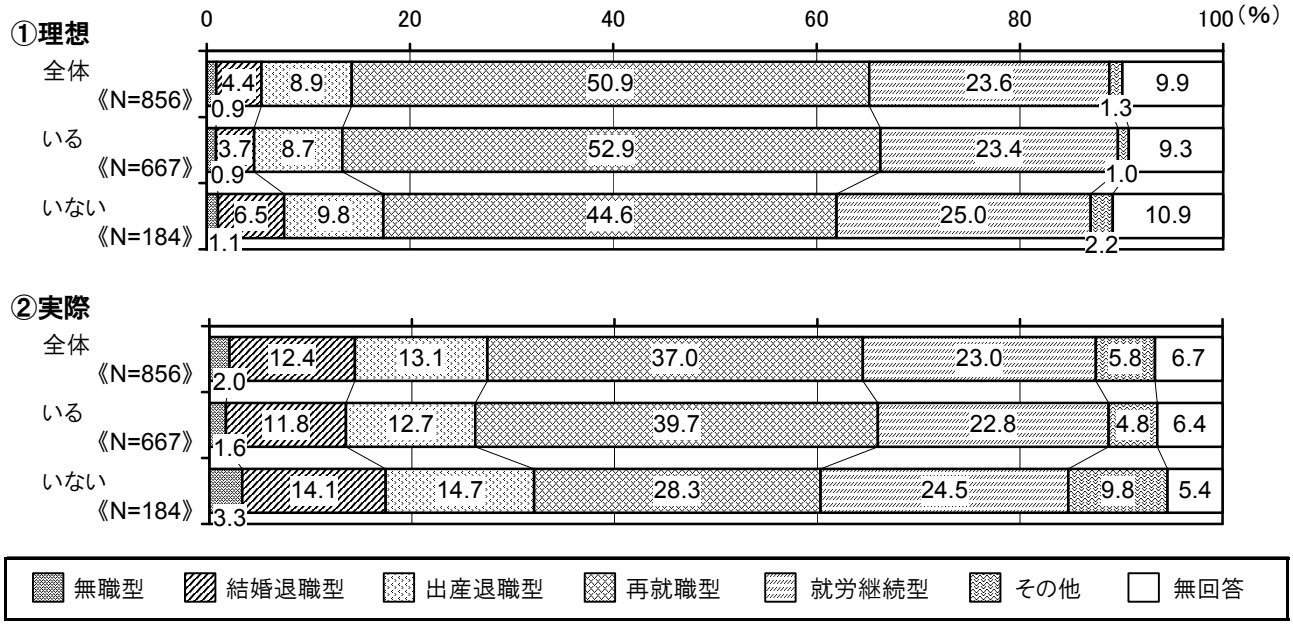
理想と実際の差が最も大きいのは『再就職型』で，理想が実際を 13.9 ポイント上回っている。次いで差が大きいのは『結婚退職型』で，実際が理想を 8.0 ポイント上回っている。

【子どもの有無別（女性）】

子どもの有無で差が最も大きいのは理想・実際とも，『再就職型』で，〔子どもがいる人〕の方が理想では 8.3 ポイント，実際では 11.4 ポイント〔子どものいない人〕を上回っている。

子どものいる女性の理想と実際を比較すると，実際が『結婚退職型』で 8.1 ポイント，『出産退職型』で４ポイント上回っている。『再就職型』は，実際が 13.2 ポイント下回っている。

理想と実際の比較《女性》【子どもの有無別】



【ライフコース別（女性）】

表頭を〔理想の働き方〕表側を〔実際の働き方〕として整理すると，左上から右下の対角線上の部分が理想と現実が一致している A タイプ，対角線から右上の部分が就労阻害（働くことを理想としているが，実際は望むような働き方ができない場合）の B タイプ，左下の部分が不本意な就労（理想は働くことをあまり望まないが，実際には働いている場合）の C タイプとに分けられる。この 3 タイプの割合をみると，理想と現実が一致しているのは 45.4%，33.6%は就労を阻害されていることがわかる。

理想と実際の比較《女性》【ライフコース別】

《N=700》

(2)実際 ＼ (1)理想		『無職型』	『結婚退職型』	『出産退職型』	『再就職型』	『就労継続型』
『無職型』	女性は職業をもたない	1人 0.1%	3人 0.4%	4人 0.6%	2人 0.3%	4人 0.6%
『結婚退職型』	結婚するまでは職業をもつ	2人 0.3%	12人 1.7%	13人 1.9%	48人 6.9%	24人 3.4%
『出産退職型』	子どもができるまでは職業をもつ	2人 0.3%	7人 1.0%	23人 3.3%	60人 8.6%	16人 2.3%
『再就職型』	出産育児期間は一時退職して、子どもが成長したら再び職業をもつ	1人 0.1%	10人 1.4%	23人 3.3%	198人 28.3%	61人 8.7%
『就労継続型』	結婚や出産･育児にかかわらず、ずっと職業をもちつづける	2人 0.3%	1人 0.1%	9人 1.3%	90人 12.9%	84人 12.0%

B タイプ：就労阻害
235 人（33.6%）

A タイプ：理想と一致
318 人（45.4%）

C タイプ：不本意な就労
147 人（21.0%）

○　前回調査との比較　　女性の働き方の理想と実際　○

『就労継続型』は，理想・実際とも，増加傾向にある。

1）理想の働き方

前回調査と比べ，女性では，『再就職型』が 4 ポイント低くなり，『就労継続型』が 5.4 ポイント高くなっている。

男性では，『就労継続型』が 10 ポイント増加し，『再就職型』も 2.2 ポイント前回を上回っている。

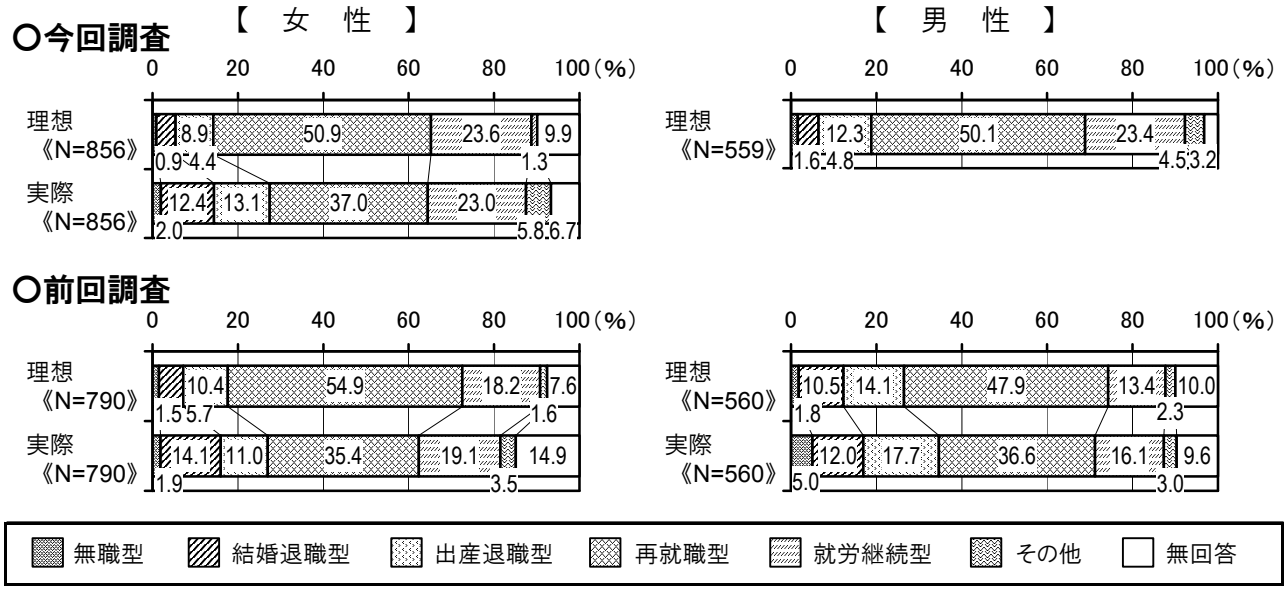
2）実際の働き方《女性》

前回調査と比べ，増加したのは『就労継続型』3.9 ポイント，『出産退職型』2.1 ポイント，『再就職型』1.6 ポイントなどとなっている。減少したのは，『結婚退職型』1.7 ポイントとなっている。

2）理想と実際の比較《女性》

理想と実際の差（理想－実際）は，『再就職型』では前回 19.5 ポイント，今回 13.9 ポイントと，前回を 5.6 ポイント下回っている。

女性の働き方の理想と実際｛今回調査・前回調査｝【性別】



(2) 職業と働き方

問９．あなたのお仕事は次のうちどれにあたりますか。

『有職者』は，女性 5 割半ば，男性 7 割半ばとなっている。また，女性では約 3 割が「専業主婦」となっている。

【全体】

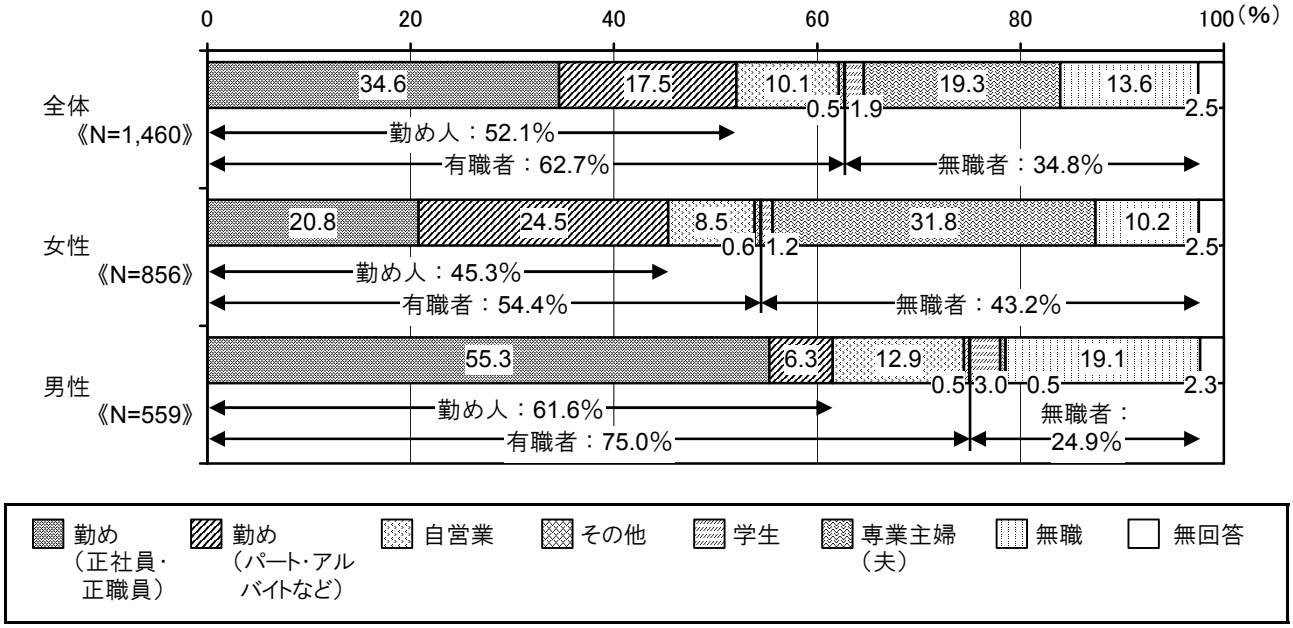
『有職者（「勤め（正社員・正職員）」＋「勤め（パート・アルバイト）」）＋「自営業」＋「その他」）』62.7%，『無職者（「学生」＋「専業主婦（夫）」＋「無職」）』34.8%となっている。また『勤め人（「勤め（正社員・正職員）」＋「勤め（パート・アルバイトなど）」）』は 52.1%となっている。

【性別】

『有職者』は，女性 54.4%，男性 75.0%と，男性が 20.6 ポイント高く，『勤め人』は，女性 45.3%，男性 61.6%と，男性が 15.3 ポイント高くなっている。また，最も高いのは，女性では「専業主婦」の 31.8%，男性では「勤め（正社員・正職員）」の 55.3%となっている。

「勤め（正社員・正職員）」について，男女差をみると，男性が女性より 34.5 ポイント高い。一方，「勤め（パート・アルバイトなど）」では，女性が男性より 18.2 ポイント高く，男女の就労形態の差が大きくなっている。

職業と働き方【全体，性別】



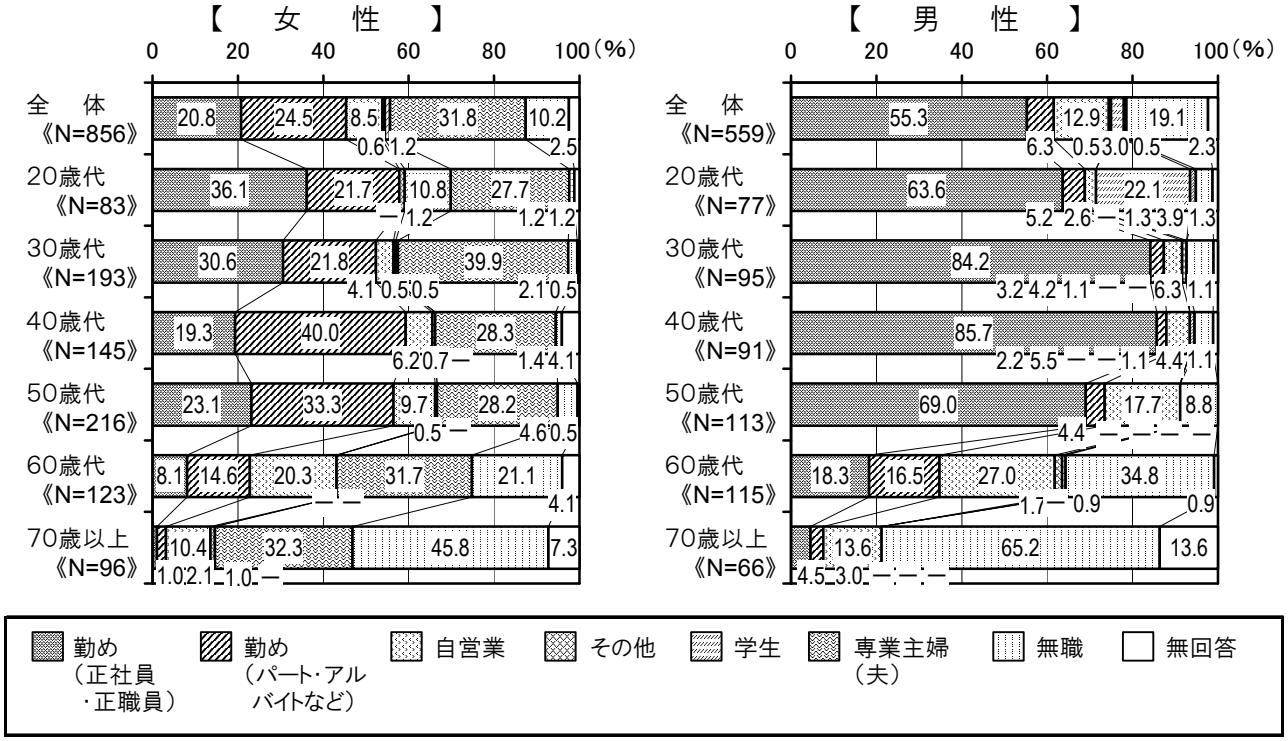
【性・年代別】

同年代の男女を比較すると「勤め（正社員・正職員）」は，全ての年代で男性のほうが高い。

20 歳代から 50 歳代でみると，「勤め（正社員・正職員）」は，最も高いのは，女性 20 歳代，男性 40 歳代，最も低いのは，女性 40 歳代，男性 20 歳代となっている。

同年代の男女で比較すると，「勤め（正社員・正職員）」は，すべての年代で男性の方が高く，特に 40 歳代では 66.4 ポイントも男性が女性を上回っている。

職業と働き方【性・年代別】



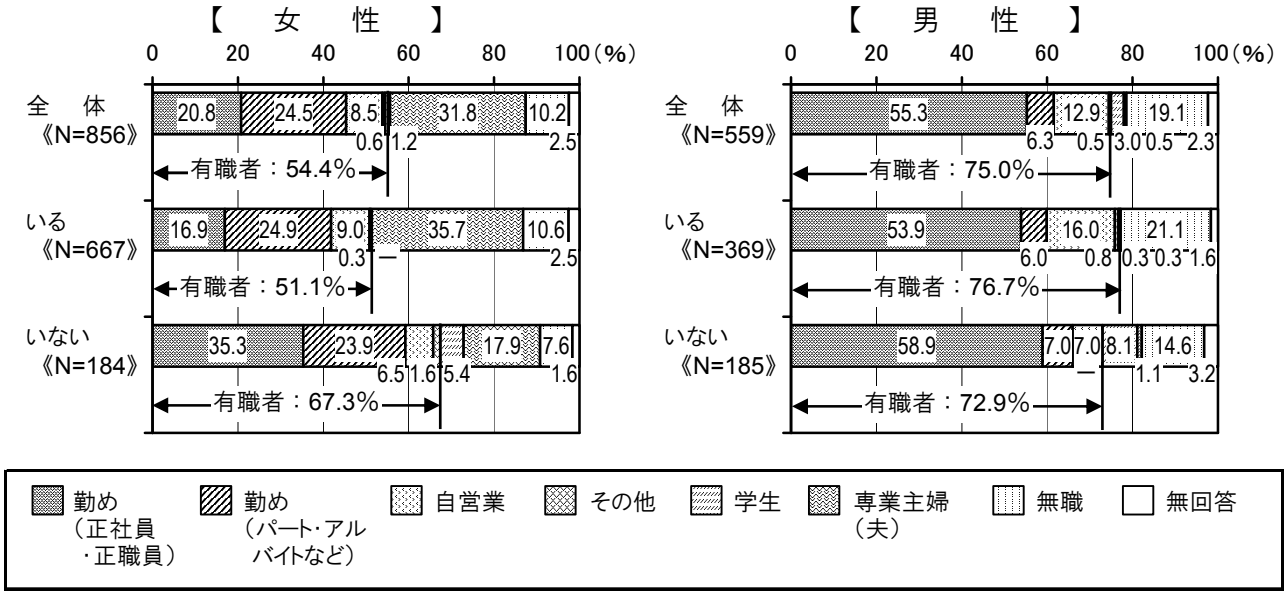
【性・子どもの有無別】

女性の有職者は子どものいない人のほうが多い。

男女とも「勤め（正社員・正職員）」では，子どものいない人が子どものいる人を上回っている。女性の「専業主婦」は，子どものいる人では３分の１以上となっており，〔いない人〕の約２倍の割合となっている。

女性で『子のいる有職者』は 51.1％で，『子のいない有職者』の 67.3％を 16.2 ポイント下回っている。一方，男性は『子のいる有職者』は 76.7％，『子のいない有職者』72.9％で，その差はわずか 3.8 ポイントである。子どもの有無が女性の就労に影響を与えていることがうかがえる。

職業と働き方【性・子どもの有無別】

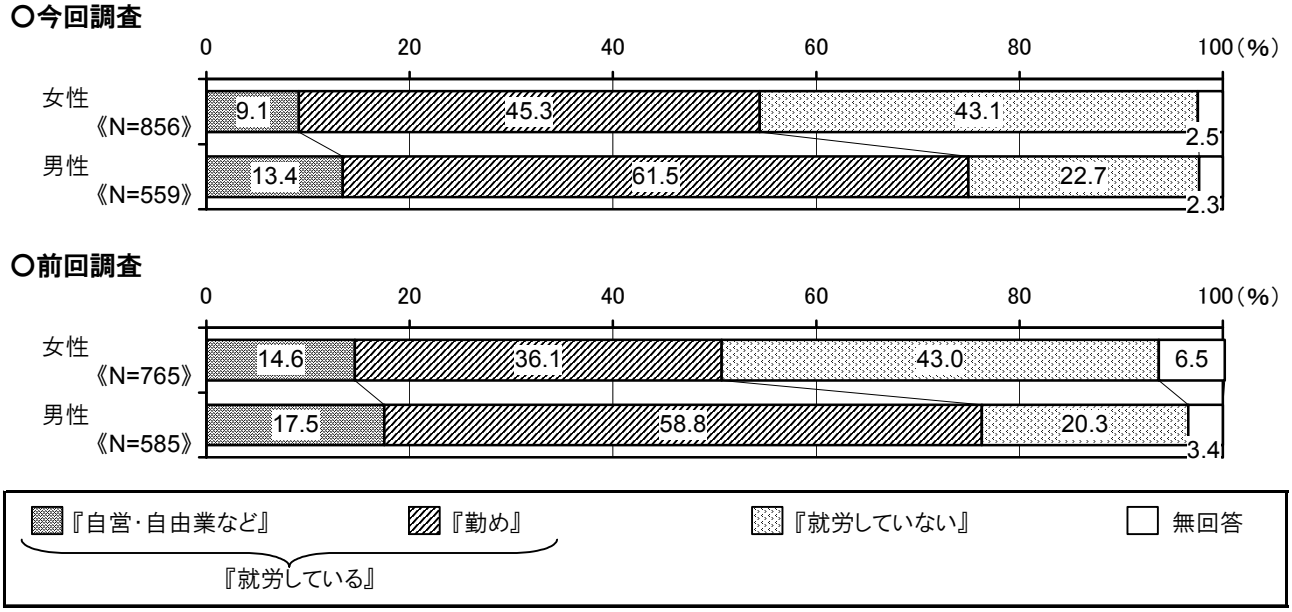


○　前回調査との比較　　職業と働き方　○

女性の『就労している』は前回より増加している。

女性の『就労している』は，今回 54.4%，前回 50.7%であり，今回 3.7 ポイント上昇している。男性の『就労している』は，今回 74.9%，前回 76.3%と，ほぼ変わりない。

職業と働き方 {今回調査・前回調査}【性別】



※『自営・自由業など』…… 今回調査は「自営業」＋「その他」
前回調査は「自営･自由業･家業･内職請負」

※『勤め』…… 今回調査は「勤め（正社員･正職員）」＋「勤め（パート･アルバイトなど）」
前回調査は「勤め人」

※『就労していない』…… 今回調査は「学生」＋「専業主婦（夫）」＋「無職」
前回調査は「学生」＋「専業主婦」＋「その他の無職」

(3) 就業・起業意向

《問９．で，「専業主婦（夫）」と「無職」と回答した方におうかがいします。》
問９-１．あなたは，今後，仕事をもちたいと思いますか。雇われて働くだけではなく，仲間と新しく事業をするなども含め，収入を得る活動をしたいか否かでお答えください。

男女とも「働きたいが働けない」が３割強と最も多くなっている。

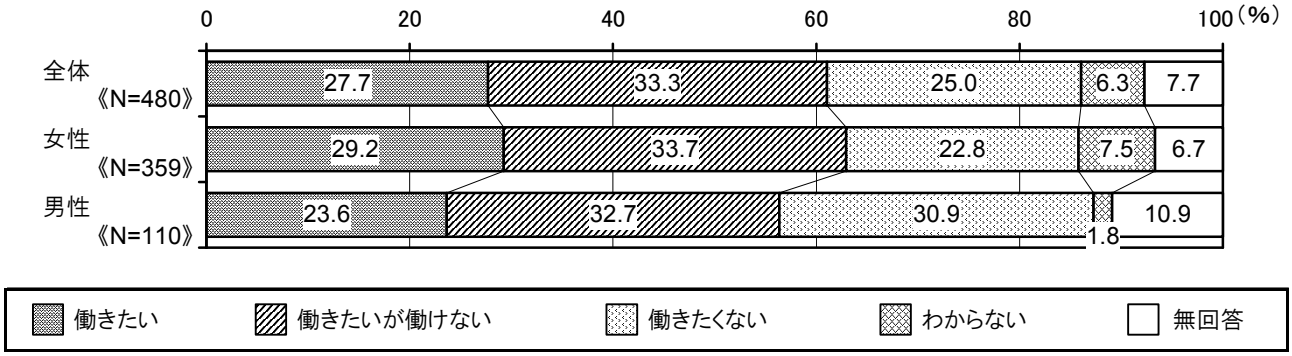
【全体】

「働きたいが働けない」が 33.3％と最も多く，次いで「働きたい」27.7％，「働きたくない」25.0％と続いている。

【性別】

男女とも「働きたいが働けない」が 3 割強と最も多くなっている。男性では「働きたくない」が 30.9％と 2 番目に多くなっている。また，「働きたい」は女性が男性を 5.6 ポイント上回っている。

就業・起業意向《無職》【全体，性別】



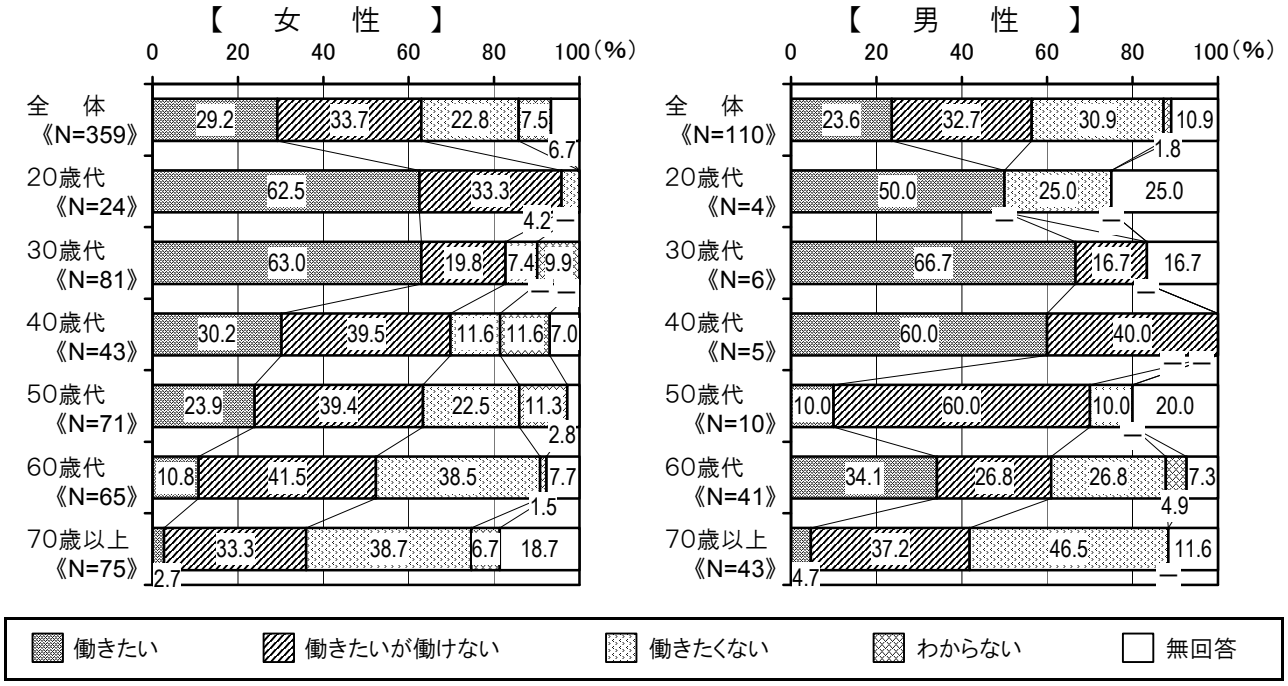
【性・年代別】

男性の「働きたい」人は，60 歳代で再び高くなっている。

「働きたい」は男女とも 30 歳代が最も高く，女性ではそれ以上の年代では年代が上がるほど低くなるが，男性では 50 歳代までは年代が上がるほど低くなり，60 歳代で再び高くなっている。

「働きたいが働けない」は女性では 30 歳代で約 2 割，それ以外の年代では 3 割以上となっているが，男性は 50 歳代までは年代が上がるほど高くなっている。

就業・起業意向《無職》【性・年代別】



(4) 働けない理由

《問９-１．で「働きたいが働けない」と回答した方におうかがいします。》
問９-２．あなたが働けない理由は何ですか。　〈２つまで回答可〉

男女とも，「年齢的に適当な募集がないから」が最も多く，男女とも約 5 割となっている。

【全体】

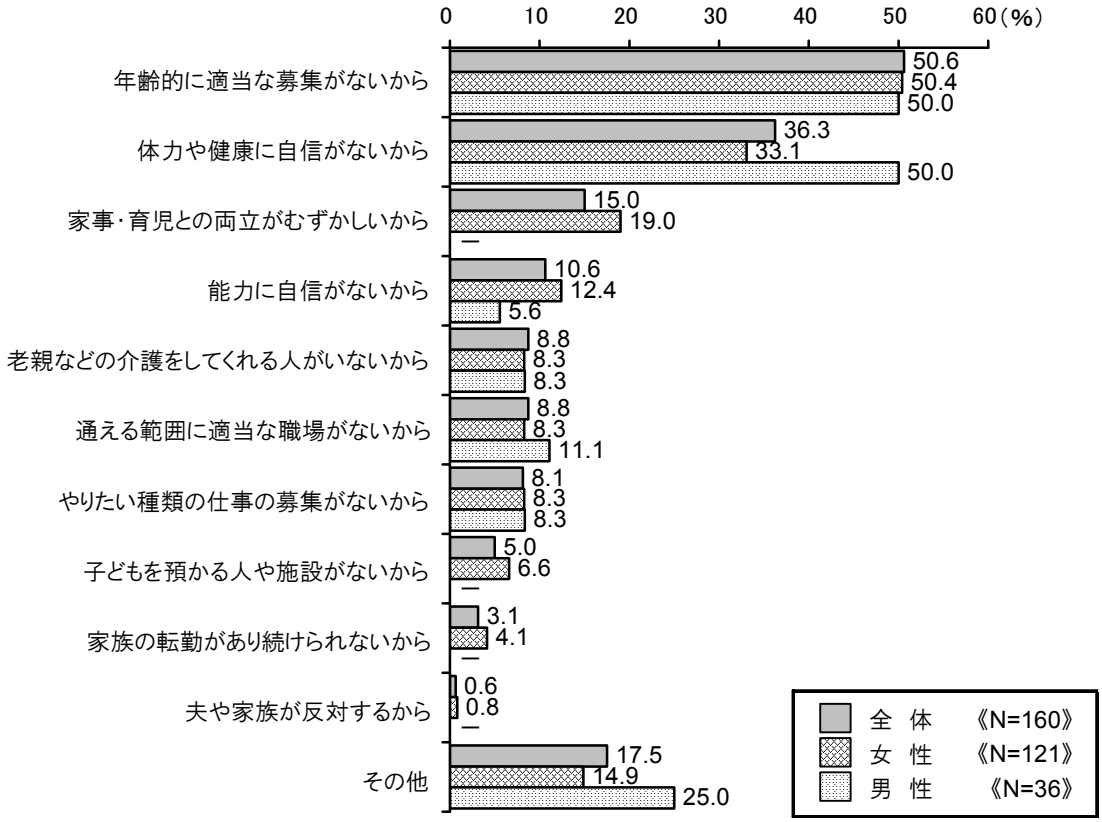
「年齢的に適当な募集がないから」が 50.6％と最も多く，次いで，「体力や健康に自信がないから」36.3％，「家事・育児との両立がむずかしいから」15.0％と続いている。

【性別】

男性では「年齢的に適当な募集がないから」と「体力や健康に自信がないから」がともに 50.0％で最も多いが，女性の上位３項目の順位は全体と同様となっている。

また，男性には，女性で 3 番目に多い「家事・育児との両立がむずかしいから」を回答した人は全くなく，また，「子どもを預かる人や施設がないから」と「家族の転勤があり続けられないから」を回答した男性も全くなく，男女差がみられる。

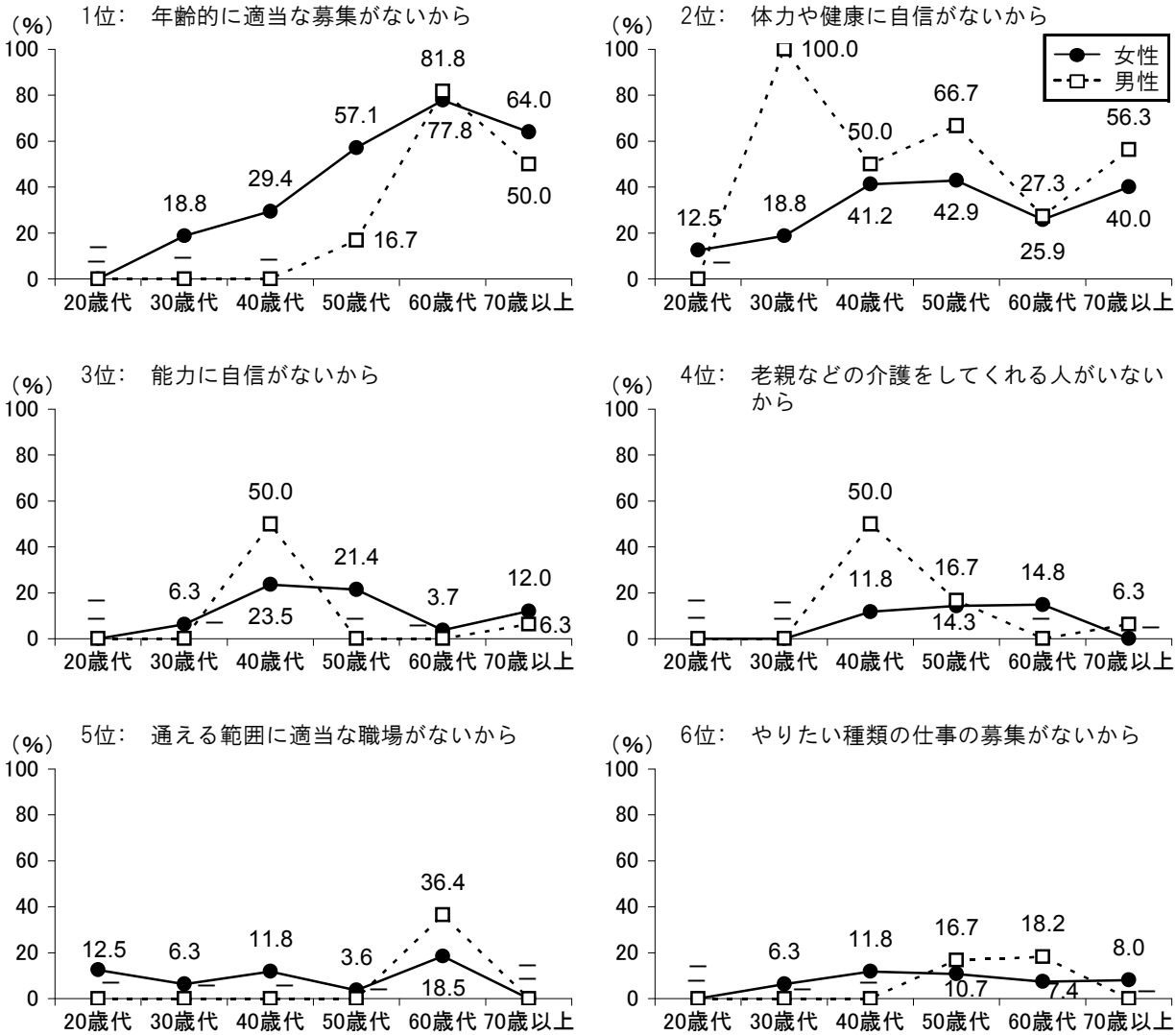
働けない理由〈２つまで回答可〉《働きたいが働けない人》【全体・性別】



【性・年代別】

「年齢的に適当な募集がないから」は男女とも 60 歳代まで，年齢が高くなるほど高くなっている。「体力や健康に自信がないから」は女性では 40 歳代・50 歳代と 70 歳以上で 4 割を超え，男性では 30 歳代で 100%，40 歳代・50 歳代・70 歳代も 5 割以上となっており，男女とも中高年が高い傾向がみられる。

働けない理由〈２つまで回答可〉《働きたいが働けない人》上位 6 項目
（男女両方の回答があった項目）【性・年代別】



※ 調査数　【女性】20歳代《N=8》　30歳代《N=16》　40歳代《N=17》　50歳代《N=28》　60歳代《N=27》　70歳以上《N=25》

【男性】20歳代《－》　30歳代《N=1》　40歳代《N=2》　50歳代《N=6》　60歳代《N=11》　70歳以上《N=16》

【性・子どもの有無別】

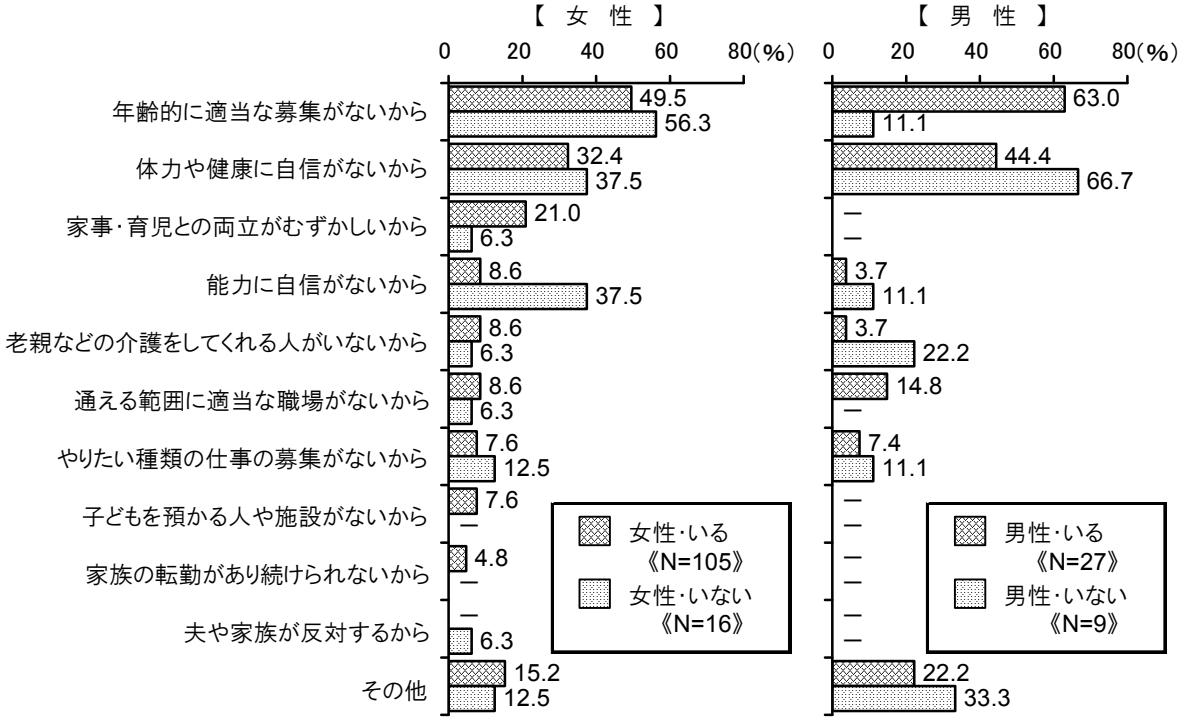
子どものいる女性は，働けない理由が「家事・育児との両立がむずかしいから」と答える人の割合が高い。「能力に自信がないから」と答える人は男性より女性に多い。

女性では，子どもが〔いる〕・〔いない〕ともに，上位 2 項目は同様となっているが，〔いない〕が〔いる〕より 5 ポイント以上高くなっている。また，〔いない〕では「能力に自信がないから」も同率第 2 位となっている。女性〔いる〕の第 3 位は，「家事・育児との両立がむずかしいから」であり，その割合は，子どもの有無により大きく差がある。

男性で最も高いのは，子どもが〔いる〕では「年齢的に適当な募集がないから」，〔いない〕では「体力や健康に自信がないから」となっている。

また，「能力に自信がないから」と答える人の割合は，男女で大きな差がある。

働けない理由〈２つまで回答可〉《働きたいが働けない人》【性・子どもの有無別】



(5) 女性の再チャレンジに必要なこと

問10．女性が結婚や出産のために退職し，その後再就職するためには何が必要だと思いますか。　〈２つまで回答可〉

最も高いのは女性では「夫の理解や家事・育児などへの参加」，男性では「企業が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」と，男女の意識の差がみられる。

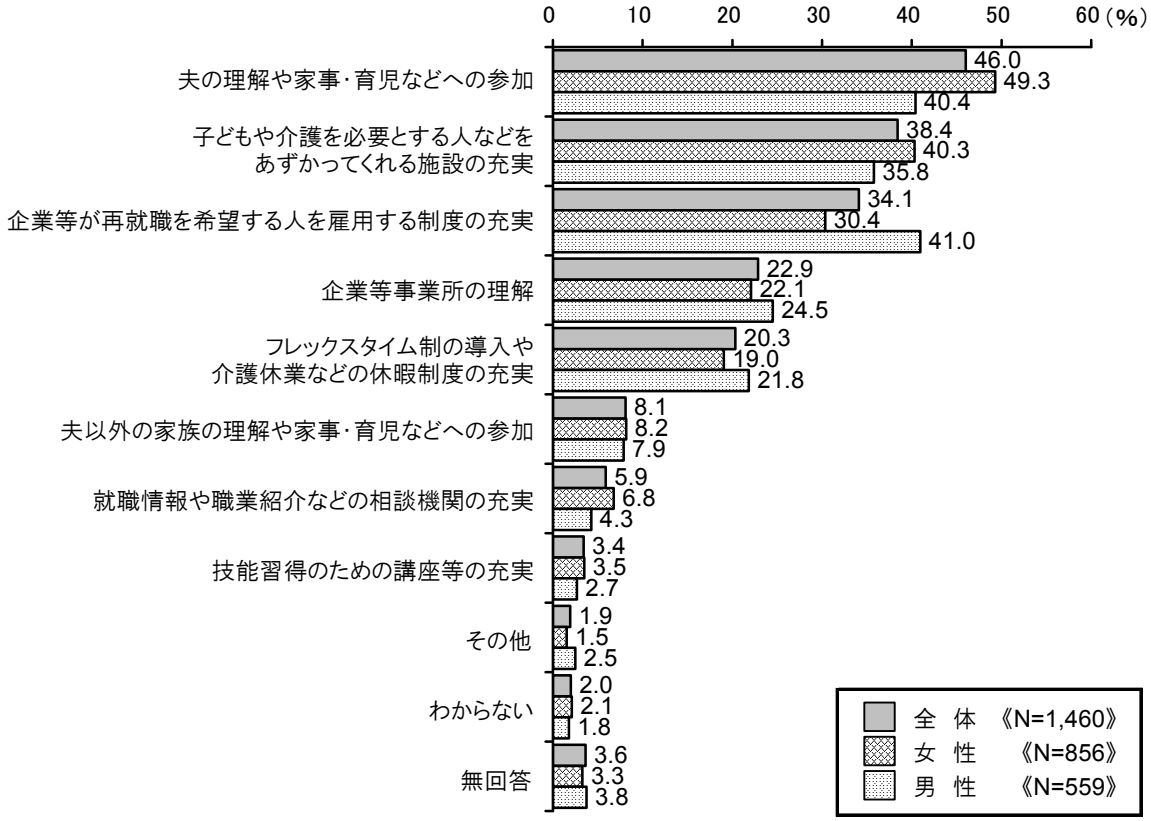
【全体】

「夫の理解や家事・育児などへの参加」が 46.0%と最も多く，次いで「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」38.4%，「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」34.1%と続いている。

【性別】

最も高いのは，女性では「夫の理解や家事・育児などへの参加」49.3%，男性では「企業が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」41.0%となっており，男女の意識の差がみられる。

女性の再チャレンジに必要なこと〈２つまで回答可〉【全体，性別】

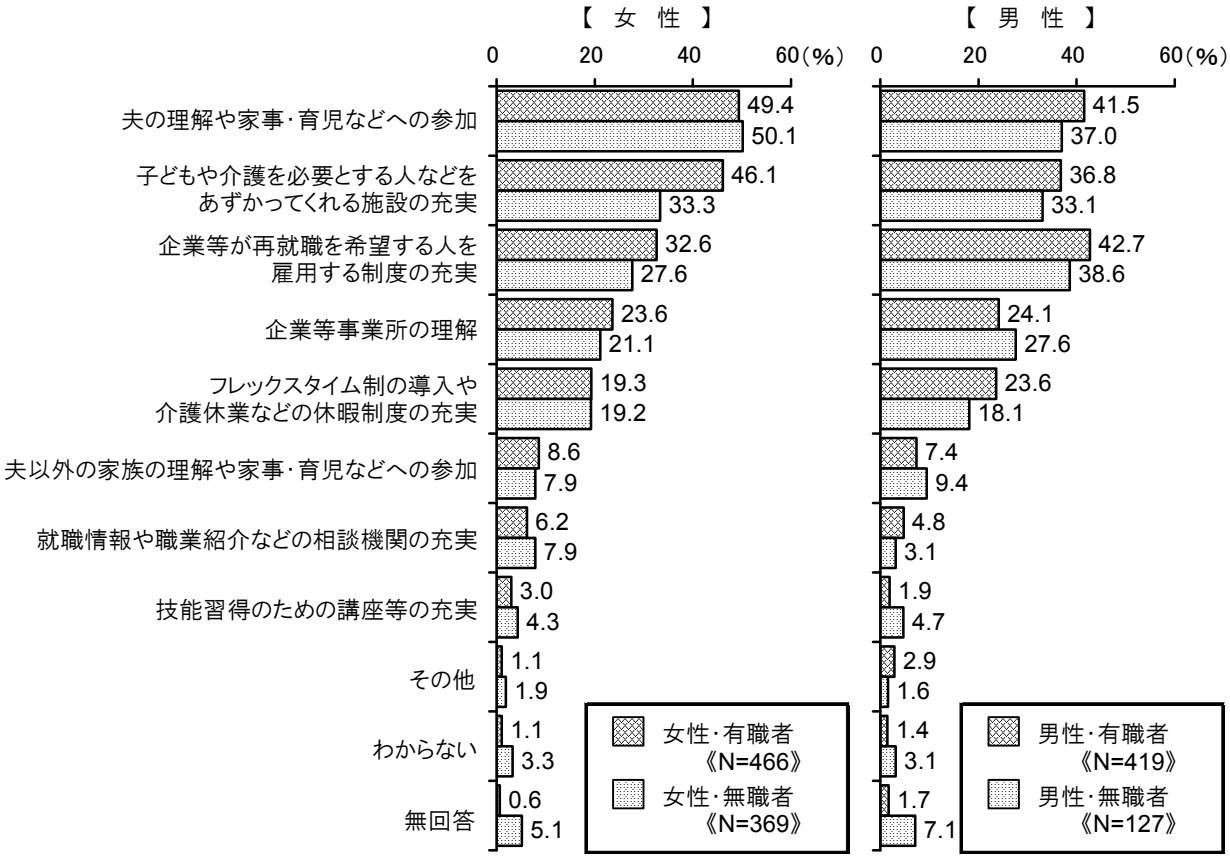


【性・職業の有無別】

女性の有職者は，女性の再チャレンジに必要なこととして「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」をあげる割合が高い。

「夫の理解や家事・育児などへの参加」は女性では〔有職者〕・〔無職者〕とも約 5 割で差は見られないが，男性では〔有職者〕が 4 割弱で，〔無職者〕より 4.5 ポイント高くなっている。「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」は，男女とも〔無職者〕より〔有職者〕の方が高いが，特に女性では〔有職者〕が〔無職者〕を 12.8 ポイント上回っている。

女性の再チャレンジに必要なこと【性・職業の有無別】

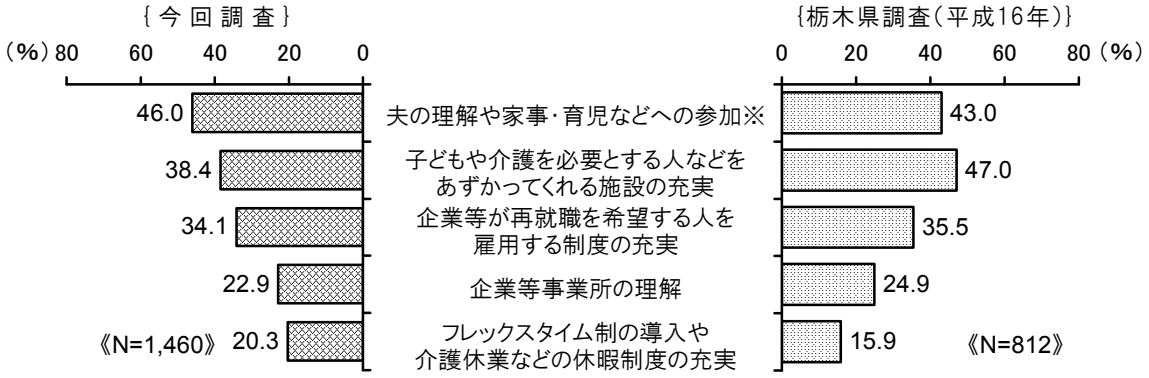


○ 栃木県調査（平成16年）との比較　　女性の再チャレンジに必要なこと ○

栃木県調査（平成 16 年）と比べ,「夫の理解や家事・育児などへの参加」を挙げる人が高い。

栃木県調査（平成 16 年）と比べ,「夫の理解や家事・育児などへの参加」を挙げる人が高く,「子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実」が低くなっている。

女性の再チャレンジに必要なこと　上位 5 項目
{今回調査・栃木県調査（平成 16 年)}【全体】



※ 栃木県調査では「家族の理解や家事･育児などへの参加」

6. 男女の人権

(1) 健康や身体に対するパートナーの理解

問11．あなたは，日常生活において，夫や妻に男女の健康上のちがいを理解してもらっていると思いますか。

「理解してもらっていると思う」は男性が女性より高く，「理解してもらっていると思わない」は女性が男性より高い。

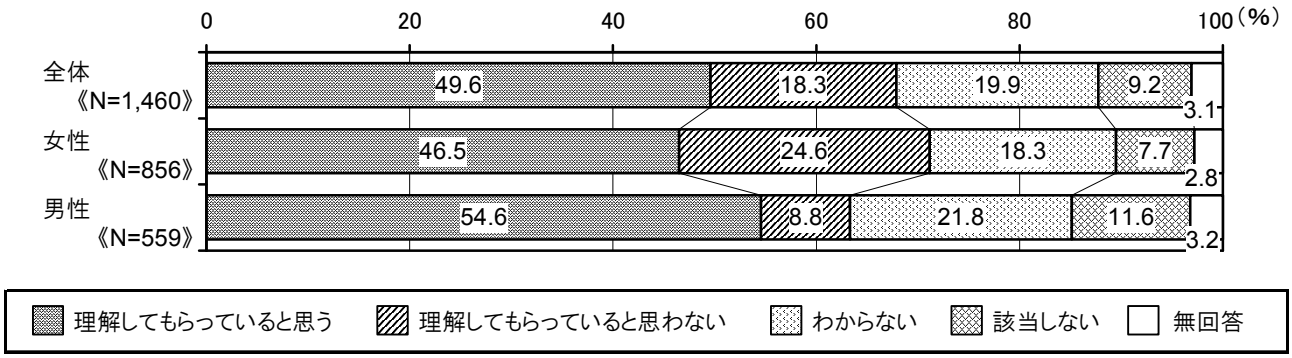
【全体】

「理解してもらっていると思う」49.6%は，「理解してもらっていると思わない」18.3%の約2.7倍となっている。

【性別】

男女とも「理解してもらっていると思う」が最も高くなっているが，男性の方がより高く，女性を 8.1 ポイント上回っている。一方，「理解してもらっていると思わない」は，女性が男性を15.8 ポイント上回っており，男性と女性の感じる理解の度合いには差がみられる。

健康や身体に対するパートナーの理解【全体，性別】



(2) セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験・場所

問12. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）についておたずねします。次のようなことでセクシュアル・ハラスメントだと感じた経験はありますか。またそれはどこで感じましたか。〈複数回答可〉

① セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験

男女とも「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が最も多く，男性より女性の方が 12.6 ポイント上回っている。

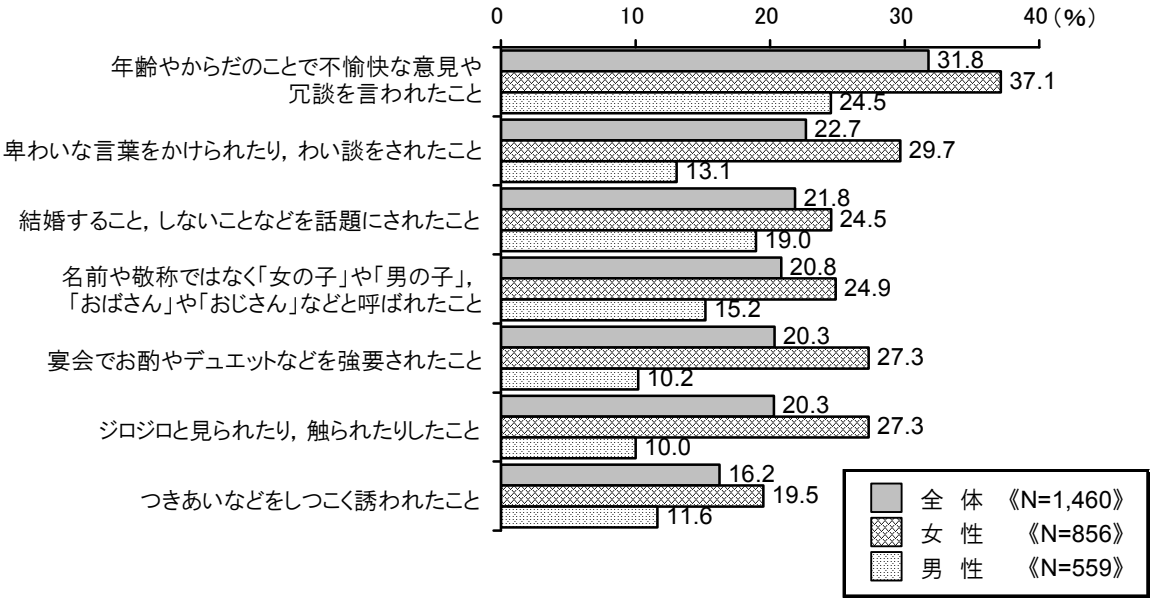
【全体】

「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が 31.8%と最も多く，次いで「卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと」22.7%，「結婚すること，しないことなどを話題にされたこと」21.8%と続いている。

【性別】

男女とも「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が最も多くなっているが，男性より女性の方が 12.6 ポイント上回っている。2 番目に多いのは，女性では「卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと」29.7%，男性では「結婚すること，しないことなどを話題にされたこと」19.0%となっており，男女の差がみられる。

セクシュアル・ハラスメントだと感じた経験〈複数回答可〉【全体，性別】



② 場所別にみたセクシュアル・ハラスメントだと感じた経験

［職場］がセクシュアル・ハラスメントを最も強く感じた場所である。

【全体】

［職場］では，「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が 19.2%と最も多く，次いで「宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと」14.2%，「卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと」13.1%と続いている。［職場］は，上位 3 項目が他の場所と比べ，どの項目も高くなっていることから，セクシュアル・ハラスメントを最も強く感じた場所であることがわかる。

［地域］では，「名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと」が 7.5%と最も多く，次いで「結婚すること，しないことなどを話題にされたこと」と「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」がともに 5.3%となっている。

［その他］では，「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」が 7.3%と最も多く，次いで「ジロジロと見られたり，触られたりしたこと」6.7%，「卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと」6.4%と続いている。

【性別】

［職場］の上位 3 項目は，男女とも共通しているが，特に女性では「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」と「宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと」の 2 項目は約 2 割となっており，男性より高い結果となっている。

［地域］では，男女とも最も高いのは全体と同様に「名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと」で，2 位，3 位は，順序は異なるが「結婚すること，しないことなどを話題にされたこと」と「年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと」となっている。

［その他］では，上位 3 項目の順序・内容は男女で異なっている。

場所別にみたセクシュアル・ハラスメントだと感じた経験　上位 3 項目【全体，性別】

場所	区分	1位	2位	3位
職場	全　体《N=1,460》	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 19.2%	宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと 14.2%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 13.1%
	女　性《N=856》	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 22.9%	宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと 19.7%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 16.8%
	男　性《N=559》	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 14.0%	結婚すること，しないことなどを話題にされたこと 12.2%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 8.1%
地域	全　体《N=1,460》	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと 7.5%	結婚すること，しないことなどを話題にされたこと 5.3%	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 5.3%
	女　性《N=856》	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと 7.9%	結婚すること，しないことなどを話題にされたこと 6.3%	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 5.5%
	男　性《N=559》	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと 6.6%	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 5.4%	結婚すること，しないことなどを話題にされたこと 4.1%
その他	全　体《N=1,460》	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 7.3%	ジロジロと見られたり，触られたりしたこと 6.7%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 6.4%
	女　性《N=856》	ジロジロと見られたり，触られたりしたこと 9.0%	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 8.8%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 8.4%
	男　性《N=559》	年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと 5.2%	卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと 3.6%	名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと 3.4%

(3) 夫婦・パートナー間での暴力

問13．家庭内・家族間等で起こる暴力のうち，あなたは過去２年間に夫や妻，恋人から，①から③のような暴力を受けた経験がありますか。
①身体に対する暴力を受けた
②精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた　③性的な行為を強要された

① パートナーから暴力を受けた経験

過去２年間に夫やパートナーから何らかの暴力を受けた女性は１割強である。

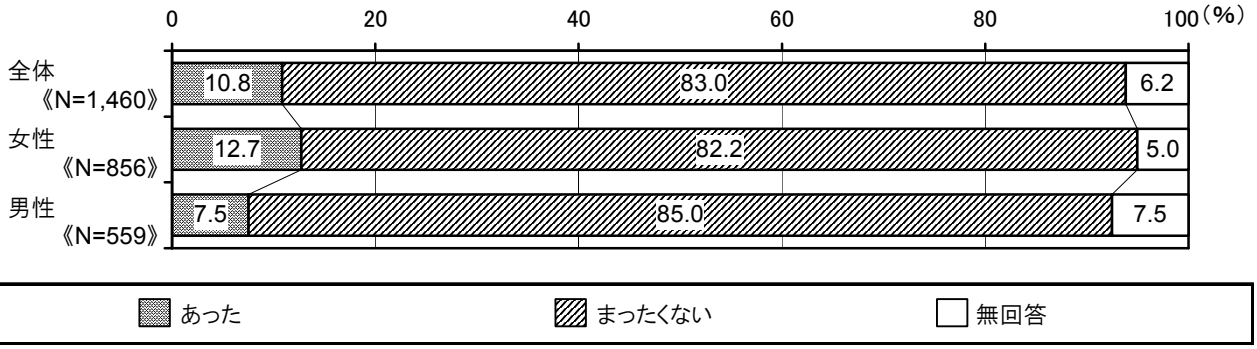
【全体】

①～③までのいずれかに『あった（「何度もあった」または「1，2 度あった」）』と回答した人は，10.8%となっている。

【性別】

①～③までのいずれかに『あった』と回答した人は，女性 12.7%，男性 7.5%と，女性の方が高くなっている。

パートナーから暴力を受けた経験【全体，性別】

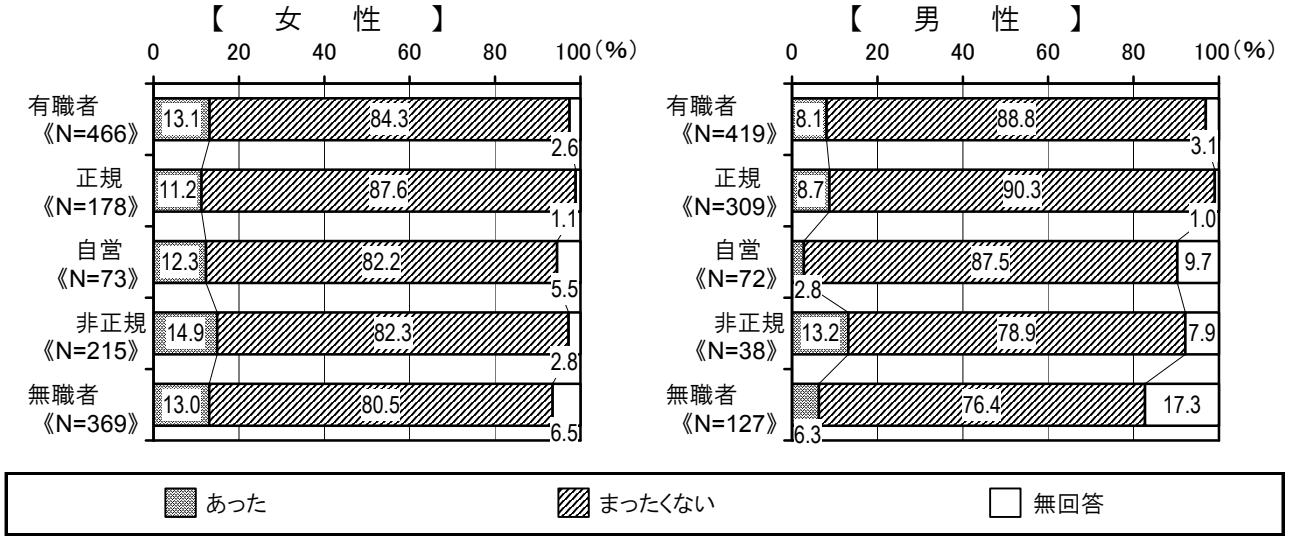


【性・職業の有無別】

パートナーから何らかの暴力を受けたことのある人は，有職者の中では〔非正規〕が最も高い。

①～③までのいずれかに『あった』と回答した人は，有職者・無職者とも女性の方が高くなっている。〔有職者〕の中では男女とも〔非正規〕が最も高くなっている。

パートナーから暴力を受けた経験【性・職業の有無別】



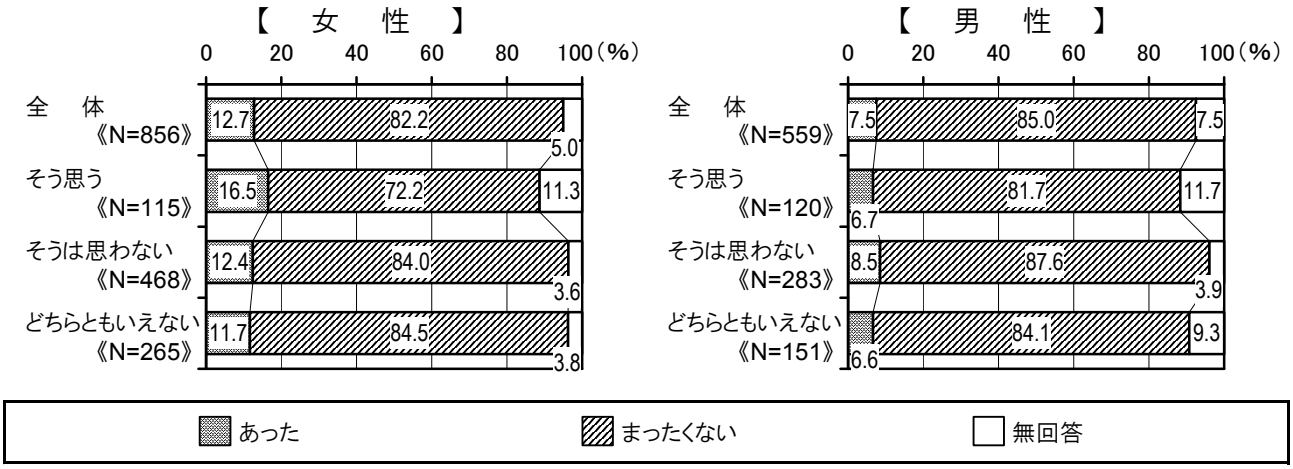
※「正規」=「勤め（正社員・正職員）」
※「自営」=「「自営業」
※「非正規」=「勤め（パート・アルバイトなど）」＋「その他」

【性・性別役割分担意識別】

パートナーから何らかの暴力を受けたことのある女性は”男は仕事，女は家庭”の賛成派が最も多い。

①～③までのいずれかに『あった』と回答した人は，女性は“男は仕事，女は家庭”の賛成派（〔そう思う〕）が最も高く，男性は“男は仕事，女は家庭”の反対派（〔そうは思わない〕）が最も高くなっている。

パートナーから暴力を受けた経験【性・性別役割分担意識別】

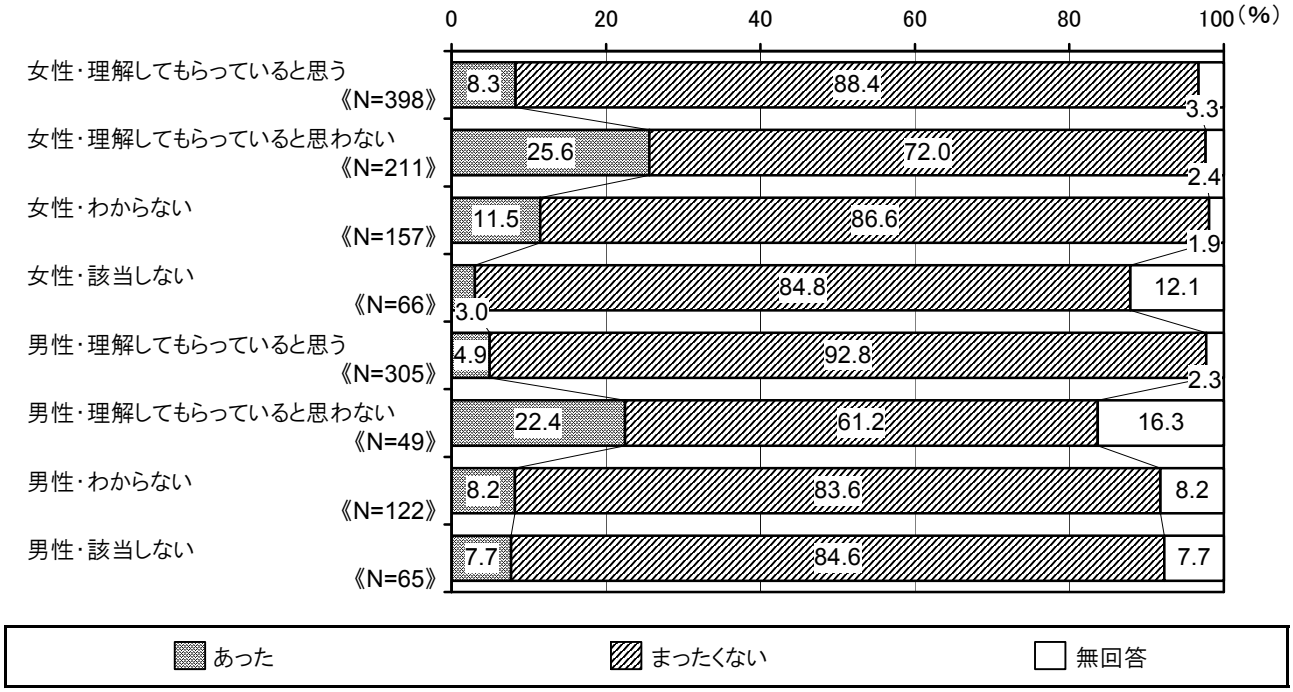


【性・健康や身体に対するパートナーの理解度別】

パートナーから何らかの暴力を受けたことのある人は，「パートナーから性・健康や身体に対して理解してもらっていると思わない」人が多い。

①～③までのいずれかに『あった』と回答した人は，男女とも〔理解してもらっていると思うわない〕が２割台で，他の層に比べて高くなっている。

パートナーから暴力を受けた経験の有無
【性・健康や身体に対するパートナーの理解度別】



② 身体的暴力を受けた経験

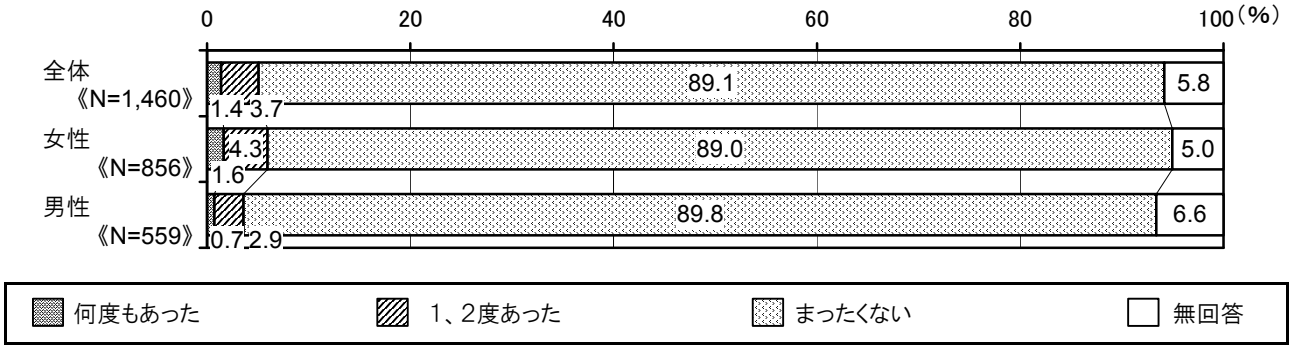
【全体】

暴力を受けた経験が『あった（「何度もあった」＋「1，2 度あった」)』は，5.1%となっている。

【性別】

暴力を受けた経験が『あった』は，女性 5.9%，男性 3.6%と，女性の方が高くなっている。

身体的暴力を受けた経験【全体，性別】



③ 精神的暴力を受けた経験

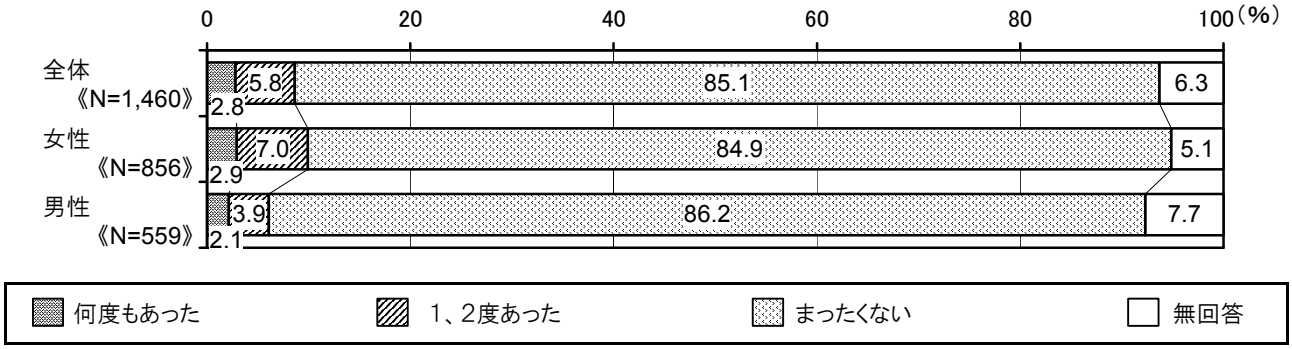
【全体】

暴力を受けた経験が『あった』は，8.6%となっている。

【性別】

暴力を受けた経験が『あった』は，女性 9.9%，男性 6.0%と，女性の方が高くなっている。

精神的暴力を受けた経験【全体，性別】



④ 性的暴力を受けた経験

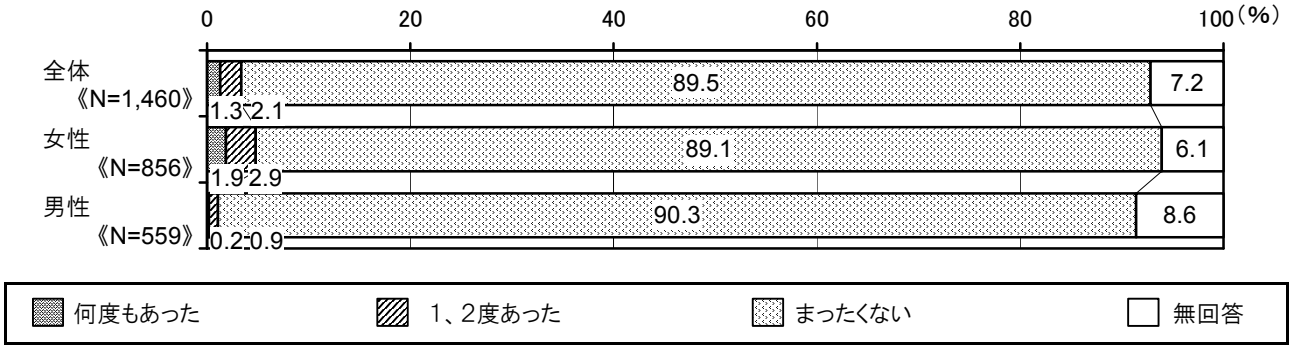
【全体】

暴力を受けた経験が『あった』は，3.4％となっている。

【性別】

暴力を受けた経験が『あった』は，女性 4.8％，男性 1.1％と，女性の方が高くなっている。

性的暴力を受けた経験【全体，性別】

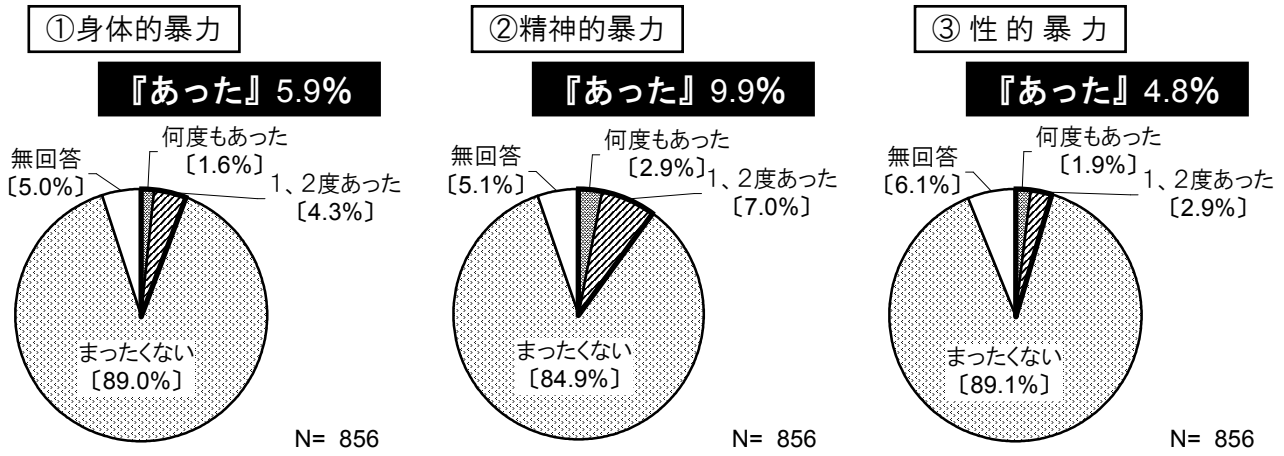


⑤ 種類別にみた女性が暴力を受けた経験

受けた暴力の種類は，精神的暴力・身体的暴力・性的暴力の順に多い。

暴力を受けたことが『あった』は，「精神的暴力」「身体的暴力」「性的暴力」の順で多くなっている。

種類別にみた女性が暴力を受けた経験【女性】



⑥ 女性に対する暴力のパターン

暴力の重複パターンは，「精神のみ」は年代が上がるほど高く，「身体＋精神＋性」は年代が低いほど高い。

暴力の重複パターンを次のように設定し，そのパターンの実態を分析した。

ア．身体的暴力，精神的暴力，性的暴力を重複して受けた経験がある（身体＋精神＋性）
イ．身体的暴力，精神的暴力を受けた経験がある（身体＋精神）
ウ．身体的暴力，性的暴力を受けた経験がある（身体＋性）
エ．精神的暴力，性的暴力を受けた経験がある（精神＋性）
オ．身体的暴力のみを受けた経験がある（身体のみ）
カ．精神的暴力のみを受けた経験がある（精神のみ）
キ．性的暴力のみを受けた経験がある（性のみ）

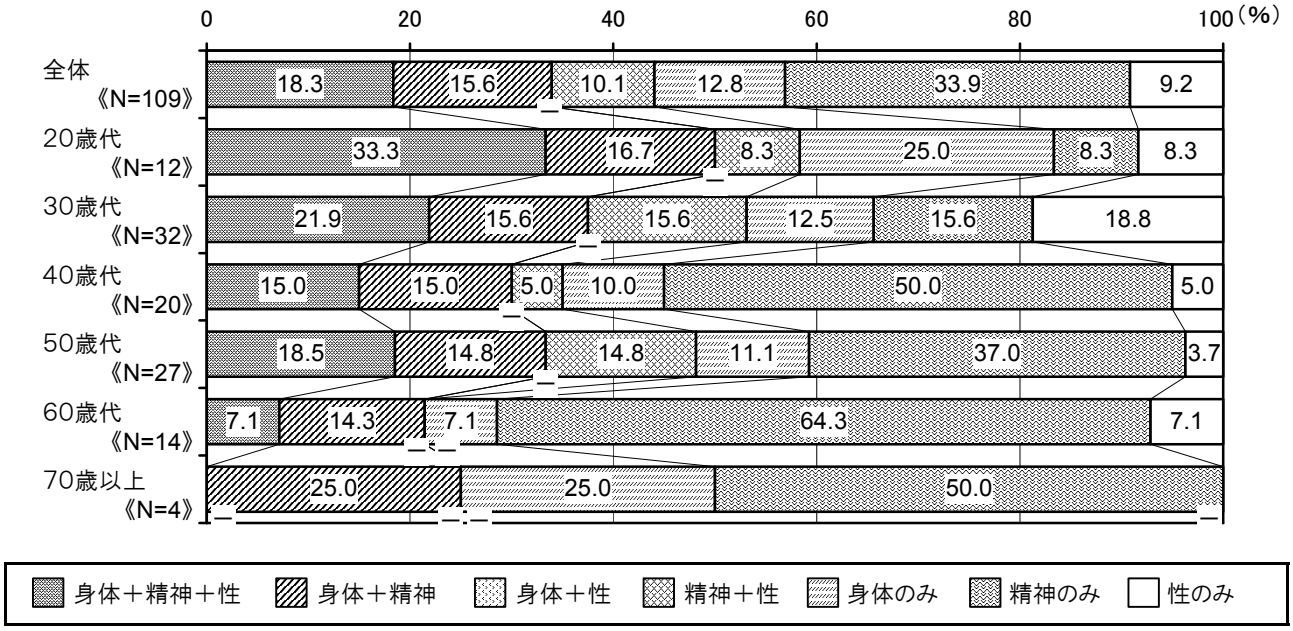
【全体（女性）】

「精神のみ」が 33.9%と最も多く，次いで「身体＋精神＋性」18.3%，「身体＋精神」15.6%と続いている。

【年齢別（女性）】

最も高い項目は年代により異なっている。また，「精神のみ」は概ね年代が上がるほど高く，「身体＋精神＋性」は概ね年代が低いほど高くなっている。

女性に対する暴力のパターン《暴力を受けた経験がある》【年代別（女性）】



(4) 暴力を受けたときの相談

① 相談の有無

《問 13．①～③のいずれかで，暴力をうけたと回答した方におうかがいします。》
問13-1．あなたはこれまでに，問 13 であげたような行為について，だれかに打ち明けたり，相談したりしましたか。

男女とも「相談しようとは思わなかった」が最も多い。相談した男性は相談した女性の 4 割程度となっている。

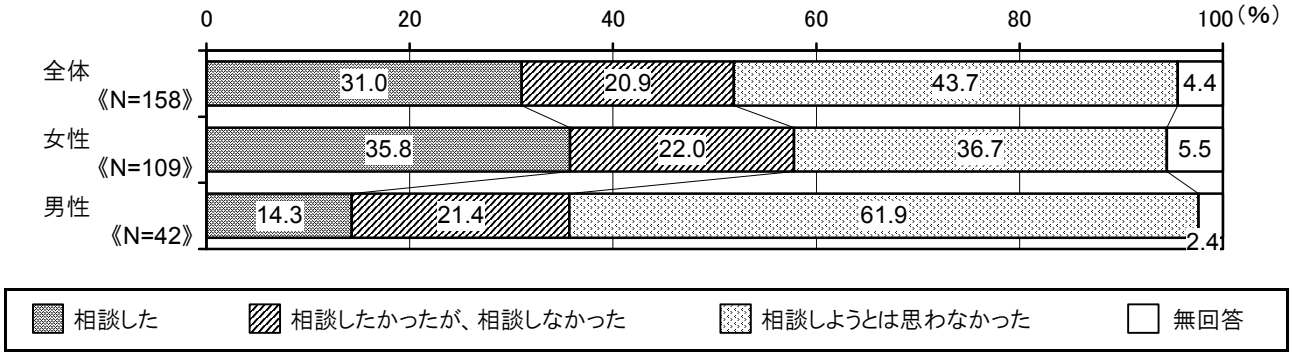
【全体】

「相談しようとは思わなかった」が 43.7%，「相談した」が 31.0%となっている。

【性別】

男女とも全体と同様に「相談しようとは思わなかった」が最も多いが，女性 36.7%，男性 61.9%と，男性が 25.2 ポイント上回っている。また，「相談した」は，女性では 35.8%と，「相談しようとは思わなかった」と 0.9 ポイント差で 2 番目に多くなっているが，男性では 14.3%にとどまっている。

相談の有無《暴力をうけた人》【全体，性別】

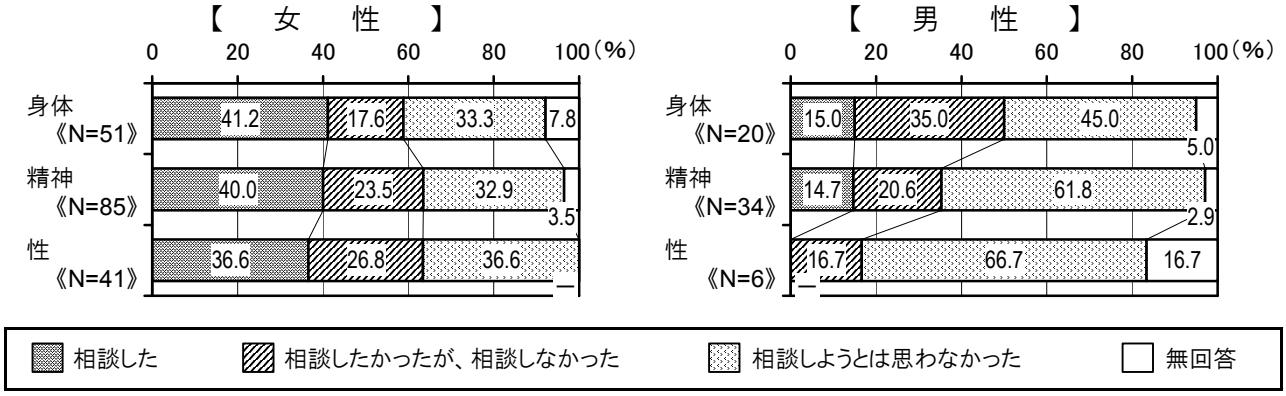


【性・暴力の種類別】

相談した人は，身体的暴力を受けた人が最も多く，性的暴力は相談しようと思わなかった人が多い。

男女とも，「相談した」は〔身体〕が最も高く，「相談しようとは思わなかった」は〔性〕が最も高くなっているが，女性より男性で差が大きくなっている。

相談の有無《暴力を受けた人》【性・暴力の種類別】



② 相談先

《問 13-1．で，「相談した」と回答した方におうかがいします。》
問13-２．相談した相手はどなたですか。　（複数回答可）

相談した人の相談先は，女性では「親族」「友人・知人」がともに多く，男性では「友人・知人」が多い。

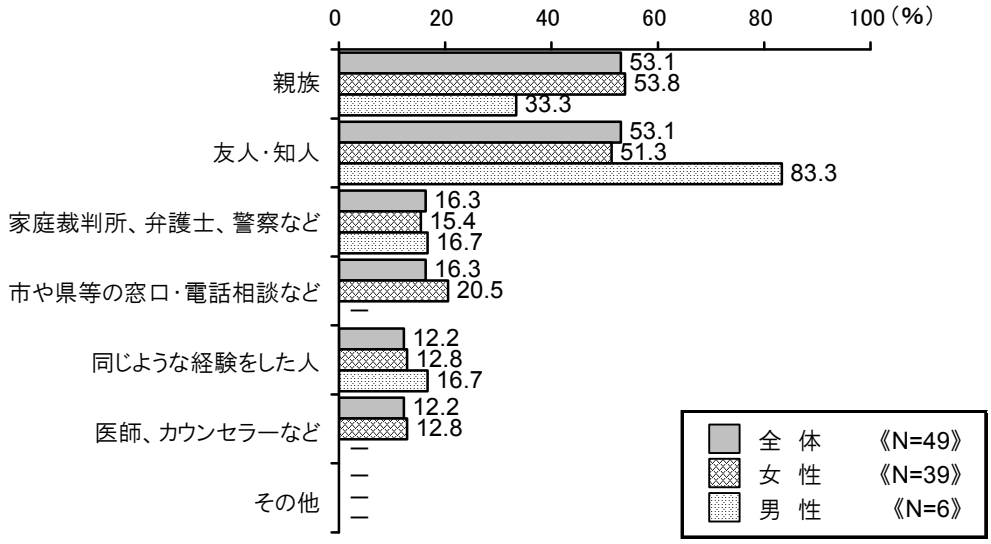
【全体】

「親族」と「友人・知人」がともに 53.1％と，それ以外の項目を大きく引き離して多くなっている。

【性別】

最も高いのは，女性では，「親族」と「友人・知人」はそれぞれ 5 割程度でほぼ同率であるが，男性では「友人・知人」が「親族」を 50 ポイント上回っている。

相談先〈複数回答可〉《相談した人》【全体，性別】



③ 相談しなかった理由

《問 13-1．で，相談しなかったと回答した方におうかがいします。》
問13-３．相談しなかった主な理由は何ですか。　〈２つまで回答可〉

相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多い。

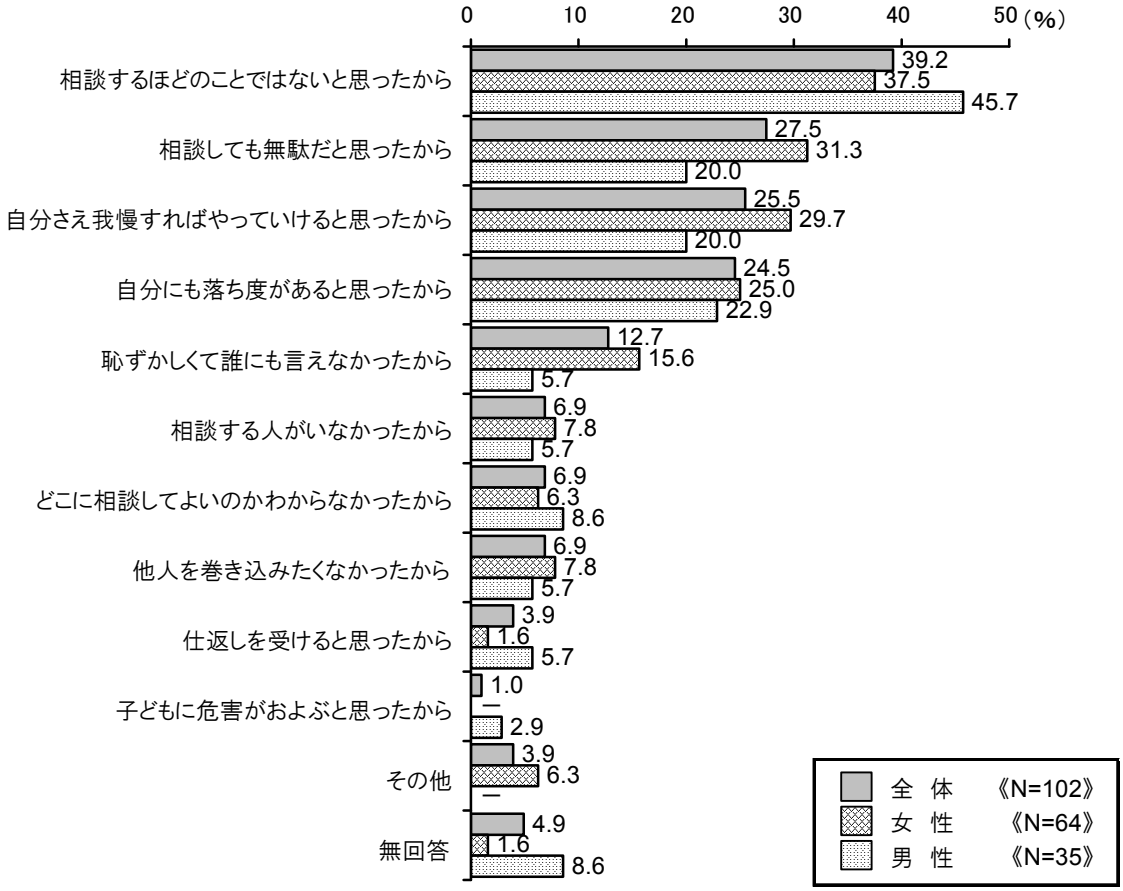
【全体】

「相談するほどのことではないと思ったから」が 39.2%と最も多く，次いで「相談しても無駄だと思ったから」27.5%，「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」25.5%と続いている。

【性別】

男女とも最も高いのは，「相談するほどのことではないと思ったから」であるが，男性がより高く，女性を 8.2 ポイント上回っている。また，2 位以降は，女性では概ね全体と同様であるが，男性では，「自分にも落ち度があると思ったから」が 22.9%と 2 番目に多くなっている。

相談しなかった理由〈２つまで回答可〉《相談しなかった人》【全体，性別】



(5) 男女間の暴力を防止するためには何が必要か

問14．男女間の暴力を防止するためには，どのようなことが必要だと思いますか。
〈２つまで回答可〉

「加害者への罰則を強化する」と「家庭や学校において，暴力防止のための教育を行う」が４割を超える。

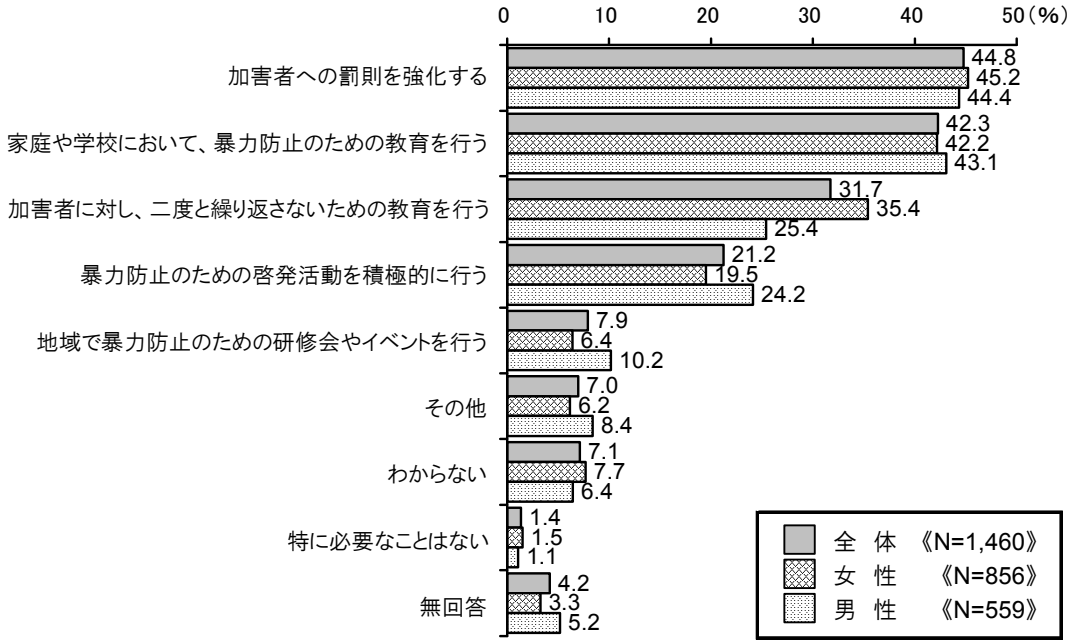
【全体】

「加害者への罰則を強化する」44.8％と「家庭や学校において，暴力防止のための教育を行う」42.3％の２項が４割を超え，高くなっている。

【性別】

男女とも全体と同様に「加害者への罰則を強化する」と「家庭や学校において，暴力防止のための教育を行う」が 4 割を超え，高くなっている。続く「加害者に対し，二度と繰り返さないための教育を行う」は，女性が男性より 10.0 ポイント高く，「暴力防止のための啓発活動を積極的に行う」は男性が 4.7 ポイント高くなっている。

男女間の暴力を防止するためには何が必要か〈２つまで回答可〉【全体，性別】

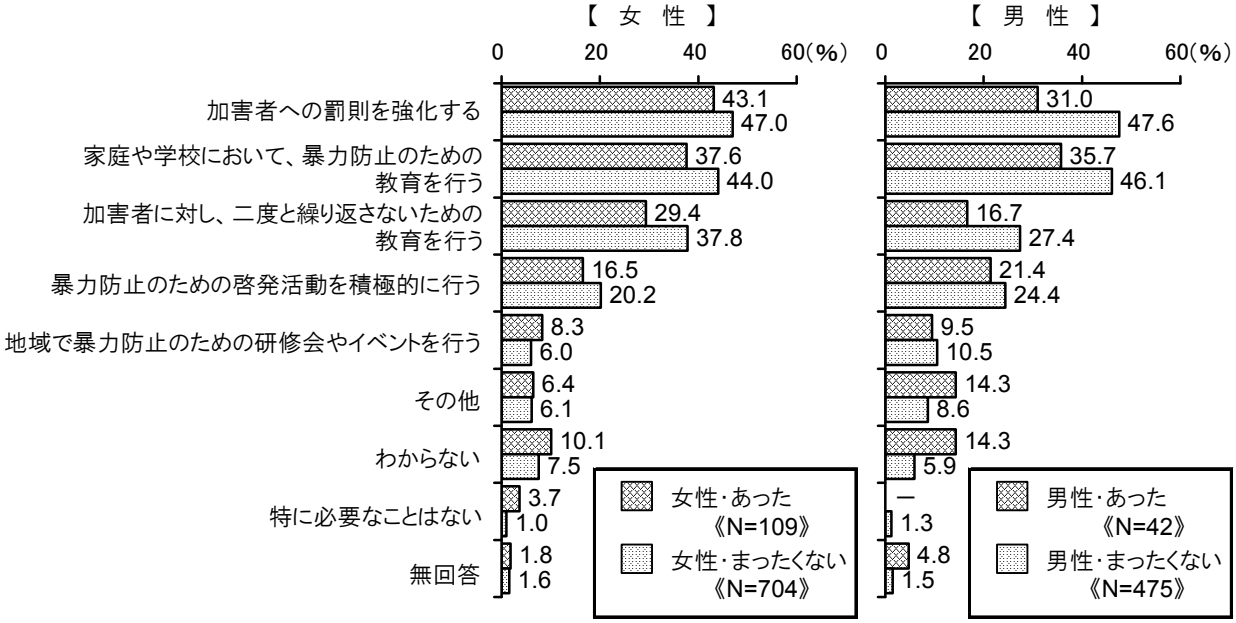


【性・パートナーから暴力を受けた経験の有無別】

暴力を受けた経験のある人は，暴力防止に必要なことが「わからない」と答える割合が高い。

男女とも，暴力を受けた経験がまったくない人の方が，必要な項目への割合は概ね高くなっている。「わからない」は男女とも暴力を受けた経験のあった人の方が高くなっており，暴力を受けた経験により，暴力防止に必要な事柄への考え方が違う様子がみられる。

男女間の暴力を防止するためには何が必要か〈２つまで回答可〉
【性・パートナーから暴力を受けた経験の有無別】



7. 男女共同参画に関する施策

問15．あなたは，男女共同参画社会の実現に向けて，今後，宇都宮市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。〈２つまで回答可〉

男女とも「仕事と家庭生活の両立支援」「高齢社会における生活の安定」が上位 2 項目となっている。

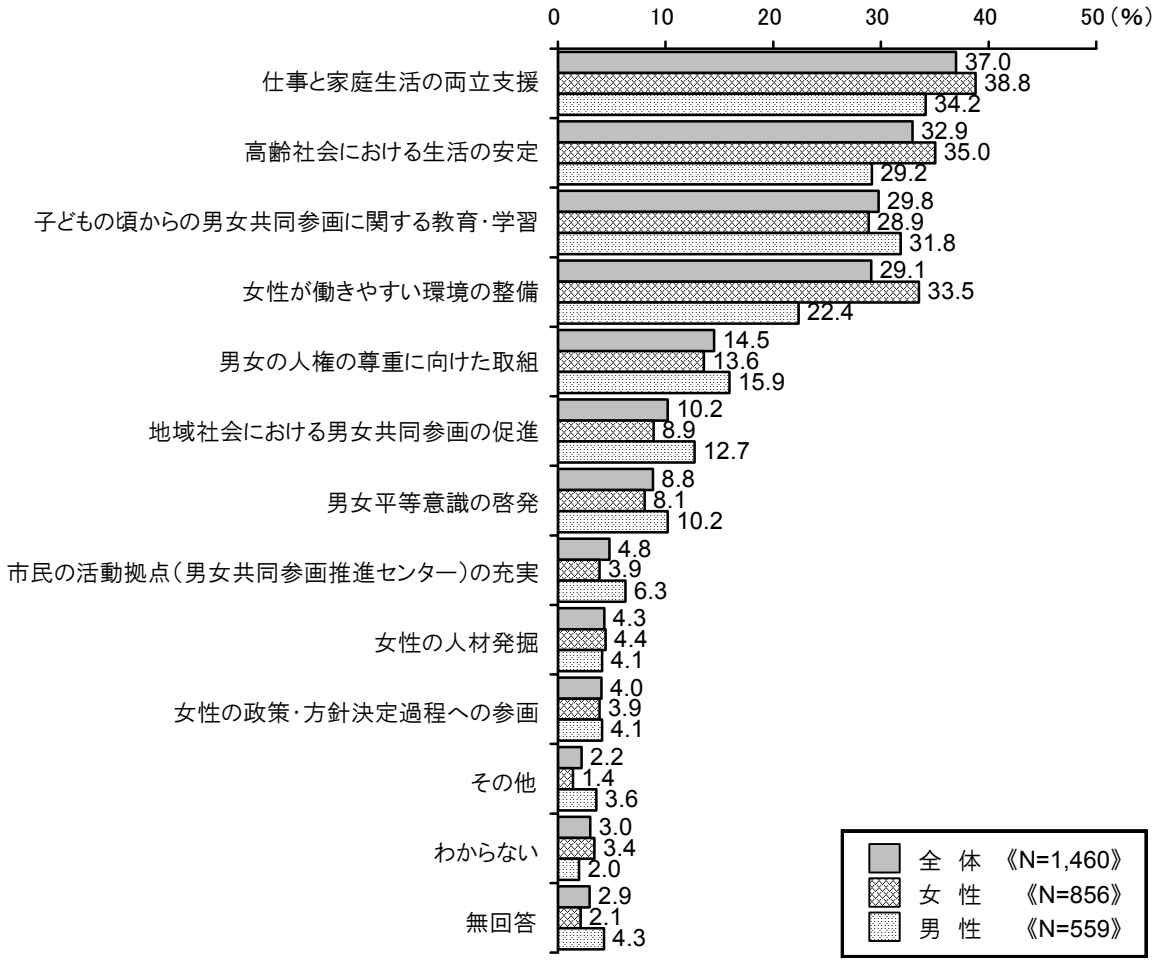
【全体】

「仕事と家庭生活の両立支援」が 37.0%と最も多く，次いで「高齢社会における生活の安定」32.9%と続き，この 2 項が 3 割を超えている。

【性別】

男女とも上位 2 項目は全体と同様であるが，2 項とも女性の方が男性を約 5 ポイント上回っている。また，「女性が働きやすい環境の整備」は女性が男性より 11.1 ポイント高くなっている。

男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策
〈２つまで回答可〉【全体，性別】

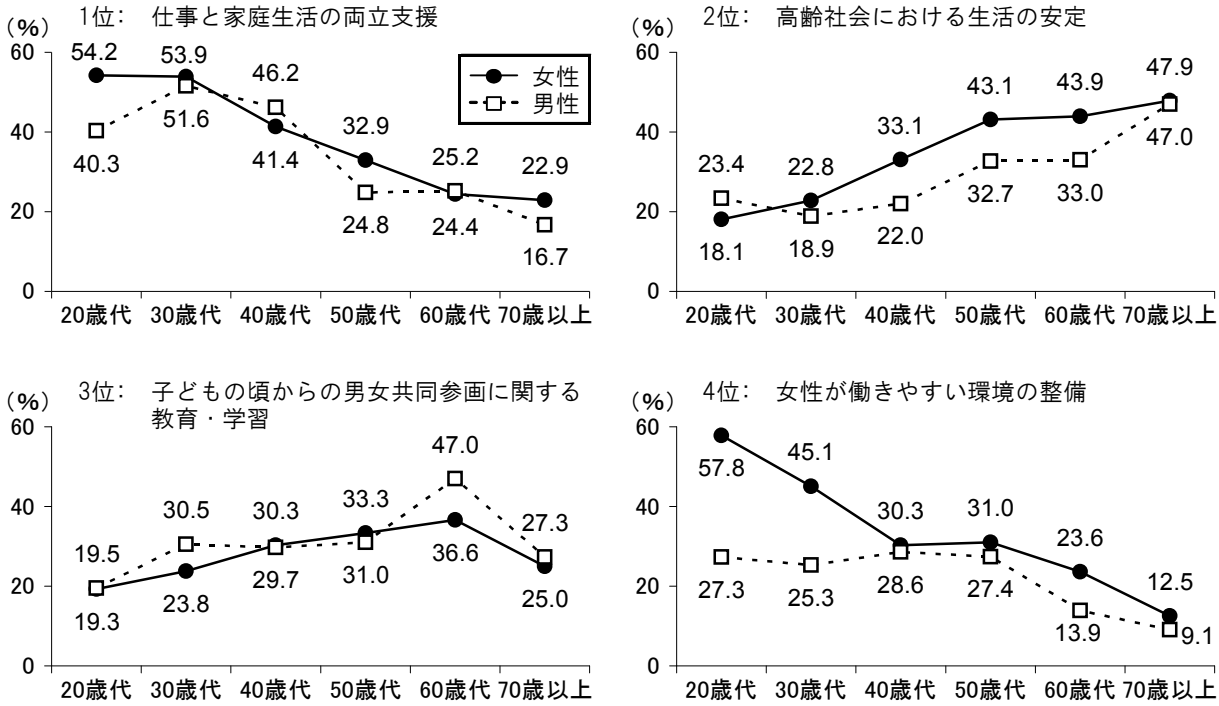


【性・年代別】

男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策として，20 歳代の女性は「女性が働きやすい環境の整備」をあげる人が多い。

男女とも「仕事と家庭生活の両立支援」は概ね年代が低いほど高く，「高齢社会における生活の安定」は概ね年代が高いほど高くなっている。また，「女性が働きやすい環境の整備」は，すべての年代で女性の方が高く，特に 20 歳代では女性が男性を 30.5 ポイント上回っている。

男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべき施策　上位 4 項目
〈２つまで回答可〉【性・年代別】



※ 調査数　【女性】20歳代《N=83》　30歳代《N=193》　40歳代《N=145》　50歳代《N=216》　60歳代《N=123》　70歳以上《N=96》

【男性】20歳代《N=77》　30歳代《N=95》　40歳代《N=91》　50歳代《N=113》　60歳代《N=115》　70歳以上《N=66》

Ⅴ　自由記述

回答者 1,460 人のうち，383 件（26.2%）の自由記述を得た。記述内容を分類すると，以下の通りとなっている。

項　　目	件数（件）
回答数	383
（延べ回答数）	499
1. 男女の地位・平等感について感じること	153
2. 家庭生活	62
3. 社会参画（地域活動）	32
4. 少子高齢社会	38
5. 職業・就労	85
6. 男女平等教育	36
7. 男女共同参画に関する施策	31
8. 本アンケートについて	19
9. 市政全般への要望・苦情	27
10. その他	16

以下に，主な意見を抜粋する。なお，掲載にあたっては，一部を省略したり，言葉遣いを改めたりなど，若干の修正を加えているものもある。文末の【　　】内に，記述した方の性別・年代・職業を示した（記載がないものは「無回答」としている）。

1. 男女の地位・平等感について感じること

○ 男女平等といっても，もともと男の人と女の人は役割や違い（特性）があると思うので，“何から何まで全て平等に”というのは無理があると思うし，間違っていると思う。平等にできるところはできるだけ行うようにし，他は特性を尊重しあうといいと思う。どちらかが優位というよりは，それぞれの向き不向きでよく話し合えばよいことだと思う。協力し助け合おうという寄りそう気持ちも大事だと思う。【女性・30～34 歳・専業主婦（夫）】

○ 男女平等を声高に訴えるようになってから，男女それぞれの「らしさ」というものが失われつつあるように思う。男が女より偉いとか，女は男の後についていくとか，そういう考えはもちろん今の時代に合わないのは当然で無くすべきだとは思う。だが，男にしかできないこと，女にしかできないことはあるはずで，そういうのを無視して平等，平等と言いすぎだと思う。特に，女性が平等と言っている陰には，子供の犠牲，男性への不平等などを作りだしているように思えてならない。平等を訴えるよりも，女性・男性・子供・大人・高齢者の違いを皆が理解し，助け合える世の中を目指すべきだと思う。【女性・30～34 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 男女平等といいながら女性が優遇されている面が多くあると思う。職場では同期入社で同じ仕事をしているのにもかかわらず，男というだけでサービス残業をしなければならない雰囲気があり，それで給与も同額。女性しか入れないコンビニ，女性しか乗れない電車の車両等，おかしな面が今の日本にはたくさんある。働きたい女性もいると思うが，家庭に入り家庭を守りたいという女性もたくさんいると思う。無理に社会復帰させて不平等な優遇をする必要はない。もちろん成果主義・能力主義の社会なので，能力のある女性は社会に復帰して平等な評価で働くのは大事なことだと思う。
【男性・25～29 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 家庭・学校・職場・地域，全てにおいて，男女平等と感じたことはありません。男性（特に６０歳代前後）は偉いもの，女性は男性に従属するべきである，とした考えは根強く残っています。これは幼い頃より教育の一環として男女ともに植え付けられてきた感覚で，そう簡単に改善されるものとは思いません。決定事柄として，性差別を行ってはならないとしていても，実際には男性の女性を扱う態度が改まらなければ何の解決にもなりません。全ての人の意識が変わらなければ男尊女卑はなくならないと強く感じます。【女性・20～24 歳・勤め（パート・アルバイトなど）】

○ 独身の男性は言われないのに，独身の女性に対してはまるで結婚しないことが悪いことみたいに何かと言われる。そういう社会の風潮が変わらない限り，男女平等はあり得ないと思う。

【女性・35～39 歳・勤め（正社員・正職員）】

2. 家庭生活

○ 日本の良い面か悪い面か，戦前までの古風な習慣が残る世代もだんだん少なくなっているものの，まだまだ「台所には男は入らない」「洗濯物など干せない」，といった話が５０代の主婦の方々の間でよく聞かれます。老後のことを思って，今のうちに「協力して」，と言って徐々に家事への参加を促しているところです。娘達の世代（20 代）は，既に男女間はあまりない様で逆にハラハラします。それなりに社会環境をととのえれば，子育ても社会復帰もそれなりに実現できるのではないかと思います。【女性・55～59 歳・勤め（パート・アルバイトなど）】

○ 男性がもっと育児参加できる（する）社会にすべきだと思う。やはり育児については女性への負担が大きいと思う。女性が育児休暇をとるのは普通であるが，男性では，やはりとれない環境である。強制的にでも男性にも育児休暇をとらせて（１週間～１ヵ月程度）育児参加させるべきではないか。

【無回答・無回答・勤め（正社員・正職員）】

○ 農村地帯にある介護保険の施設に勤めています。地域性で普段感じていることは，未だ，「ウチ（家）」や「長男の嫁」という意識が根強いということです。「長男の嫁」だから「介護」は当たり前，という意識は家族を追い詰めます。親の面倒は兄弟皆で持つという意識が広がってくれる日を願います。【女性・25～29 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 親と同居の本家の長男の嫁にとって，男女平等などという事は夢のまた夢だと思います。どこかの大臣さんと同様，“農業，家事，育児，掃除，親類の交際，接客をしなければ，女なんかいらない”と公言していた年代の人達の大事な息子が，果たして男女平等に協力すると思いますか？

【女性・55～59 歳・専業主婦（夫）】

○ 専業主婦をばかにするのは，男の人より女の人に多いような気がする。外で働くばかりがクローズアップされるけど，家庭を守る，子供を健康に育てる意識をもって，自信をもって専業主婦する人を社会的にも高くとは言わないが評価してもらいたい。家計的には一人のかせぎで大変ですが，今，何が大切かを考え生きているつもりです。何か少しの金額でいいからお給料でももらえたらなと，評価してもらっているのかなと思ったりもしてみます。心豊かに過ごして生きたいと思います。

【女性・35～39 歳・専業主婦（夫）】

3. 社会参画（地域活動）

○ 男女平等・男女共同参画社会については，行政や会社における女性の人数・権限は，男性に比べて少ないと思うし，個人的には女性の参加・参画がもっと増えてほしい。女性の参画を嫌う人からは（男女問わず），女性には向いていない，女性の方が能力が低い，という意見を聞く。これは男性中心の社会が長く続き，支配的な価値観，評価の物差しが男性的になっているためであると感じる。この価値観・尺度を変えずに参画の機会だけを増やしても，女性は居心地が悪く感じるかもしれない。一方，性差が存在する以上，偏りは生じると思うし，その多くは今のままであっても良いと思う。スポーツ競技を男女で区別せずに行ってほしいとも，メンズファッションの床面積がレディースと等しくなってほしいとも思わない。【男性・25～29 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 地域（自治会等）の活動で，炊き出しなど炊事や掃除といったいわゆる家事にかかわることをやらなければならない時に，男性は酒盛りをしていて手伝うこともせず，女性がせっせと動いている姿をみると男女平等というのはほど遠いなあと思います。女性側からも，もっと男性側に協力してもらうようにいえればよいのでしょうが，いえない環境というか慣習になっている状況をかえていく方法がみつかるとよいのですが……。【女性・40～44 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ ＰＴＡ活動では父親が参加すると賛辞され，母親が仕事で参加できないと否定的な言葉をかけられる。“仕事をしているのはみんな同じ”という画一的な言葉で母親はフルではたらいている事を否定するような扱いをうける。学校での父親と母親の扱いに違いがありすぎて不平等を感じる。まだまだ女性が専門職でフルタイムで働くことが当たり前の社会ではないと痛感する。同じ女性でもそのような考え方が多いことにも驚かされる。【女性・40～44 歳・勤め（正社員・正職員）】

4. 少子高齢社会

○ 保育所の入所条件をなくしてほしい。現状，未就園児を持つ母親は仕事をしたくても，子供の預け先が決定しないと安心して働くことができない。仮に仕事先が決定しても，子供の預け先が決定していないと働くことができない。このように，女性が働きたくても働けない現状がある。少子化対策として，児童手当の増額を望む。妊婦の検診費用を負担してほしい。このように経済的な補助がないことが，現在の少子化に繋がっていると，わが家では考えている。

【男性・35～39 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 少子化問題は，子育てしにくい環境の影響が大きいと思う。特に民間は，育児休暇がとりにくい状況と聞いている。職場で安心して子どもを産み育てられる制度が遅れていると思う。

【女性・45～49 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 私は保育士の資格を持っています。今，保育士になりたいという若い人が増えていますが，実際働ける所，すなわち，子どもを預かる施設は足りないように感じます。私の卒業した学校は就職率100％でしたが，やはり周りを見れば子どもを預けることが出来ずに困っている方は多いと思います。子どもを預けられるところは保育所や幼稚園だけではないと思います。夜間預けられるところが必要な母親もいると思いますし，働いていなくても少しの時間，預けたいと思う方もいます。小さな託児所などでもいいと思うのです。安心して子どもが産める社会にしていただきたいと思います。【女性・20～24 歳・勤め（パート・アルバイトなど）】

5. 職業・就労

○ 家庭では夫も家事・育児に協力してくれているので大変助かっています。子供が１歳になったら職場復帰を望んでいますが，職場で，コブつきは周りの人に迷惑がかかる等，言われたこともあり，以前のまま正社員で勤めることができなくなりそうで，すごく困っています。たしかに子供のことで休むことがあったり，仕事中心ではなくなってしまうとは思いますが，こんな現状ではいつになっても子供を産む女性は減ると思いますし，少子化は進むばかりだと思います。また，個人業ではセクハラが多すぎます。【女性・20～24 歳・専業主婦（夫）】

○ 職場において，女性が出産を終えて働くとしたらパート・アルバイトがほとんどで，いざ社会に出ると男性社員は給料他，優遇され，パート・アルバイトの女性には言葉づかい，職場内での対処の仕方もきちんとされていない。仕事は同じことをしているのに，男性が女性より優れているとは思わない。【女性・50～54 歳・勤め（パート・アルバイトなど）】

○ 以前，働いていた職場の雇用体制について，社則上，出産による休暇があり，その後の復帰も認めているのに，いざ当事者が出て申請をすると妊娠を機に「辞めてもらう」ということがあった。産休を社則上うたっていても現実はうそっぱちなのだなと会社の汚い体制を感じた。

【女性・25～29 歳・専業主婦（夫）】

○ 私は今 22 歳の大学 4 年生ですが，私が小学生の頃と比べると今の学校教育（教育実習やボランティア等で様々な学校にうかがう機会も多いので）における男女平等の意識や教育は，昔よりも進歩したように感じられるが，せっかく子供の頃から男女平等・男女共同参画社会に関する教育・学習を受けても，学校教育を離れ社会・地域に出ていけば男性が優遇されている場面が多く，そのギャップをなくすことは現段階では非常に難しいと思う。“女の子だから”“女性はウチの会社には，いらない”等，私は今までに何度嫌な思いをしたか分からない。男だから私より仕事が出来なくても評価されるのか。企業の考え方，社会全体の男女平等に対しての意識改革がもっともっと必要だと思う。“出るくいは打たれる”社会システムを早く改革し，男女という性を必要以上に考えず，その人の内面など，もっと大切な所に目を向けていって欲しい。【女性・20～24 歳・学生】

6. 男女平等教育

○ 地方では男は何もしなくてもいいと言う考え方がまだあると思うし，女の子はピンクや赤，男の子は青や緑とか，世の中の物がいつの間にか区別されていると思う。家の子供は女の子でポケットモンスターが大好きですが，グッズは青色ばかりで，これを持っていると男の子に間違えられます。女の子でも青い服を着たり，くつをはいてもいいのに，まわりは見た目で決めていると思う。世の中はすべてにおいて男が中心で，昔から，おかしいとずっと思っている。

【女性・40～44 歳・専業主婦（夫）】

○ 子供が園で「女のくせに●●かよ」と最近よく言われている様で，家に帰ってくると「女のくせに●●」と言われた，とすごく気にしています。まだ幼稚園児だからとすこしほうっておいていますが，時には気に入っていたシールなどもはがしてしまったり，お弁当に男の子のキャラクターなどのウィンナーなどを入れると，「もう入れないで」と言われてしまいます。女の子だって男の子のキャラクターを好きな子もいます。家庭でも「男の子だから」「女の子だから」と親が言っているのではないでしょうか。もうそれは平等ではないと私は思います。

【女性・35～39 歳・専業主婦（夫）】

○ 知り合いの人の子供と話していたら，小学校で「さんづけ運動」というのがあり，男子でも女子でも「○○さん」と呼ぶように教育されているということを知りました。男子を「○○くん」と呼んではいけないと言われているそうです。男女平等というのは，そういうことではないだろうと思うのですが，今の小学校というのは，そんな表面的なところにこだわったことをしているのかと，がっかりしました。もっと本質的なところで男女平等を教える手法を，学校という場だけではなく，大人たちで考えなくてはいけないと思いました。【女性・35～39 歳・自営業】

○ 男性が優遇される社会は良くないが，男女平等とは何か，男と女が同じなのではなく，お互いの違いを理解した上でお互いを尊重するような学校教育をしてほしい。子供は小学生だが，男女平等から○○くんと呼ばず男女とも「さん」で呼んでいるようだし，男らしい・女らしいという言葉を使ってもいけないと言う。女らしい男性，男らしい女性がいることはもちろんいいことだが，男らしさ・女らしさを教えることも大切だと思う。【女性・35～39 歳・専業主婦（夫）】

○ 子供の教育の場で男子校・女子校なんて分かれて男女差別をしているから，いつまでたっても宇都宮の人の考え方は変わらないのだと思う。あまりにも古すぎるし，共学の高校の受験倍率が毎年高いのに，なぜ変わろうとしないのか。子供達だって中学校まで共学なのに，思春期の大切な時だからこそ学校生活を共にして，お互いの良い所・悪い所などを学ぶべきだと思う。家庭では兄弟の有無などあるので知ることのできる情報は限られてしまう子もいると思うが，学校生活は男と女としてお互いのことを知る一番の手段だと思う。社会に出る前には必ずこういう時間が誰しも必要だ。宇都宮で育った大人には理解出来ないかもしれないが，そういう人が宇都宮の発展を止めさせているのではないか。他県の人々は，この宇都宮の現状にとても驚いていると思う。

【女性・30～34 歳・勤め（正社員・正職員）】

○ 男女平等といっても，やはり男の人に向いている仕事や，また，女の人に向いている仕事があると思う。出産などは男の人には無理なことだし，やはり，その時点で違いはあるわけだから，人間として考えると男女は全く別だと思う。しかし，人間的な区別とは別に，政治的・社会的には男女平等にしていかなくてはいけない。また，女の人で男女平等という言葉をすべて平等だと言っている人など，テレビなどで見かけるけど，勘違いしていると思う。これからは男女平等ということ，男性・女性という違いも教えていくべきだと思う。【男性・30～34 歳・自営業】

7. 男女共同参画に関する施策

○ 「男女共同参画」と言う文字・言葉が，行政のみで語られていると言う感じが強い。単に叫ばれているだけで，地域や身近なところでは何の変化もないように思われる。

【女性・65～69 歳・専業主婦（夫）】

○ 男女平等参画でなく，男女共同参画というのが大層よいことだと思いますが，男女共同参画社会の実現は理想であると思いますが，その理想の実現を目指して宇都宮市が努力することはよいことだと思います。行政への市民の意識を反映させるという意味でも，このような調査をすることは本当によいことだと思います。【男性・70 歳以上・無職】

資料編

宇都宮市　男女共同参画に関する意識調査

日頃から市政について格別のご理解とご協力をいただき，厚くお礼申し上げます。

宇都宮市では，男女が性別にかかわりなく，その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指し，宇都宮市男女共同参画行動計画に基づいてさまざまな取組を進めています。

本調査は，平成 13 年度に実施した調査からの意識の変化や，社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を調査し，計画の見直し及び市が取り組むべき施策の基礎資料とするために実施いたします。

お忙しいところお手数をおかけしますが，本調査の趣旨をご理解いただき，ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお，調査にご回答いただく方は，宇都宮市内にお住まいの 20 歳以上の方の中から，3,000 人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は，本調査の目的だけに利用し，秘密の保持には万全を期してまいりますので，ご迷惑をおかけすることは一切ございません。率直なご意見，ご感想をお寄せください。

平成 19 年 1 月

宇都宮市長　佐藤　栄一

調査票内の結果の見方

- 特に注記のない限り，結果数値が 1 行の場合，左が女性，右が男性，2 段の場合，上段が女性，下段が男性である。
- 結果数値の単位は「%」である。

※ご記入にあたってのお願い

① 回答は，あてはまる項目の番号に○印をつけてください。質問によっては1つだけ回答していただくものと，複数（あてはまるものすべて）回答していただくものがありますので，指示に従って回答してください。
○印は，番号を囲むようにつけてください。　例）(1)

② 「その他」とお答えの方は〔　〕内に，その内容を具体的にお書きください。

③ ご記入がすみましたら，お手数ですが，同封の**宇都宮市役所**あての返信用封筒（切手不要）に入れて，

２月９日（金）までにポストにご投函ください。

この調査についてのお問い合わせは，下記までお願いします。

宇都宮市　市民生活部　男女共同参画課　事業グループ

電話：028-632-2346

男女平等意識についておうかがいします。

問１． あなたは現在，次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

（①～⑧それぞれ１つずつに○）

女性《N=856》 男性《N=559》	１ 男性の方が非常に優遇されている	２ どちらかといえば男性の方が優遇されている	３ 平等になっている	４ どちらかといえば女性の方が優遇されている	５ 女性の方が非常に優遇されている	６ わからない	無回答
①家庭生活で	13.6 5.5	50.1 38.5	23.8 36.5	5.1 10.6	0.8 1.6	3.6 5.0	2.9 2.3
②職場で	20.7 10.0	45.6 45.3	11.7 23.4	2.7 9.1	0.8 2.3	12.7 6.1	5.8 3.8
③学校教育の場で	2.3 0.5	17.1 12.5	47.4 51.9	2.7 6.6	0.1 1.1	23.7 21.6	6.7 5.7
④地域社会で	8.5 3.0	50.2 37.4	19.7 33.3	3.4 7.9	0.6 2.0	12.0 11.8	5.5 4.7
⑤政治の場で	31.4 17.0	42.9 42.8	10.3 23.8	0.9 2.1	－ 0.4	9.2 10.0	5.3 3.9
⑥法律や制度の上で	11.4 3.9	41.9 25.2	26.6 45.4	2.5 8.4	0.5 2.1	12.4 10.4	4.7 4.5
⑦社会通念・慣習・しきたりなどで	27.5 12.3	54.0 62.6	5.5 12.0	1.3 4.1	－ 0.2	7.2 5.7	4.6 3.0
⑧社会全体で	12.7 5.5	65.3 57.8	9.2 20.6	2.0 5.7	0.2 1.3	6.4 6.4	4.1 2.7

問２． 次のような考え方について，あなたのご意見に最も近いものはどれですか。

（①・②それぞれ１つずつに○）

女性《N=856》 男性《N=559》	１ そう思う	２ そうは思わない	３ どちらともいえない	無回答
①夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである	13.4 21.5	54.7 50.6	31.0 27.0	0.9 0.9
②子どもの教育やしつけ，接し方を男の子と女の子で区別しない	47.0 42.0	28.3 38.3	23.8 18.2	0.9 1.4

家庭生活についておうかがいします。

問３． あなたの家庭では，日常の家事などの分担はどうしていますか。また，理想はどうしたいと考えていますか。**（(1)（2）とも，①～⑥それぞれ１つずつに○）**

	（1）現　在							（2）理　想						
女性《N=856》 男性《N=559》	１ 夫と妻で半々	２ 主に妻	３ 主に夫	４ 夫と妻以外の家族	５ 外部のサービスを利用	６ 該当しない	無回答	１ 夫と妻で半々	２ 主に妻	３ 主に夫	４ 夫と妻以外の家族	５ 外部のサービスを利用	６ 該当しない	無回答
①炊事	6.5 10.2	81.2 67.1	0.8 3.2	2.5 3.8	0.2 0.5	6.8 12.3	2.0 2.9	51.9 42.0	36.7 44.4	0.2 0.9	1.1 1.4	1.4 0.5	3.6 3.8	5.1 7.0
②洗濯	6.8 8.9	79.2 66.7	1.8 5.7	2.8 3.2	― 0.2	6.7 12.5	2.8 2.7	43.7 42.9	43.5 41.9	1.2 1.8	1.4 1.6	0.5 0.9	3.5 3.9	6.3 7.0
③掃除	13.6 19.9	71.8 56.0	2.5 5.0	2.0 3.4	0.1 ―	7.0 12.5	3.0 3.2	64.5 58.5	21.0 25.9	1.9 1.6	1.1 2.0	1.5 0.9	3.9 3.8	6.2 7.3
④子どもの身のまわりの世話	9.2 8.9	57.5 47.9	0.1 0.7	0.8 1.4	― 0.2	26.2 34.7	6.2 6.1	59.6 50.1	17.6 23.3	0.2 0.4	0.6 1.3	0.1 ―	14.5 16.6	7.4 8.4
⑤日常の買い物	15.2 24.0	71.1 51.9	1.2 5.4	2.1 2.7	0.2 0.4	7.4 12.9	2.8 2.9	57.7 58.0	30.8 26.5	0.1 1.6	0.4 1.3	1.3 0.5	3.2 4.5	6.5 7.7
⑥高齢者の介護	7.5 10.6	22.0 15.6	0.5 2.3	0.4 1.3	2.0 1.8	59.8 61.9	7.9 6.6	43.6 46.2	2.7 4.1	0.2 0.9	0.9 1.3	15.7 12.5	28.5 26.7	8.4 8.4

問４． 男性の家事，子育て，介護参加についておうかがいします。

（1）**【男性の方におうかがいします。】**
家事，子育て，介護に参加したいですか。　　男性《N=559》

１．参加したい	59.4
２．参加したくない	17.0
３．わからない	20.6
無回答	3.0

（2）**【女性の方におうかがいします。】**
男性に家事，子育て，介護に参加してほしいですか。　　女性《N=856》

１．参加してほしい	87.7
２．参加してほしくない	3.2
３．わからない	6.5
無回答	2.6

【問４．で「1．参加したい（参加してほしい）」を選んだ方におうかがいします。】

問４-１． 今後，男性が女性とともに家事，子育て，介護に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか。**（２つまで○）** 女性《N=856》　男性《N=559》

	女性	男性
１．男女の役割意識についての社会通念，慣習，しきたりを改めること	37.3	29.8
２．夫婦の間で家事などの分担について，十分話し合い，協力し合うこと	57.4	57.2
３．男性の仕事中心の生き方，考え方を改めること	19.3	24.1
４．妻が，夫に経済力や出世を求めないこと	2.8	6.3
５．家事，子育てや介護に必要な知識を学べる機会を充実すること	21.7	16.6
６．労働時間短縮や休暇制度を普及させること	33.7	45.5
７．その他〔具体的に　　〕	3.2	4.5
８．わからない	0.5	―
９．特に必要なことはない	0.8	1.2
無回答	4.5	0.3

社会参画についておうかがいします。

問５． あなたは（１）現在，何か地域などでの活動をしていますか。また，（２）今後行ってみたい活動は何ですか。**（(1)（2）とも，あてはまる番号にいくつでも○）**

女性《N=856》 男性《N=559》	1 自治会等の地域活動	2 ＰＴＡや子ども会，育成会の活動	3 趣味やスポーツのグループ活動	4 ボランティアやＮＰＯ活動	5 研究会や勉強会の活動	6 審議会等の政策決定に関する活動	7 その他〔具体的に　　〕	8 特にない	無回答
（１）現在行っている	16.9 16.1	14.5 6.3	19.5 16.8	6.9 4.3	5.0 5.0	0.2 0.7	1.3 1.4	42.6 54.2	13.9 10.9
（２）今後行ってみたい	4.0 8.6	4.7 4.7	30.3 29.9	19.5 17.4	13.4 12.2	2.2 7.0	0.4 0.7	20.8 25.9	27.3 25.6

【問５．の（１）で，「８　特にない」に○をした方におうかがいします。】

問５-１． 現在，あなたがこれらの社会的な活動に参加していない主な理由は何ですか。
（最も近いもの１つだけに○）　女性《N=365》　男性《N=303》

	女性	男性
１．仕事が忙しく時間がないから	30.4	45.5
２．出産・育児があるから	14.5	1.0
３．介護が必要な家族がいるから	3.8	2.0
４．家族の協力が得られないから	0.8	－
５．家族の転勤や転居があるから	0.8	0.7
６．健康に自信がないから	9.6	6.9
７．やりたい活動がないから	8.2	6.9
８．魅力のある団体や仲間がいないから	3.8	7.9
９．活動の場がないから	3.0	3.6
10．活動の費用がないから	1.9	2.6
11．活動についての情報がないから	7.7	5.6
12．その他〔具体的に　　〕	4.9	5.9
13．特に理由はない	15.1	14.5
無回答	1.1	1.0

少子高齢化についておうかがいします。

問６． 近年，女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっていますが，その理由はどのようなことがあると思いますか。**（２つまで○）**　女性《N=856》　男性《N=559》

	女性	男性
１．親となる人が，子どもを取り巻く社会環境に不安をもっているから	15.9	15.4
２．雇用条件や保育サービスなど育児と仕事を両立させる社会的なしくみが整っていないから	36.3	30.4
３．出産や育児に対する男性の理解，協力が足りず，女性の精神的・肉体的負担が大きいから	19.5	8.9
４．育児・教育のための経済的負担が大きいから	46.7	43.3
５．子どもは少なく産んで十分手をかけて育てたいという人が増えたから	5.6	7.7
６．子どもをもつことよりも，自分自身の趣味や余暇などを大切にする人が増えてきたから	20.6	26.8
７．女性の高学歴化や社会進出によって結婚年齢が上昇したから	22.8	22.2
８．結婚しない人が増えたから	19.0	20.4
９．その他〔具体的に　　〕	4.0	5.5
10．わからない	0.9	1.4
無回答	2.0	3.9

問７． あなたは，豊かな老後を送るためにはどのようなことが必要だと思いますか。**（２つまで○）**

	女性《N=856》	男性《N=559》
１．働く場があること	10.0	16.3
２．楽しめる趣味があること	33.1	37.7
３．財産や預金が足りていること	41.2	40.3
４．安心して住める家があること	11.6	8.6
５．社会保障制度がしっかりしていること	51.2	49.2
６．日頃の身の回りの世話をしてくれる人がいること	4.9	6.8
７．病気になったとき看病してくれる人がいること	8.8	8.2
８．福祉関係の施設が充実していること	29.9	22.7
９．その他〔具体的に　　〕	2.7	3.6
10．特にない	0.2	－
11．わからない	0.6	0.2
無回答	1.5	1.3

職業・就労についておうかがいします。

問８．【男性の方は（1）のみ，女性の方は（1）（2）それぞれにお答えください。】
女性の働き方についておたずねします。

（1）一般的に，女性の働き方について，あなたが望ましいと思うのはどれですか。

	女性《N=856》	男性《N=559》
１．女性は職業をもたない	0.9	1.6
２．結婚するまでは職業をもつ	4.4	4.8
３．子どもができるまでは職業をもつ	8.9	12.3
４．出産育児期間は一時退職して，子どもが成長したら再び職業をもつ	50.9	50.1
５．結婚や出産・育児にかかわらず，ずっと職業をもちつづける	23.6	23.4
６．その他〔具体的に　　〕	1.3	4.5
無回答	9.9	3.2

（2）あなたご自身の職業の持ち方は，実際はどれになると思いますか。

	女性《N=856》
１．女性は職業をもたない	2.0
２．結婚するまでは職業をもつ	12.4
３．子どもができるまでは職業をもつ	13.1
４．出産育児期間は一時退職して，子どもが成長したら再び職業をもつ	37.0
５．結婚や出産・育児にかかわらず，ずっと職業をもちつづける	23.0
６．その他〔具体的に　　〕	5.8
無回答	6.7

問９． あなたのお仕事は次のうちどれにあたりますか。**（１つだけに○）**

	女性《N=856》	男性《N=559》
１．学生	1.1	3.0
２．自営業	8.4	12.9
３．勤め（正社員・正職員）	20.8	54.2
４．勤め（パート・アルバイトなど）	24.2	6.1
５．専業主婦（夫）	31.5	0.5
６．無職	9.9	18.4
７．その他〔具体的に　　〕	1.6	2.5
無回答	2.5	2.3

【問９．で，「５．専業主婦（夫）」と「６．無職」に○をした方におうかがいします。】

問９-１． あなたは，今後，仕事をもちたいと思いますか。雇われて働くだけではなく，仲間と新しく事業をするなども含め，収入を得る活動をしたいか否かでお答えください。
（１つだけに○）

	女性《N=355》	男性《N=106》
１．働きたい	29.6	24.5
２．働きたいが働けない	33.8	34.0
３．働きたくない	23.1	32.1
４．わからない	7.6	1.9
無回答	5.9	7.5

【問９－１．で「２．働きたいが働けない」に○をした方におうかがいします。】

問９-２． あなたが働けない理由は何ですか。**（２つまで○）**

	女性《N=120》	男性《N=36》
１．家事・育児との両立がむずかしいから	19.2	－
２．子どもを預かる人や施設がないから	6.7	－
３．老親などの介護をしてくれる人がいないから	8.3	8.3
４．夫や家族が反対するから	0.8	－
５．体力や健康に自信がないから	33.3	50.0
６．年齢的に適当な募集がないから	50.8	50.0
７．やりたい種類の仕事の募集がないから	8.3	8.3
８．通える範囲に適当な職場がないから	8.3	11.1
９．能力に自信がないから	12.5	5.6
10．家族の転勤があり続けられないから	4.2	－
11．その他〔具体的に　　〕	14.2	25.0

問10．女性が結婚や出産のために退職し，その後再就職するためには何が必要だと思いますか。
（２つまで○）　女性《N=856》　男性《N=559》

	女性	男性
１．夫の理解や家事・育児などへの参加	49.3	40.4
２．夫以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	8.2	7.9
３．子どもや介護を必要とする人などをあずかってくれる施設の充実	40.3	35.8
４．就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	6.8	4.3
５．技能習得のための講座等の充実	3.5	2.7
６．企業等事業所の理解	22.1	24.5
７．企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	30.4	41.0
８．フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	19.0	21.8
９．その他〔具体的に　　〕	1.5	2.5
10．わからない	2.1	1.8
無回答	3.3	3.8

男女の人権についておうかがいします。

問11．あなたは，日常生活において，夫や妻に男女の健康上のちがいを理解してもらっていると思いますか。（１つだけに○）　女性《N=856》　男性《N=559》

	女性	男性
１．理解してもらっていると思う	46.5	54.6
２．理解してもらっていると思わない	24.6	8.8
３．わからない	18.3	21.8
４．該当しない	7.7	11.6
無回答	2.8	3.2

問12．セクシュアル・ハラスメント＊（性的いやがらせ）についておたずねします。次のようなことでセクシュアル・ハラスメントだと感じた経験はありますか。またそれはどこで感じましたか。
（①から⑦のそれぞれについて，あてはまる番号に○）

＊セクシュアル・ハラスメントとは，職場や家庭，学校，地域社会において，相手方の意に反して性的な行為を強要したり，性的な言動により生活環境を侵害することです。

	感じたことがある			４	
女性《N=856》 男性《N=559》	１ 職場で感じた	２ 地域で感じた	３ その他	感じたことはない	無回答
①結婚すること，しないことなどを話題にされたこと	13.9 12.2	6.3 4.1	4.3 2.7	69.9 72.1	7.7 11.1
②名前や敬称ではなく「女の子」や「男の子」，「おばさん」や「おじさん」などと呼ばれたこと	11.2 5.2	7.9 6.6	5.7 3.4	68.9 75.0	7.4 11.1
③年齢やからだのことで不愉快な意見や冗談を言われたこと	22.9 14.0	5.5 5.4	8.8 5.2	57.1 65.5	7.7 12.0

女性《N=856》 男性《N=559》	感じたことがある 1 職場で感じた	2 地域で感じた	3 その他	4 感じたことはない	無回答
④卑わいな言葉をかけられたり，わい談をされたこと	16.8 8.1	4.4 1.4	8.4 3.6	62.5 75.3	8.6 12.7
⑤ジロジロと見られたり，触られたりしたこと	13.4 4.1	4.9 2.7	9.0 3.2	64.5 76.7	8.6 13.8
⑥宴会でお酌やデュエットなどを強要されたこと	19.7 6.1	2.0 0.9	5.6 3.2	64.0 77.1	8.9 13.2
⑦つきあいなどをしつこく誘われたこと	11.8 6.8	1.9 1.6	5.8 3.2	71.1 75.8	9.5 13.2

問13． 家庭内・家族間等で起こる暴力のうち，あなたは過去２年間に夫や妻，恋人から，①から③のような暴力を受けた経験がありますか。

（①から③のそれぞれについて，あてはまる番号に１つずつ○）

女性《N=856》 男性《N=559》	1 何度もあった	2 1，2度あった	3 まったくない	無回答
①身体に対する暴力を受けた	1.6 0.7	4.3 2.9	89.0 89.8	5.0 6.6
②精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた	2.9 2.1	7.0 3.9	84.9 86.2	5.1 7.7
③性的な行為を強要された	1.9 0.2	2.9 0.9	89.1 90.3	6.1 8.6

【問13．①～③のいずれかで，「１」または「２」に○をした方におうかがいします。】

問13-１． あなたはこれまでに，問 13 であげたような行為について，だれかに打ち明けたり，相談したりしましたか。**（１つだけに○）**

	女性《N=109》	男性《N=42》
１．相談した	35.8	14.3
２．相談したかったが，相談しなかった	22.0	21.4
３．相談しようとは思わなかった	36.7	61.9
無回答	5.5	2.4

【問13-1．で，「1．相談した」に○をした方におうかがいします。】

問13-2．相談した相手はどなたですか。**（あてはまる番号すべてに○）**

	女性《N=39》	男性《N=6》
１．親族	53.8	33.3
２．友人・知人	51.3	83.3
３．同じような経験をした人	12.8	16.7
４．家庭裁判所，弁護士，警察など	15.4	16.7
５．市や県等の窓口･電話相談など	20.5	－
６．医師，カウンセラーなど	12.8	－
７．その他〔具体的に　　〕	－	－

【問13-1．で，「2」または「3」に○をした方におうかがいします。】

問13-3．相談しなかった主な理由は何ですか。**（２つまで○）**

	女性《N=64》	男性《N=35》
１．相談する人がいなかったから	7.8	5.7
２．どこに相談してよいのかわからなかったから	6.3	8.6
３．相談しても無駄だと思ったから	31.3	20.0
４．仕返しを受けると思ったから	1.6	5.7
５．子どもに危害がおよぶと思ったから	－	2.9
６．恥ずかしくて誰にも言えなかったから	15.6	5.7
７．自分さえ我慢すればやっていけると思ったから	29.7	20.0
８．自分にも落ち度があると思ったから	25.0	22.9
９．他人を巻き込みたくなかったから	7.8	5.7
10．相談するほどのことではないと思ったから	37.5	45.7
11．その他〔具体的に　　〕	6.3	－
無回答	1.6	8.6

問14．男女間の暴力を防止するためには，どのようなことが必要だと思いますか。（２つまで○）

	女性《N=856》	男性《N=559》
１．暴力防止のための啓発活動を積極的に行う	19.5	24.2
２．地域で暴力防止のための研修会やイベントを行う	6.4	10.2
３．家庭や学校において，暴力防止のための教育を行う	42.2	43.1
４．加害者に対し，二度と繰り返さないための教育を行う	35.4	25.4
５．加害者への罰則を強化する	45.2	44.4
６．その他〔具体的に　　〕	6.2	8.4
７．わからない	7.7	6.4
８．特に必要なことはない	1.5	1.1
無回答	3.3	5.2

男女共同参画に関する施策についておうかがいします。

問15. あなたは，男女共同参画社会の実現に向けて，今後，宇都宮市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。**（２つまで○）**

	女性《N=856》	男性《N=559》
１．男女平等意識の啓発	8.1	10.2
２．子どもの頃からの男女共同参画に関する教育・学習	28.9	31.8
３．男女の人権の尊重に向けた取組	13.6	15.9
４．地域社会における男女共同参画の促進	8.9	12.7
５．女性の政策・方針決定過程への参画	3.9	4.1
６．女性の人材発掘	4.4	4.1
７．仕事と家庭生活の両立支援	38.8	34.2
８．女性が働きやすい環境の整備	33.5	22.4
９．高齢社会における生活の安定	35.0	29.2
10．市民の活動拠点（男女共同参画推進センター）の充実	6.3	3.9
11．その他〔具体的に　　〕	1.4	3.6
12．わからない	3.4	2.0
無回答	2.1	4.3

問16. あなたが日頃，家庭や学校，職場，地域などで，男女平等や男女共同参画社会について感じていることがございましたら，ご自由にお書きください。

項　　目	件数（件） 全体	性別 女性	性別 男性
回答数	383	221	143
（延べ回答数）	499	287	188
1. 男女の地位・平等感について感じること	153	80	67
2. 家庭生活	62	41	16
3. 社会参画（地域活動）	32	20	10
4. 少子高齢社会	38	29	9
5. 職業・就労	85	53	26
6. 男女平等教育	36	21	14
7. 男女共同参画に関する施策	31	15	15
8. 本アンケートについて	19	8	10
9. 市政全般への要望・苦情	27	11	14
10. その他	16	9	7

最後に，あなたについておうかがいします。

Ｆ１． あなたの性別は次のうちどれですか。**（１つだけに○）**　　全体《N=1,460》

１．男性	38.3	２．女性	58.6

無回答 ･････････3.1

Ｆ２． あなたの年代は次のうちどれですか。**（１つだけに○）**　　女性《N=856》　男性《N=559》

１．20～24歳	3.2	5.2	７．50～54歳	11.8	7.7
２．25～29歳	6.5	8.6	８．55～59歳	13.4	12.5
３．30～34歳	11.7	9.1	９．60～64歳	8.8	10.0
４．35～39歳	10.9	7.9	10．65～69歳	5.6	10.6
５．40～44歳	9.5	7.9	11．70歳以上	11.2	11.8
６．45～49歳	7.5	8.4			

無回答 ･････････････････ － 0.4

Ｆ３． あなたにお子さんはいますか。**（１つだけに○）**　　女性《N=856》　男性《N=559》

１．いる	77.9	66.0	２．いない	21.5	33.1

無回答 ････0.6　0.9

【Ｆ３．で、「１．いる」に○をした方におうかがいします。】

Ｆ３-１． あなたの一番下のお子さんの年齢は次のどちらですか。**（１つだけに○）**

女性《N=667》　男性《N=369》

１．就学前	20.7	18.7	３．高校生以上	58.0	60.2
２．小中学生	18.1	16.3			

無回答 ･････････････3.1　4.9

調査にご協力いただき，誠にありがとうございました。
お手数ですが，同封の返信用封筒に入れて，
２月９日（金）までにポストにご投函ください。

男女共同参画に関する市民意識調査　調査結果のまとめ
平成 19 年 3 月

発行：宇都宮市　市民生活部　男女共同参画課
〒320-8540　宇都宮市旭 1 丁目 1 番 5 号
TEL：028-632-2346（直通）　FAX：028-632-2347
E-mail：u1805@city.utsunomiya.tochigi.jp